

放送夜話 (抄)

日本放送協会

放送開始前後 新聞社が実験公開 最近たった《大風呂敷》 まずマイクに一礼して お茶代は月給さし引き お茶代は月給さし引き 「成送局占領」に拍手 「兵に告ぐ」を書きとばす 「罪は許される」が問題 真空管持って逃げる 昭和一六年一二月八日 「一、
す 親 親
男

目

次

体ごと鐘にぶつかる		プラーゲ旋風の刺戟 弄	放送と交響楽は同い年	ラジオと洋楽	放送と歌謡曲(略年表) 三	ニュースで作る歌謡曲	マイクが変えた歌いかた	哀調おびた、歌が戦中に	レコード歌謡に対抗して	流行歌から歌謡曲へ 三元	ラジオと歌謡曲 ····································	終戦の詔書 三七	(付録)「玉音放送」の予告アナウンス	軍隊まで静まる――八月一五日午後から	放送会館を一時占拠――キラ星のごとく並んで「玉音」の再生 三	陛下も泣かれた――玉音の放送をきく 三元	
-----------	--	---------------	------------	--------	-----------------	------------	-------------	-------------	-------------	----------------	--	------------	--------------------	--------------------	----------------------------------	------------------------	--

7

新 石井光次郎 名 直 東京市政調査会常任幹事/初代の東京放送局常務理事として放送業務を開拓 衆議院議長/放送開始当時は朝日新聞業務局長で、東京放送局理事をかねる。 放送開始前後

徳 Ш 夢 声 漫談・随筆家/放送開始前からラジオ放送に出演、第一回放送文化賞を受く。

木 浦精二 村 毅 司会。NHKアナウンサー/ロサンゼルスオリンピック大会の「実感放送」で有名。 評論家、早大名誉教授/当時は労農党国際部長。『日本放送史』に編集顧問として参加。

新聞社が実験公開

まわりのことだとか、エピソードとかをまじえて読みものにしようというのが、この座談会のねらい 放送の歴史といいますと、『日本放送史』に歴史というものはあるわけですが、その歴史の

です。いわば《社会の中の放送史》とでもいったものです。そこで徳川さん、放送以前の話から……。 **大正一三年 (二四) に上野の池ノ端で、発明品博覧会というのがあったんですが、その時、「無**

線電話」として出品されたのがラジオです。それで当時の人は

徳川

「そんなばかなことがあるか」

「なんだ針金の力を借りずに話がつたわる」

と言ってね (笑)。 説明役が大羽仙外。 後に京田武男アナウンサーと元祖争いのようになりました。

『報知新聞』の企画部長の煙山二郎という人が、いろいろとプロデュースしていたんです。

だから 『報知新聞』の嘱託であった大羽仙外が、アナウンサーをしていたわけなんです。

聞こえてくるんだ (笑)。屋上へ出てぼくらは一一時、一二時ごろレシーバーで聞いた。 放送しかえすというのが非常に自慢でしてね。夜、みんなが寝静まった静かなころ聞くと、わずかに 徳川 **石井** ええ、各社でやったんですよ。当時、私どもは大阪から東京に放送する。そしてそれをまた 京田君が『日日 (甲原田)』でした。あれは各社協力したわけですか。

言葉を世界大戦のときに用いとるんですよ。それが最初のようですね。 軍艦から軍艦へ放送をやっている。それを日本でもキャッチして、その時に日本海軍が放送という ときに調べてみたら、もう大正四年 (一九一五) ごろ日本の艦隊が地中海に行ったときに、イギリスの たんだよ。それで、だれが「放送」という言葉を作ったかということが問題でね。『放送史』をやる 木村 大正一一年(| ḥ) ごろから『太陽』という雑誌に毎月「無線電話」という記事が載ってい

八月三〇日までには、逓信省もこれはやらなければならんというんで実際の調査を完成しておった。と一〇年(二九)、一一年(二九)にはダッとみんな出てきたんですから……。そして一二年(二九)の それが大震災 (震災) ですっかりやけてしまったんです。そういうわけですから、当然機が熟して果 を組み立てて、どんどんやった。この新聞社と素人実験家の公開ということが、非常に全国のアマ 阪の『時事』、『毎日(闘)』、『朝日』。名古屋では『新愛知』。それに続いていろいろの実験家が機械 チュアを刺激しまして、放送というものを開始する機運を醸成した最も大きな原因ですね。 アメリカのKDKAが世界ではじめて放送を開始したのは大正九年(二つ) ですが、それが伝わる 新名 結局、新聞社が実験公開をやりましてね。『朝日 (覇) 』、『日日』、『報知 (覇) 』、それから大

物が熟して地に落ちるような受け入れ体制が十分あったんですな

島浦 大震災の流言蜚語が、放送でもあれば一ぺんにおさまったというような感じは、皆さんに

あったでしょう。

石井

そうでしょうね

放送があれば朝鮮人騒ぎなんていうのはなかったでしょうね。

て、幸いに食料の争奪もなかったというようなことは、無線電信のおかげですけれども、とにかく有 信で急報したものですから、救援物資が時を移さずサーッときましたね。また、大阪から米を回送し

新名 それと同時に、震災の報道が大阪に停泊中の米軍艦にわかって、それからアメリカへ無線電

線なんて有事のときには役に立たんということがわかった。

して生まれ、それを社会が受けいれた。戦後のテレビは、一つのブーム的現象になってしまいました 大正末期、昭和の初めなんか、いい時代でしたよね。そういう中でラジオが新しいものと

けれども、ラジオというのはそれほどでなく、着実に、しかしわりあい急速に広がっていきましたね。 徳川 やはり、震災の朝鮮人騒ぎなんていうものが、民衆の潜在意識にあって、これが速報されて

いたらどんなに安心かしれないという気持ちが、ラジオの効用というものを認識させたんでしょうね。 震災のときに東京の『朝日新聞』は出ないので、大阪から飛行機で運んできたものです。僕

と町中の人間が寄ってきたんですよ。だから、もっとほかに頼りになるものが、もう一つぐらいあっ はあのころ続きものを書いておったから、僕のところへは飛行機で新聞がくるんですよ。そうする

てもいいという気持ちは強かったでしょうね

註

省は、二〇〇一年総務省になった。 主に郵政と通信を取扱う省。一九四九年郵政省と電気通信省とに分かれて廃止された。さらに郵政

(二) 朝鮮人が暴動を起したという流言がとび大勢の人が殺された。

民営論が消えたいきさつ

やっているのかわからない。「ラジオホーンとは、蓄音機の一種なり」って書いてあった(笑)。 スベアリー (俳優) か誰かが聞いている写真があった。それが『キネマ旬報』に転載されたんだが何を 徳川 とにかく、向こうの映画雑誌などに、ホラ貝のようなスピーカーのついたものをウォーレ

島浦 新聞社が放送に非常に熱心だったのは、マスコミの一分野だというようなことでなしに、新しい 形からきたわけですね。

業としてでしょうね。

外国ではどんどん流行っておるものだ。何かわけはわからんけれども、宀つこれをというんでわれ よう、抜けようとしている。それには何か新しい企画はないか。すると、こういう無線電話があり、 **石井** そうでしょう。新聞社というのは何でもかんでも新しい企画のものをつかまえて一つ抜け

われのほうもやったし、各社みんなねらいだしました。

徳川 ミロのビーナスでもうけようというんじゃないですな(笑)。

ソロバンも何もかまわない。これ流行るべきだというんです。その時分は新聞社の数がだ

で民営論だったんですね

を作る出願をした。それに事業家も集まって、結局二〇いくつかのたくさんの数になったわけです。 いぶ整理はされたけれども、まだ一○ぐらいありました。もうネコもシャクシもみんな独自で放送局

徳川 その競争が現在のNHKを成り立たす一つの触媒となったわけですね

島浦 そういうことですね。初めは、その当時の逓信省はやっぱり民営論だったんですね

う別の法律を制定しなければならんわけです。しかしそうすると内務省と逓信省と権限争いが起こ る。新聞の取り締まりと同じように内務省側は必ず口を出すんで、ともかく少々無理して通信とい ころが放送というものは特定人間の意思の伝達ではありませんね。だから、ほんとうは放送法とい 民営論なんです。元来通信というものは、これは特定人間の意思の伝達機関なんです。と

う系列の中に入れちゃった。広義の無線電話と思えばいいわけなんです。

んなものに予算を出してもうまくいくかどうかという懸念もあったんです。それで結局は、 は、もうかるんだか、もうからないんだか、将来どういうふうになるんだかさっぱりわからない。そ めいめい頭にあるわけです。それと、あのころは逓信省の財政が非常に困難で、放送なんていうもの ですけれども、 それで結局逓信省がやると、無線電話は国営ですから、当然放送も国営にするという論が出てくる しかし番組の編成なんていうのはこれはちょっとお役人では無理だということが、 最後ま

島浦 その民営論がどうしてああいう公益法人、公共企業体に変わったんですか。

拾がつかない。これはとても民営ではいけないと結局、最後は官営でなく公営になった。 それは、東京と、名古屋はまとまったんですが、大阪は出願が乱立してまとまらないので収

たんです。それで非常に有力になったんですね。けれども大阪では、どうしてもこれは会社でなく 利を目的としてはいかんという正論をはくんですよ。これに『朝日』と『日日』が東京で賛成しちゃっ 多くの出願者の中に電話協会というものがありまして、これがどうしても公共事業であるから、営

てはいかん、といっておったんです。

島浦 大阪の出願は株屋さんが多かったんですね。

木村 これでもうけようというつもりなんです。だから、なかなかまとまらないはずだ(笑)。 逓信大臣が犬養毅で、これが非常に勢力が強かった。あの人はああいう民主的な人だから、

民間説が初め強かったともいえるようですな。

けて研究させた結果、コーポレーションにした。その委員会の結論はNHKが出来るより早く出て いるが、実際にBBカンパニーがBBコーポレーションになったのは、NHKが公共企業としてス 島浦 イギリスでも初めはBBCのCはカンパニーのCだったんです。それを政府が委員会を設

タートした後ですね

いう論が一応耳に入りやすいですね 新名 そうなんです。アメリカが民営でBBCも民営でした。だから、どうしても日本も民営と

島浦 その時はあんまりもうかるとは思わなかったんでしょう。

まっている、もうかったんですな (笑)。それで三合併をやったんです。借金なしの五○万円の純益で いうのは五○万円でしょう。それに対して五十万円の手持ち資金を持っていて借金は全部返してし 新名 ところがあの時分に土地建物が三十何万円それから機械が二十何万円。 結局、 固定資産と ないですか。

13

すから、 これは大きい。その金で全国に放送局を作ろうというわけでした。

東京、大阪、名古屋の放送局を合併して社団法人日本放送協会を組織した。

卓見だった《大風呂敷》

そこで初代の総裁に後藤新平伯をもってきたんですが、これはだれの知恵ですか。

後藤新平というのは、何でも初代にもってくりゃ喜んでいる人ですよ (笑)。

徳川 後藤といえば大風呂敷だったんですよ。しかし、その大風呂敷が、今は小風呂敷ぐらいでさ後藤といえば大風呂敷だったんですよ。しかし、その大風呂敷が、今は小風呂敷ぐらいでさ そう、こういうふうなものに、まことにふさわしい柄合いの人ですよ

あな。東京駅にしてもあのころに原っぱへこんな大きな駅を建てて、何にするつもりだといわれた。

あれがいま狭いんだから。

そして後藤さんの家へ立ってくださいと頼みに行った中に、石井さんは入っていらっしゃいますよ。 **新名** 後藤さんということを言い出したのは、われわれの伝説では石井さんと煙山二郎さんですよ。

石井 そうでしたね。そのころは復興院総裁をやめて、何もしておられなかった。

それはどうかすると、お役人が天降ってくるのを牽制するというような意味もあったんじゃ

それにああいう人を据えておけば小さいゴチャゴチャしたものは……(笑)。

そういう配慮があってのことだったようですね。

木村 しかし、この人選は最適任ですよね。

体今日でも通用するものなんですね。放送というものは単なる享楽的なものじゃない。国民生活、社 会生活、個人生活というものの中に、非常に影響のあるものだということを喝破している。この演説 が一体後藤さんの大風呂敷か、先ほどの続きで石井さんあたりの…。 さんの司会で「無線放送に対する予が抱負」という大演説をブッていますね。大変立派な演説で、大さんの司会で「無線放送に対する予が抱負」という大演説をブッていますね。大変立派な演説で、大 島浦 それと、もう一つ驚くのはその後藤さんが、東京放送局の仮放送の一番初めの日に、新名

いやいや僕はそこまでこしらえない (笑)。新名さんじゃないの。

新名 実は、僕が書かされました。

ですか。 会者なんですよ。これは放送における司会業の第一号ですよ。そうですか、新名さんが原稿の作者 島浦 **新名さんが書かれた? そうですか。新名さんは、仮放送開始のときの番組を見ますと司**

思いますが、三分おきにちゃんと印しをつける。何分でここまでいかなくてはならんという予定を書 くんです。そして、それが少し早かったら向こうからパッと何か合図をするんです。そうするとそ すよ。初めからやっていたのは偉いもんだな。 してはいけないというので、日本紙で傍でやっても音のせんような紙を選ぶとか、用意周到でしたね。 の次は少しゆっくりして、第二段目のところで調節する。原稿も巻き紙で、あんまりさらさらと音が 徳川 私が書いて、後藤さんの周囲の人が少し手を入れたんです。あれは一五分ぐらいかかったと われわれが後年ガサガサって音がして失敗をして、やわらかい紙を選ぶようになったんで

私も物語をやるとき行数を全部数えて、それを放送時間で割って、三分ごとに赤い線を引いて、ス

言っておりましたね。

ŀ 新名 ップウォッチを横目で見ながら練習したもんですよ。 後藤新平さんの大風呂敷についてはエピソードがあるんですよ。

を作って……、 後藤さんが真意というものを話されたんです。それは、シナ (国のこと) 大陸の中央に大電力の放送所 のは、これはいいことを考えたとでも言ってくれそうなものですが、「だめだ」という。そこで結局 んです。こっちはよっぽど進んだつもりで、後藤さんは調査好きですから、ラジオ放送研究所という 研究所の計画を作って、持って行った。そしたら「これは何だ、もっと大きなことを考えろ」という それは大正一五年 (昭和元年) の正月でしたね。放送局の予算を編成する時期になって、ラジオ放送

石井 そりゃ、超大風呂敷だね(笑)。

んから、 東亜 (ホッド) 全体にそれが聞こえるような大きなものをつくれ。それには収入があてになら 日本の放送から生ずる利益でそれをやれというわけです。

徳川 それは必ずしも風呂敷じゃないですね。

することを計画しておりましたので「そりゃ、後藤さんとしては当然の計画だったな」ということを さんに話をしたんです。ちょうどその頃正力さんは、台湾か何かで放送を開始する技術上の援助を

註

東京放送局仮放送開始(大正十四年三月二二日)における後藤新平総裁演説の一部

前

さて諸君、 放送事業の職能は少くも之を四つの方面から考察することが出来ます。

は文化の機会均等であります。

幼男女と各階級相互との障壁区別を撤して、 者が受くる便益を他の階級の者が受けざる場合も亦無きにしもあらず、然るに我がラジオは、 て諸種の文化的利益を享けつつある間に、 従来各種の報道機関や娯楽慰安の設備は、 家にある者は文明落伍者たる場合がありました。 都会と地方とに多大の懸隔がありました。 恰も空気と光線との如く、 あらゆる物に向ってその電波 御主人は 或る階級の 都鄙と老

所謂一家団欒家庭生活の真趣味を味わう事が出来るではありませんか。
『おきる ださん でありました。今や電波の放送に依りて家庭を無上の楽園となし、求むるのが常でありました。今や電波の放送に依りて家庭を無上の楽園となし、 する場所なるかの如くに考えられていたのであります。 第二は家庭生活の革新と申しましょうか。従来の家庭なるものは、往々にして単に寝る処か単に食事 かかるが故に慰安娯楽の途は、 ラジオの機械を囲んで 之を家庭 の外に

の恩を均等に且つ普遍的に提供するものであります。

放送の聴取者は、 |は教育の社会化であります。

入し国民の常識を培養発達せしむる事は、従来の教育機関に一大進歩を与うる所でありまして、 衆に対して、而も家庭娯楽の団欒裡にある人に向って、眼よりせずして耳より日々各種の学術知識を注 の効果の顕著なるのは、 でんらんり
一つ後数年を出でずして幾万幾十万に達するでありましょう。斯くの如き大多数の民 限られた講堂教育の到底企て及ぶ所ではありません。

第四は経済機能の敏活という事であります。

話時代の経済機能に対し、 らるる事に依って、 外経済事情は 勿論、 一般取引の状態が益々活発に運動する事は申す迄もありません。 株式、 ラジオは正に一大革新を与うるものであります。 生糸、米穀、其他の重要商品取引市況が最大速力に於て関係者に報道 (後略) 従来の有線電信電

17

もってきそうなものだけれども、私立大学の高田早苗をもってきたところがおもしろい。民主的に 木村 最初の学者の講演は早稲田の高田早苗博士ですね。あれは官吏 (帝国大) の井上哲次郎でも

島浦 そのころの番組担当は煙山さんですか。

いかなくてはいかんという考えが、初めからあったとみえますね。

新 名 試験放送の時分は煙山君と若目田利助さんです。二人とも理事なんですが、 理事が放送部

長の職務代理で番組を編成しておったのです。

なっていたんです。ところが時間がきても寅右衛門さんがこないというんで、大騒ぎした。 私どもは常磐津と長唄と清元の区別がわからないもんですから、初日に歌沢寅右衛門が出ることに私どもは常かず、『紫光寺』

が向こうに女の人がすわっておる。

「寅右衛門は私です」…… (笑)。

木村 しかし、よくあれだけの番組が組めたと思うね。 あの頃僕は労農党の国際部長をしていた

んで、放送局からは呼ばれなかったけれど……。

もまた『朝日』と『毎日』との間が難しかったらしいですな。 島浦 大阪では初め、 番組は『毎日』と『朝日』とが交代でやるということになりまして、これ

交代でやることにして、実際は一日で止めちゃったんですな。

向こうがあれを出したら、 おれのほうはもっといいやつを出さなければいかんということ

ニュースだけはずっと新聞社提供でしたがね たちまちできなくなっちゃったらしいね

島浦 ところで、後藤さんが放送の四つの職能というのを言っておられる中で、ニュースの速報

というのが出ていないんですよ。これは新聞社に遠慮したんじゃないですか。

のことをお前のほうでやれというような空気が、相当新聞社の中では強かったんだ。 放送を助長すべきでないという議論まであった。それからニュースはわれわれに任せておけ、ほか ですよ。どんどんやられたら、こっちは活字を拾っている間に、ニュースではなくなってしまうから、 **石井** 入らなかったのは、新名さんの新聞社に対する配慮ですな。その時分はなかなかもめたん

あのころとしては、もっともな傾向ですね。

だと主張していたんです。 りほか、しょうがないじゃないか。ラジオで聞いたって、目で確かめなくては承知しないのが、 んだから、だめだといったって国民が承知するわけはない。むしろそれ以上のことを新聞がやるよ **石井** ええ。ところが、われわれは、そんなことを言ったって、放送がはじまることが現実にある 人間

その時どこかの事件を、ちょっと臨時放送か何かでやったことがありましたね。

あれは州崎の大火。

番いい例だということを、ぼくらはよくいったものですよ。 石井 そうそう。すると、 翌日の新聞をみんな待ちどおしくなったということがあった。 それが

こんなことで相当初めはもめたから、最初の総裁の演説あたりは、新名さんも遠慮していますよ(笑)。

んですよ (笑)。

聞かなくても、新聞社のお古と同じようなことだったんですね。シナ事変ごろから新聞社より先に なるようになって、ほんとうに待ちかねて聞くようになりましたね。 重要性を持ってきたのは、シナ事変ですから、それより前まではラジオのニュースなんか聞いても 木村 やっぱりラジオのニュースをどうしても聞きたくなったというほど、ラジオのニュースが

言

(一) 一九三七年七月七日の盧溝橋事件を契機とする日本の全面的な中国侵略戦争。 日支事変、 日華事変と

まずマイクに一礼して……

です。 徳川 私は芝浦の仮放送の二日目でしたかね。二日目の出演者が六代目菊五郎と、 神田伯山と私

石井 何をやられたんですか。

入っていて度胸が定まったから、ヨハネのせりふなどを大声でやったら、その方はあんまり聞えない 肉抜きでソースだけさし上げるようなものだ」と、少しふるえながらお断わりを言った。その方は こしちゃって、さっぱりだめ。その前に、初めてのことだし、「映画なしでしゃべって、ビフテキの 「サロメ」を読んだんです。ところが大きな声でやったからディストーション (音o) を起

しいね。 木村 尾崎行雄なんか演説調に手を振るんで、前にあるマイクロフォンをぶっとばして困ったら

徳川

講釈師か、浪花節だったか「エイッとばかりに真向上段……」というんでマイクロフォンを講究師か、独居的がで

Ŋ っぱたいたというんだが…… (笑)。

当時マイクロフォンは貴重品でしたからね

毎朝ね、アナウンサーが「どうぞ、きょうも機嫌よく」って拝んだもんだ (笑)。

そのころは芸人で、舞台でやるのはいいが、ラジオには出ない、という人はたくさんいたわ

徳川

けでしよう。

ちゃうというんです (笑)。 たくさんいましたよ。ことに邦楽の家元なんていうのは、 あれへ出ると寿命を吸い込まれ

愛宕山の仮放送のときには、音楽伴奏というものは初めから付いたものなんですか

初めから付いたんですよ。音で少しごまかさんと、どうも穴があいていかんだろうと思

って……。

徳川

修道院の場をやりました。それから二度目にやったのは、ポーの「赤き死の仮面」というので、これ だから、 **仮放送で最初にやったのは「シラノ・ド・ベルジュラック」を、トリオ (奏章)** の伴奏で

もトリオの伴奏でやりました。

木村 へえ、それはまた、高級なものをやったんだなあ。

徳川 大高級ですよ。 「宮本武蔵」 なんていう通俗的なものはやらなかった (笑)。

ところで石井さん、ラジオ版というのができたのは、 やっぱり『読売』が一番初めですか。

ラジオ番組をはじめて載せたのは正力君ですよ。ほかの新聞も多少は紹介をやっておった。

敬服しますね

しかし、 あれほど思い切って全ページをさいたのは、正力君のところだけです。

なのはありましたけれどね。 木村 あれがなくてはわからないんですからね。『読売』が始める前に、 日刊で専門の新聞みたい

出したものですよ。みんなそれを見ながら聞くんですから、よくわかりますわね 新名 『ラジオ新聞』という色のついたのでしょう。 あれは新内でも長唄でも何でも文句をみんな

先ほど申し上げた後藤新平さんの演説の中に、教育の機会均等なんていうことが書いてあ

るんですよ。

石井 まさに均等ですな。

団欒の場になるんだということも言っている。 島浦 それから放送が出来ると、 家庭というものはいままではただ寝るところであったが、

一家

外へ拡げたが、その後テレビが始まって、また家庭へ帰ってきたといわれていますが、とにかく放送 というのは大変な影響力をもっていますね。後藤さんや新名さんがそれを見抜いておられたのには とオペラなんかばかり見に行ってたやつが、家庭の茶の間に集まるようになったというのがある。 島浦 **木村** フランスの社会学の本に、ラジオとテレビがフランスの家庭を変えたのは、みんな夜になる 家庭の大変革だと書いていますね。アメリカでも、自動車の普及が人間の生活を家庭から

徳川 とにかく、 後藤さんのは中味のある大ぶろしきですね。いろいろ入っていたんですね。 金

銀さんご……(笑)。

(一) 尾崎行雄は政党政治家。号は咢堂。第一議会以来連続二五回衆議院に議席を占め、第一次護憲運動で 判して告発された。 活躍し、「憲政の神様」と称されている。東京市長、大隈内閣の法相。太平洋戦争の時、 翼賛選挙を批

大学講座も計画

ですよ。 やったんです。これはラジオのPRと、電気に関する知識の普及という、いろいろな含みがあったん 新名 石井 最初、各女学校と中学校へずっと人を出してまわしまして、鉱石式の組み立ての講習会を 初めの時分の受信機は鉱石式というんですな。「聞こえる、聞こえる」と騒いだものですね。

の拡張の意味も持っていたでしょう。大きなもので、一人じゃ持っていけないように重かったですね。 徳川 新聞社で買った時分は、舶来のものなんで一、○○○円ぐらいしました。それを持ってまわ ラッパがつくのは高かった。いまのカラーテレビぐらいの相場がしたんですよ 新聞社でもラジオというものはこういうものだと、地方へ宣伝にまわったものですよ。新

よ。広津和郎君はそれを聞いていて、足をひかれてけがしたんでしょう。一つの町に一軒ぐらいで したね。昭和四年 (二九) になっても宮武・小川対立時分の早慶戦のラジオといったら、大変なもの でしたからね。 木村 東京の町でもあるのは酒屋か何かで、そこでやると早慶戦をつければ店一杯きたものです

ると実に大変な人気でしてね。押すな、押すなで聞きにくるんですよ。

23

そもそも力こもれる……」というふうに聞かせたんですからね 松内則三さんていうのが、うまいんですよ。あれは芸でしたね。大ダレのくだらない試合が素があります。

石井 女子のアナウンサーもいましてね。第一代は何といいましたっけ。

緑川秋子女史ですね。非常に美人でなかなか才女でした。

料理の講座を開いたところが、男の料理の講話員はどうも間違いが多くていけない。ちょっと何

を入れて、ネギを何本入れて、塩を一つまみというところを、一にぎりとやっちゃった。どうしても

婦人アナウンサーでなければいけない。

それから子供の時間なんかも、やっぱり男だと、ちょっと言葉が荒過ぎるから、やっぱり女性がい

いだろうということで、女史を入れたんです。

大阪には巽京子という人がいましたし、名古屋には加藤綾子という人がいました。
たっなきょうこ

何かそ

れぞれ女の人の初代のアナウンサーというのは有名ですよ。

はすぐやめさせられたけど(笑)。 木村 **新名** さっき木村さんから高田早苗博士の話が出ましたが、本放送が始まる前に私は、 何しろ高橋邦太郎君 (大学教授) が料理の放送をやっているんだから……。 投書したら高橋君 教育放送と

行ったんです。 いうことはどうしてもこれは大学の援助がなくてはいかんと、一番最初高田先生のところへ相談に けないから、 慶応にも行った。東大で古在由直総長にも会った。 田中穂積専務理事もその席に参加しまして、話が進んで行った。早稲田ばかりでは

そういうわけで早稲田、慶応、東大の三大学の援助を得て、ユニバーシティ・エキステンションを

やろうという計画だったんです。

の大学教育放送が出来ていたでしょうね。 とうとうそれは、実現しないでしまいましたけれども、やっておったら、今日とまた違った形式で

木村 それは日本の教育の現状を大きく変えていたかも知れないな。 惜しいことだったなあ。

お茶代は月給さし引き

ども、そのころ薄謝協会という名前がありましたか。 新名 徳川さん、あなたはNHKから一番最初何がしか謝礼をおもらいになったんでしょうけれ

新名 最初は金一封でした。

よ。とにかく公共事業である……(笑)。

徳川

だいぶたってからですよ。

初めは謝礼などもらうのはどうかしていると思ったくらいです

送技芸員を嘱託すという後藤新平の名前で、厚い辞令書を送ったら、みなさんが非常に喜んでね。そ のころは放送に出るのがご自慢なんですよ。 五十何人の放送技芸員というのを嘱託しました。各流の一流の人を何人かずつで、その方には放

かない。 そうすると放送部員の分は月給から差し引かれるんです(笑)。 その頃の話ですが、放送の先生がこられると放送部員も一緒にお茶を飲まないわけにはい

徳川 そりゃ、みごとだ。

というので、お金や物質的には報酬を出しませんけれども、ただ感謝の意を表するために、煙山氏が 新名 ラジオに出てくださる技芸員は、みんな公共のために犠牲を払っ出ててくださるんだから

下足を揃えるし、私はお茶を出したものです。

石井 とにかく、芝浦から愛宕山の時代には、いろいろの手を考え、それを実行するのにみな必死

でしたね。 でゆくぐらいのことはしょっ中ありましたからね。

新名 そうですね。放送局にいい敷地があるとなれば、 ソレッと理事会をほうり出して見にとん

註

(一) 日本放送協会 (Nippnn Hoso Kyokai) の出演料が安いので、NHKをもじって、Nippon Hakusha

Kyokai =日本薄謝協会と呼んだ。

二・二六事件とラジオ

新 名 直 東京市政調査会常任幹事/初代の東京放送局常務理事として放送業務を開拓 衆議院議長/放送開始当時は朝日新聞業務局長で、東京放送局理事をかねる。

木 徳 村 Ш 夢 声 毅 漫談・随筆家/放送開始前からラジオ放送に出演、第一回放送文化賞を受く。 評論家、早大名誉教授/当時は労農党国際部長。『日本放送史』に編集顧問として参加。

司会。NHKアナウンサー/ロサンゼルスオリンピック大会の「実感放送」で有名。

新聞敗れたり

浦精二

事件は非常に大きなきっかけだった。ニュース放送というものの価値を高からしめたということは いますが、今回は特に放送と結びつけて考えたいと思います。放送、ことに報道放送にとってはあの いえるわけでしょう。 島浦 二・二六事件 (六年) は事件そのものや背景、あるいはその影響など、いろいろな話もござ

ていたし放送でなければ、東京の状態が全然わからなかったんです。 宝田 あの放送は、全国で一番聞かれた放送じゃないかな。あの時は東京の電話は全部とめられ

まして、東京へ電話し、大事件らしいということで、あわててBK(JOBK)の幹部の処へ電話し つも流れてくる放送が流れてこないんです。どこかで故障しているのか、全然わからな 島浦 私は偶然ですけれども、前の晩、大阪で泊りだったんですよ。朝起きましたが、東京からい いので驚き

た。AK (東京放送局) にも逓信省からの禁止事項が来、それで初めて知ったわけですね。 んでしょう。 ウンサーが前の日の泊りで、ラジオ体操の江木理一アナウンサーが来ていてその人たちが連絡した 山本照アナ

宝田 そうです。

ですね。われわれは戒厳司令部記者クラブにおるわけですが、デスクから電話がかかってきたんです。 **石橋** 結論みたいですが速報性の上で新聞敗れたりということを感じたのは、二八日になってから

「一体、きみたちはそこにたくさん詰めておって、何をしているんだ」

「何をしているとは何だ」

「とにかくラジオを聞け、きみ。 刻々といろいろなニュースを流しているじゃないか。 ところがき

みのクラブからは何もこない」

というんだ。

ちょっと弱りましてな。それでスポークスマンの松村秀逸少佐に

るなんてあんな馬鹿なことはないじゃないか」。 「新聞班けしからんぞ。われわれクラブに対して何も出さん。ラジオにだけニュースを配ってお

そうしたら松村は

いまは平時と思うかっ、きさま」(笑)。

腰の小さな拳銃に手を触れながら、

「いまは戦時なんだぞ」

で配達と同じような行程を経るわけでしょう。

というんですよ。

れわれが出すとなると、電話で本社に吹っ込む。工場へ行って活字を組む。号外を出す。後は全国 **の時に、これはやはり速報性においては新聞は放送にはとてもかなわんなと思いましたよ。わ**

送する。それはもう太刀打ちできません。ことに刻々情勢が変化していくわけですから、新聞に頼っ ラジオはなるほどあそこの戒厳司令部の中に放送室がありましたな。そこで書いたやつをすぐ放

ておれんわけです。あれでもうほんとうに速報性において「われ敗れたり」ということを痛切に感じ

ましたね

帰順勧告にラジオを使おうというプランがでてきたんです。 **大久保** それまで放送ということは、ちっとも考えなかったんですよ。二九日の朝になってから

思いますが、どうですか。 くる。放送局は各クラブに記者というのはいないんですから、素朴だけれども、自主取材の初めだと かに戒厳司令部の何か発表をやったんですね。その時に反乱軍と初めて呼んだ放送をやっています。 島浦 二八日に戒厳司令部に大体機械は入っている。そこで実際には、その日の夜九時何分(ホパ) 放送局は初めての自主取材をやっているんです。局員が、ほうぼうへ行って状況を見ては帰って

しらえたのは、 宝田 放送局としては総合的な自主取材の初めです。各方面からデスクへ情報を集めて原稿をこ あれが初めてです。

その時に宝田さんの命令で軍人会館(現在の九段会館)の警備司令部へも、警視庁は錦町署へ

石橋

移ったからそっちへも行っているでしょう。

材に行っているんですよ。その当時のことがわかるような気がする。 そういうのはいいんですが、NHKの報道の記者諸君が、同盟通信へ行ったり、(『) 電報通信社へ取

宝田 同盟だの、電通だのというのは、案外取材ができなかったんですよ。

休んでいるとか、手形交換所がどうだとか、日銀だの、三井銀行だとかが平常どおり業務をしておる 二六日にいろいろ臨時ニュースもやっておりますが、お昼のニュースというのが、 取引所が

というニュースしかないんですからわからないんですよ。 中村 取引所が休むということで、大きな事件があったということを想像する以外にないんです

からね。

島浦 経済市況の時間毎に、 取引所が休んでおるから、経済市況の放送はないというアナウンスし

か出てこないんだ。

警備令が初めて出た。しかしこの時には事件内容はわからないんですよ。八時三五分の臨時ニュー 初めて夜七時の定時ニュースの時に、 警備司令部の発表として、官庁公示事項ということで、

スで初めて、 岡田首相以下を襲撃というのが出てきたわけですね。

終りですね。 たという発表をやったんですが、それがわれわれの送った最初のニュースですよ。それで第一日は

九段の借行社 (一八七七年創立) の玄関先で初めて八時三五分にですか、例の決起行動

29 **#**

中村 一般には「決起部隊」だけれども、反乱軍部隊と言ったのは後だね。

討

- (一) 主に郵政と通信を取扱う省。一九四九年郵政省と電気通信省とに分かれて廃止された。さらに郵政省 は、二〇〇一年総務省になった。
- (二) 二〇一一年三月一一日の東日本大震災による天井の一部が崩落し、死傷者をだしたことから、 月一二日廃業。取壊しが決定。 同年四
- (三) 一九三六年一月、日本電報通信社(電通)の通信部門と新聞聯合社が合併して、同盟通信社が誕生した。 〔四〕 一九○一年創立の日本電報通信社のこと。一九三六年同盟通信社に通信部門が合併されるに伴い「電 通」として広告代理業専業となった。
- 五 と高橋是清、教育総監渡辺錠太郎が殺害された。 岡田啓介首相、鈴木貫太郎侍従長、斉藤実内大臣、 高橋是清蔵相、 牧野顕前内相が襲撃され、

気配はわかった

かって何かあったんだということのようですね。太平洋戦争開戦(一元月八日)の時よりもこの四日間 えていますね。地元だからね。 ないですね。臨時ニュース以外は大体予定どおりやっています。夜になって変わっていますけれど の東京のほうが、放送番組の入れかえが激しいんですよ。一二月八日というのはわりあい変えてい 島浦 これは朝から経済市況が休んだりするから変えざるを得ないんですけれども、ほとんど番組を変 たまたま前の晩から大雪で、東京市民も朝、何も知らずに普通に出てきて非常警戒に引っか

戦時警備令が下令された」というようなニュースを出している。事件の内容についてはそれから間 石橋 二六日の午後七時に東京警備司令部が第一回の発表として、「本日午後三時第一師団管下に

れば、内外重大危急の際、元老、重臣、財閥 (軍閥)、官僚、政党等の国体破壊の元凶を芟除 (焦る) し、 もって大義をただし、国体を擁護せんとするにあり。右に関し東京部隊に非常警備の処置を講ぜし 左記個所を襲撃せり」というのをやりまして「これらの将校らの決起せる目的は、その趣意書によ **もなく、午後八時一五分に陸軍省発表で、「本日、午前五時ごろに、一部青年将校 (四八三人一) などが、** められたり」という発表が、事件の内容に関しては第一回の発表ですね。

島浦 決起部隊の理由などを詳しく書きましたね。

石橋 ただ決起趣意書には軍閥というのが書いてあって、陸軍省発表では軍閥をぬいて、 財閥と

いうのがくっつけてあります。

られ、それぞれ二七日入港の予定なり」というようなのを、やっていますね。 海軍省も発表していますね。「第一艦隊、第二艦隊は、東京湾及び大阪湾警備のために出航を命ぜ

れで石橋さんは前の晩から決起することをご存じだった……。 石橋さんのお書きになったものを見ますと、山口 $\binom{-1}{m}$ 大尉というのが出てきますね。そ

石橋 あのころは、ほとんどわかっておりましたな。

島浦 大久保さんたちの軍の中でも、大体の気配はわかっていたんですか。

大久保 ええ、気配だけはね。

たんです。開廷して真崎大将がしゃべるのかと思ったら、一○分ぐらいたったと思ったら法廷から たんです。二五日には真崎前教育総監が出廷し、同時に秘密裁判になってわれわれも出されちゃっ 石橋 僕は当時、相沢公判 (相沢三郎中佐が永田鉄山軍務局長を刺殺した事件) (八月二二日) を担当しておっ

出てきちゃった。 一体、何があったかさっぱりわからんわけです。

うちに西田税(死刑)が和服で、久留米絣か何かを着まして、いつもいかつい髭がありましたが、そにとなっま(L) の髭を剃っていましてね。 川哲也のところへ行った。めしを食っていけやというわけで、二人で食べておったんですよ。その それでその後、赤坂の歩兵一連隊の前にいた、民間人として無期 (牛で無期禁固になった) になった亀

亀川に

門の前の竜土軒へ集まっておる」 「事態はいよいよ迫った。連中はいくら止めろ、止めろと言ったって、止めそうもない。 みんな衛

という。そしてぼくを見て、

「どうです、行って連中の話を聞きませんか」

なんていうから、いや僕は社に用があるからと言って帰ろうとしたところ、免官になっていた村中孝

次大尉が軍服を着てやってきましたよ。その時に亀川が、

と言ったというんです。

「お前たち金を持っておるか」

「いや、金なんか要らん」

「金を要らんわけがないじゃないか」。

「いや、日本銀行を占領すればいい」(笑)

といったそうだ。村中の来るのと入れ違いに社に帰ったんです。まさか、あんなでかいことをやる

とは思わなかった。社に帰って、

といっても、本気にされないんだ。「あいつら、あしたの朝何かやるぜ」

人会館へ行けというので軍人会館の中の借行社へ集合した。だから軍刀やピストルを取りに帰宅し 勃発するその日まで、 われわれは知らなかったんですよ。 普通に出勤しておりました。

たのもいた。僕はサーベルで通したんだが……。

幸楽(田町の料亭)へ行っていますね、 島浦 翌日の二七日になりまして、片方では戒厳令が出て、 いわゆる反乱決起部隊は山王ホテル、

精神は陛下に認められたんだと、意気軒昂たるものだったんです。 をしろという命令を受けている。そうするといわゆる反乱軍でも何でもないわけですよ。 の趣旨は「天聴 (ஈタド) に達したり」というふうなことを言ったわけです。だから連中もわ 軍大臣告示というのを各決起部隊のところへ持っていって読み上げた。その中に、 司令官になったのは、 師団管下に出て、あそこら辺におった決起部隊は歩兵第一連隊長指揮下に入って麹町地 大体決起したのが二六日の午前五時ですね。それで例の軍事参議官が宮中に集 同志の香椎浩平中将である。皇道派ですからね。 しかも、 その日に戦時警備令が第 お前たちの決起 まって、 翌日 区 ñ の警備 |戒厳 ħ

非常に強くなってきて、例の夜の戒厳司令部の発表では、決起部隊から騒擾部隊という名前に変わって いますね。そして、日比谷付近の住民はみんな避難しろという第一回目の命令 (二九日午前八時三五分発) 二八日になってまた雪が降ってきましたな。そして形勢が逆転してきて、連中に対する風当たりが

が 沿出た。

八紘一宇を完うするの国体に存す。此の国体の尊厳秀絶は天祖肇国神武建国より明治維新を経て益々体はのこうのです。またと、謹んで惟るに我が神洲たる所以は万世一系たる天皇陛下御統帥の下に挙国一体生成化育を遂げ遂に 昭和十一年二月二六日

では、大危急ででではん。 大危急のにして国体破壊の不義不臣を誅戮し稜威を遮り御維新を阻止し来れる奸賊を芟除するに非ずし大危急のにして国体破壊の不義不臣を誅戮し稜威を遮り御維新を阻止し来れる奸賊を芟除するに非ずし大危急の間一触即発して祖宗遺垂の此の神洲をいるようでは、大き見るより明かなり。内外真に重との間一触即発して祖宗遺垂の此の神洲をいるようによって、上によってを見るよりでいる。 支、英、米との間一触即発して祖宗遺垂の此の神洲をいるようには、「大き」を見ることものでいる。 き等は最も著しき事例にして、その滔天の罪悪は流血憤怒真に譬へ難き所なり。中岡、佐郷屋、血盟団干犯至尊兵馬大権の僭窃を図りたる三月事件、或は学匪共匪大逆教団等の利害相結んで陰謀至らざるな つて今尚些かも懺悔反省なく然も依然として私権自慾に居つて苟且偸安を事とせり。の先駆捨身、五・一五事件の憤騰、相沢中佐の閃発となる寔に故なきに非ず、而も幾度の先駆捨身、五・一五事件の憤騰、相沢中佐の閃発となる寔に故なきに非ず、而も幾度 の生成化育を阻碍して塗炭の痛苦を呻吟せしめ随つて外侮外患日を逐うて激化す。所謂元老、の生成化育を阻碍して塗炭の痛苦を呻吟せしめ随つて外侮外患日を逐うて激化す。所謂元老、 制を整へ今や方に万邦に向つて開顕進展を遂ぐべきの秋なり。 然るに頃来遂に不逞凶悪の徒簇出して私心我慾を恣にし至尊絶対の尊厳を藐視し僭上之れ働き万民 財閥、 官僚、 政党等はこの国体破壊の元兇なり。 倫敦軍縮条約、並に教育総監更迭に於ける統帥権に外権外患日を逐うて激化す。所謂元老、重臣、軍 而も幾度か頸血を濺ぎ来

を斬除して彼の中枢を粉砕するは我等の任として能くなすべし。 我等同志は、将に万里征途に登らんとして而も省みて内の亡状憂心転々禁ずる能はず。君側の奸臣軍賊恰も第一師団出動の大命渙発せられ年来御維新翼賛を誓ひ殉死捨身の奉公を期し来りし帝都衛戍の『ポント』 臣子たり股肱たるの絶対道を今にして尽さずんば破滅沈淪を翻すに由なし、茲に同憂同志機を一にし

皇祖皇宗の神霊、冀くば照覧冥助を垂れ給はんことを。

北一輝と親交のあった軍人。二・二六事件の首謀者の一人として逮捕され、 翌一九三七年銃殺刑に

かつて東京都麻布龍土町の歩兵第一 連隊前にあっ た明治時代開業の西洋料理店。

処せられた。

一、蹶起ノ趣旨ニ就テハ天聴ニ達セラレアリ。

二、諸子ノ行動ハ国体顕現ノ至情ニ基クモノト認ム。

三、国体ノ真姿顕現

之以外ハーツニ大御心ニ俟ツ。

五 旧陸軍内部の一派。天皇中心の国体至上主義を信奉。 直接行動による国家改造を企て二・二六事件を

「放送局占領」に拍手

起こすが失敗し、一掃された。

起して、 北海道は冷害がひどくって娘さんを売ったりしていた。世の中は絶望的だったでしょう。そこへ決 中 村 財閥・軍閥や政界の腐敗を浄化するというんだからね。同情する閣下もおられたでしょう。 とにかく国民は一体に同情的だったんですな。 あの頃は汚職はあいついで起こるし、

石橋 二八日の夕方には、 幸楽の前に安藤中隊が雪を固めて演壇をこしらえて、その上に少尉なん

かの連中が立ちあがって

の際われわれは重臣 現状はどうだ、 われわれ庶民は塗炭の苦しみ(ような極めて苦痛な境遇)を舐めているじゃないか。 ・財閥・軍閥などを倒して昭和維新を敢行しなければならん」

というような演説をやってる。そうするとあの辺を取り巻いている連中が

「やれやれ

とカ

「昭和維新万歳_

などと同調している。この中隊は下町のあんちゃん連中なので人気があったんですな。

というんだ。それをだれか聞いていて、あわてて愛宕山へ駆けつけて、大変だというんで、それでというんだ。 演説で「放送局占領」と言ったら、みんな拍手喝采したそうですよ。その演説を放送でやれ

警備がはじまったんですね。

山竜次業務局長が戒厳司令部へ行き作間少佐と話して、軍の発表は重大問題だから、どうしてもアナ 宝田 そうです。戒厳司令部へ連絡して騎兵第一連隊がきました。 その前、二八日に放送局

石橋 あれはいいことだったな。

ウンサーがやらなければだめだということを申し入れていますね。

令部へ連れて行かれるわけでしょう。二八日の午前中に機械据えつけのほうは終わっています。 島浦 大変な見識だったと思うんですよ。放送局側からいえばね。そうなって中村さんが戒厳司

松隈君 (アナウンサー) が先に行って、成沢報道部長がかわれというんで、成沢さんとぼくで

戒厳司令部へ、マイクロフォンが着いた二八日の昼ごろ行ったんです。

島浦 午前一一時ごろに完了したその後に、中村さんが行ったわけですね。それから「兵に告ぐ」

までだいぶ間があるんだよ。

戒厳司令官下につけたわけです。

はニュースは出ていたが、新聞社にも発表はなかったんでしょう。 二九日だからね。ただどんな材料があっても放送するわけにいかないんだ。山 (ஜ宕山) から

石橋 ほとんど発表はないです。ラジオを聞いて号外なんかを出していた。

自動車がやっと通れるくらいでした。それで新橋から、昭和通りへ出て、万世橋から戒厳司令部へ 行けないんですよ。山の手のほうから避難民がどんどんくるし、警視庁は反乱軍がいるし、雪で道も それ

こったので、一時間半ぐらいかかった。交通も途絶状態でした。

島浦 撃ち合いをするという時、山手線を全部止めたり、その辺の市電も全部止まっていますね。

東海道も品川で折り返しだ。

危険だから畳の下へ隠れろとか、音のする反対側にいろとか、そういう時には何かやるん

じゃないかと、ちょっと緊張したね。 島浦 丸の内のこの辺を中心にしたところを背にして、箪笥の陰に隠れろとか……。

件発生後三日目、二八日の夜で、反乱軍がちっとも帰順して来ない。しかたなく奉勅命令を仰いで、 **大久保** 二・二六事件の中では、中枢部が動揺させられたことが一度だけあったんです。それは事

二九日午前九時を期して攻撃開始だ。在京部隊では足りないから水戸や宇都宮、甲府、 仙台まで集め、

- 歩三 (_{三連隊}) の残留部隊が反乱軍に投じた」

「市内各所で暴動が起こりつつある」

修羅場になっていたでしょうな。それで鎮圧どころか暴動になっていたかも知れない。 などとデマがとぶ。これで司令部は動揺したんです。もし反徒が足もとから蜂起すれば、 司令部は

石橋 そんな雰囲気があって、結局刻々住民に事実を知らせるためにも、大いにラジオを活用した

挂

という結果になったんでしょうな。

(一) 当時NHK東京放送局は東京都港区の愛宕山にあった。

「兵に告ぐ」を書きとばす

て、二九日には一般の講演とか演芸はむろんやめて、ともかく臨時ニュースを夕方まで頻繁にやった んですよ。最後に終わったのは夜になってからだ。 二八日から、だんだんとさっきのお話のように形勢が変わってきて反乱軍になっちゃっ

「兵に告ぐ」というのを初めてやったのは、朝の八時四八分と記録に残っているが、そこで復唱

任ある大将が八人缶詰になっていた。私はその中に飛び込んで、「戒厳司令部の大久保少佐でありま 段坂を上って行ったとき、ハッと気がついたことがあったんです。借行社の別館に、事件以来、責 す」と名のって攻撃開始を閣下方から司令官に延期してもらってくれ、と頼んだんです。私の頭では、 大久保 たまたま私は熱があったうえ、三日も眠っていない。頭を冷そうとぶらっと外へ出て九 39

うことです。それで夜明けまでの数時間に、準備して、同僚三名と協力してビラの原稿を書き、『朝 日』の記者にたのんで三万枚を朝六時までに刷ってもらい、立川の飛行場に戦闘機三機の手配をした 飛行機と戦車を利用して兵に対するビラをまいて、と説明して、了承をうけた。午前中待とうとい

ただ申訳ないが、その時にまだラジオのことが浮かばなかった。

私の上官の根本大佐が深刻な面持で聞いていましたよ。根本大佐が何か感じて 頃です。反乱軍の家族が四、五百人、連隊へ詰め掛けて息子たちをどうしてくれると怒鳴っていると 果もわからない。もはや万策つきた、と思っていたら麻布連隊の司令官が飛んできた。朝の八時半 いうんです。市民の暴動になりかねないんだ。戒厳司令部は何しているんだ、とドナリ込んできた。 **大久保** ええ。ところがビラをまいても大部分は風にのって宮城の方へ流れちゃった。戦車の効 中村 それまでは将校にばかり勧告をしていた。それを直接兵隊に呼びかけようというわけですね。

大久保はおるか」。

私がそばへとんでゆくと

「君、すぐにラジオ放送をしよう。反乱軍はラジオを聴いておるらしいから帰順勧告の放送をしよ

う。すぐやってくれ」

と言われた。書きとばしですよ。

クが立ててあったりする。映写機もそのままだ。そのうえ人が多いでしょう。そこで大久保さんが 中 村 放送室といったって、軍人会館の映写室で、そこへ電話や放送の線が引いてあったり、マイ

書かれた。

小説なんかの挿絵だと机があってスタンドマイクだけれど……。

立ちマイクでライツ型ですよ。

陸軍省の便箋に、細かいペン字で二枚だった。

二枚です。いまその原稿は放送博物館にありますね。

われわれ一般に「兵に告ぐ」といいますが、「下士官、兵に告ぐ」というのがありますね。

それをビラでまかれた。それは個条書きのようなものですね。

階に避難しておったんです。そうしたら呼んでいるからこいというわけで行き、そこで兵隊に対す 八日の午後一一時半ごろ、私を盛んに呼んで探しておるんですよ。私は熱があって憲兵司令部の三 **大久保** 三カ条ばかり簡単に書いたんです。あれはわれわれが分担して書いたんですが、前の二

島浦 翌日は、きのう書いたような内容を放送してくれと言われて「兵に告ぐ」を書いたんです。 それで「いまからでも決して遅くはない」が両方へ出てくるわけですね

る勧告文を書いた。

「いまからでも遅くはない」というのは、殺し文句だと思うね (笑)。ずい分はやったよ。

(一) 一九二五年ドイツのオルゲン・ライツ博士によって考案された炭素マイクロフォン。大理石の窪みに カーボン粒を充たし、振動板には薄いマイカ(雲母)などが用いられている。

一、今からでも遅くないから原隊へ帰れ。

一、抵抗する者は全部逆賊であるから射殺する。

三、お前たちの父母兄弟は国賊となるので皆泣いておるぞ。

戒嚴司令部發表

「兵に告ぐ」

敕命が發せられたのである。

既に天皇陛下の御命令が發せられたのである。

お前達は上官の命令を正しいものと信じて絶對服從をして、誠心誠意活動して來たのであろうが、《お

前達の上官のした行爲は間違ってゐたのである。》

此上お前達が飽くまでも抵抗したならば、それは敕命に反抗することとなり逆賊とならなければなら既に《敕命》天皇陛下の御命令によつてお前達は皆原隊に復歸せよと仰せられたのである。

受ける樣なことがあつてはならない。

ゝりや、義理上からいつまでも反抗的態度をとつて天皇陛下にそむき奉り、逆賊としての汚名を永久に

正しいことをしてゐると信じてゐたのに、それが間違つて居つたと知つたならば、徒らに今迄の行が

今からでも決して遲くはないから直ちに抵抗をやめて軍旗の下に復歸する樣にせよ。

お前達の父兄は勿論のこと、国民全体もそれを心から祈つてゐるのである。 そうしたら今迄の罪も許されるのである。

速かに現在の位置を棄てゝ歸つて來い。(註 《 》部分は放送に当たって削除された。)

戒嚴司令官 香椎中將

装甲車に拡声機をつんで

石橋 大久保さんは当時陸軍省新聞班で『つわもの』という新聞の編集長をやっておられたから、

新聞記者的センスがあったわけですな。

勅 (スル宣戦ノ詔書) もそうだったんだけど、そういうものを初見で読むのは名人でしたね 島浦 『つわもの』というのは下士官、兵が読むんですね。中村さんは一二月八日の宣戦の詔

ところで読んでいてどうでしたか。

ね。読んだ後はマイクの前にうつ伏しちゃった。 よ。下読みはサッとしたことはしたんですが、その時にもう目頭が熱くなって、眼鏡が曇っちゃって 中 村 「天皇陛下の御命令によってお前達は……」あたりで声がふるえて来たのをおぼえています

事は尽し終った、と思ったんです。後は、この放送が兵隊に聞いてもらえるように、それだけでした。 **大久保** さすがに中村さんは名調子でしたね。ぼくも感激の涙がこみ上げてしょうがなかった。人

中村 日本人でこの気持がわからない者はない、と思ったな。

八時何分 (ஜ゚゚) かにラジオで「兵に告ぐ」をやる。それからアドバルーンを飛行館の上に

中村 やはり幕を張った装甲自動車に、放送局の友安課員が松井少佐と乗っていきましたね。ラ

あげましたな。さらに戦車には幕を張りめぐらしてね。

ジオをはたして聞いているかどうかわからんから……。

楽へは日枝神社のところに拡声機をつけたんだ。 撃たれるかわからんというんで、悲壮な覚悟で物影に隠てやったということを言っていました。幸 宝田 それで警視庁に向けて、あそこら辺一帯に聞こえるように大拡声機をつけてやった。いつ

この「兵に告ぐ」をラジオでガンガンやる (kjěr流された)。 それから戦車でやる。飛行機で

ビラをまくということで、これで動揺が起こったわけですね。

大久保 反乱軍から真先に帰順してきたのは、九時半ですよ。ほんとうに効果が早かった。

石橋 二九日の一○時一五分に戒厳司令部が発表しましたね。「下士官以下、三○名が帰順した」

と第一回に発表しているんですよ。だから放送から間もなくですな。

最後まで降伏しなかったのは安藤中隊ですな。幸楽のね

員を取材に出す時に、「もし命があぶないと思ったら部署を離れてもいい」ということを言い渡して あの時に放送局へワーツときてやられればね。放送局の中山業務局長か宝田さんが、一番初めに局 送局を占領しなかったことが決定的な間違いだったというんです。ほかのことでもそうだけれども、 あの後で将校の中の一人である村中さんという人の書いた反省手記を読んだんですが、放

「罪は許される」が問題

が、連絡に総理官邸にかけつけてきたんです。来たら、栗原、中橋なんかがトラックに乗って出動し ようということですね。栗原泰秀中尉が総理官邸から出ようとしているところへ、山口一太郎大尉 れであいつらけしからんぞということと、それと同時に「決起趣意書」を新聞の号外か何かで出させ ラブで潮来へ行って懇親会をした。その時首切りの相談をしたという怪文書が出ているんです。 すね。二・二六事件の知恵じゃないかと思うんだ。新聞社へ行ったのはどういうわけでしょう。 島浦 **新聞社があの前年の真崎教育総監の首切りに同調したというんです。前の年に陸軍と記者ク** 近ごろは全部そうですが、新しい国のクーデターなんていうと、まず放送局を占領していま

ようとしている。 「これから一つ、『朝日』や『東日』へ行って連中に思い知らせてきます」

「手荒なことはやるなよ。新聞をやったってしょうがないじゃないか」「承知しました」

らなかったんですな。それから『東日』と『報知』が当時並んでおりましたから、 とか言って出て行って、それで『朝日』へ行って活字ケースをひっくり返して、それ以上の乱暴はや

「だれか代表出ろ」

というので表へ出て、決起趣意書を渡して、

「これを印刷して配れ」

ということで引きあげてしまったわけです。 る存在だったんでしょうね。正力社長は 読売新聞にだけあの時寄らなかった。 当時は、

微々た

「おれのところへなぜこない」

と言ったそうだ(笑)。

島浦 大久保さんは文章を前にご勉強なさったんですか。

大久保 (微笑)。

石橋 当時、新聞班には名文家がそろっておったんですよ。

宝田 非常に心をつかむものがあった。命令的な文章だったら聞かないですよ。

後で、ずいぶん反対がありましたよ。非常にやられたです。

「お前たちの罪は許されるのである」というので問題が起こったんですね。

45

陸軍刑法違反ですね。独断専行が強すぎると言って……。書いて放送してもらう段階で

はだれの指図も受けていませんからね。

○ちかく取って出るんです。それを全然やっていないんだ。それと文句に情愛がこもって女々しい およそ司令官の名で外に出すのは、大小にかかわらず主任参謀から参謀長や司令官のハンコを一

というんですよ

宝田 **大久保** ええ。あのときは、ぼくに対する非難がたくさんあったものだから、山下奉文将軍がやっ 戒厳司令官が出すものだから、もっと峻烈な荘重なものであるべきだというわけですね。

「あれでいいんだよ。あれでなくちゃいけないんだよ」

と、なぐさめてくれましたよ。

ですよ。 軍隊的な文章じゃないというところだと思うんですが、そういうところが後世に残ったん

宝田 告諭第何号じゃ残らんな。

司令部発表」を三回やったんです。戒厳司令部というと、まわりの人がラジオをとり囲むんですよ。 あれはどこの発表かわからないですね。いきなり「兵に告ぐ」だものね。

それでまず「戒厳

その余裕をもたせるために言ったんです。

新聞班というのは、後の報道部になるわけでしょう。

ええ、あれは軍事調査委員長が報道部長にあたる。これが大東亜戦争になって、大本営なん

ていうころになって、報道部となったわけです。

島浦 その後では報道部長が新聞よりも、ラジオで大演説をすることのほうが、多くなったようで

すね。

註

(一) 『東京日日新聞』、今の『毎日新聞』の前身。

『郵便報知新聞』として発足。一九四二年『読売新聞』と合併。

真空管持って逃げる

石橋 二八日の夜中に僕が戒厳司令部におったら、松村少佐が下りてきまして、

というんです。

「お前たち、ここから立ちのけ」

真夜中ですよ。何だろうと思ったら、

れから撃ち合いになる。お前たち、うっかりするととばっちりがかかる。立ちのけ」 「反乱軍に同調するものと、反乱軍を討伐するものと、司令部の中は二派にわかれているので、こ

\ \ ?

校もまだはっきりしないから廊下をブラブラ歩いている。 中 村 戒厳司令部の参謀は三階にいたんでしょう。呉越同舟でしょう。反乱軍に加担している将

石橋 僕は社へ帰って連絡して、また戻ったな。

第一、放送局を初め守ってくれた騎兵連隊は、 僕が陸軍省へ行って、

「この部隊に守ってもらってありがとう」

と言ったら、

というので、急いで甲州の歩兵の部隊とすぐ交代してもらいました。 あの部隊はあぶないんだよ。騎兵部隊じゃ、あんな小さな鉄砲で反乱軍と戦争はできないよ」

そのかわりスタジオなんかをみんな占拠されちゃって、銃眼を開けますからというんだ。防音設

技術部が一生懸命になっているところへ、みんな穴を開けられては、これは困ると思ってかんべ

んしてくださいと言っているうちに済んだんだけれども……。

きて銃を突きつけられて、おれがいまから放送するからお前やれといわれたら、まあそれまでかな。 宝田 島浦(軍人会館の場合は一つの現場として、報道者の使命というものがあると思うんですよ。愛宕山 あの時は、来たら真空管を持って逃げちゃおうということだったんです(笑)。

載せよと言ったんですが、どこも載せなかった。 新聞は、反乱軍に対する抵抗として、例の「決起趣意書」を栗原中尉が持ってきて、

記事差し止めが出ておるからやらなかったせいもありますがね。『報知新聞』は載せたんですが、

削ってある。ただゼスチュアを示した。

を止めちゃったから、海外へ行かないはずだけれども、どういう方法か、やっぱりいっているんです。 宝田 島浦 海外に対する通信連絡をあの時に軍でとめましたね。写真撮影も止めるし、あらゆるもの ハワイの『日布 (タトで布哇) 時事』も、NHKの放送を聞いて、その放送のほうを重く書い

たというような記録がありますね。

校の死刑の執行 $\left(\frac{1}{1}\right)$ があったでしょう。あれが今の放送センターと、渋谷公会堂のある坂のとこ

ろですよ。

もう一つ、二・二六事件と放送の因縁ばなしみたいなものですが、代々木の衛戌監獄で、反乱軍将

昭和一六年一二月八日

崎 宮 Щ 本 Œ. 吉 毅 夫 神奈川大学教授・英文学/当時はNHK企画部副部長として番組編成の事実上の責任 自由民主党政務調査会調査役/当時は内閣情報局放送課長として戦時放送を監督した。

者。

頼母木真六 元NHK経営委員、 大倉観光取締役/当時、 NHK国際部長として日本の立場を海外

に伝えた。

春 日 由三 日本音楽著作権協会理事長、 元NHK専務理事 / 開戦当日、 首相官邸放送室から番組

を編成送出した。

出てきていると思うんですが、宮本さんその辺から一つ……。 うのがなくなった。そういうふうに時局に即応する体制というのが、この頃から番組の面で徐々に 島浦 昭和一四年(三九)に時局放送企画協議会というのが出来て、 それまでの放送編成会議とい

こへ、陸〔軍〕・海〔軍〕、外務省、逓信省からぼくも出向で行けといわれた。その後日支事変の直前 に内閣情報部というのができたんですが、この情報部というのは放送局に何も指令は出さなかった。

宮本 昭和一二年(三七)の二・二六事件のころ内閣に情報委員会というのができたんですよ。そ

そのうちに放送局で崎山さんたちが企画部をこしらえたでしょう。

崎山 そう。前に編成部というので、編成部というのは番組だけを寄せ集めているだけだ、放送局

うので、編成部というのを今度は編成局の一つの部門にし、そのうちに番組の提案を集めて並べるだ けでなく、それ自体が企画を持たなければいかんというので昭和一六年 (四一) の一月に小野さんが が出した編成会議というのが、各局に関係なくあった。それはどうも外にあっては具合が悪いとい も主体性を持ってやろうじゃないかというようなことでしたね。小野賢一郎さんが部長をかねていた。 春日 崎山さんが企画部副部長、それは昭和一六年(\| ____) の一月ですよ。つまり、さっき島浦氏

Ē

省は、二〇〇一年総務省になった。 主に郵政と通信を取扱う省。一九四九年郵政省と電気通信省とに分かれて廃止された。さらに郵政

業務局次長兼企画部長。実際上、崎山さんは副部長だけれど、企画部長みたいになったんです。

情報局創設の前後

が帝劇 (劇場) で発足したのが一二月 (六日) です。第二部というのが、新聞、 れで陸軍も海軍も報道部をみんなつぶし、内務省の検閲もつぶしてしまえと言って、情報局というの ま入っていた。上はいままだ健在の吉積正雄さんが第二部長なんですよ。 んだ松村秀逸さんが新聞第一課長で、海軍は大熊という人。私は若僧だけれども放送課長でそのま です。その頃は陸軍と海軍と外務省が、外へ向かっててんでんばらばらなことをいうんですよ。そ 昭和一五年 (四〇) 七月に生まれた第二次近衛内閣の初仕事が情報局の創設という仕事なん 放送、出版で、この間

楽とかの担当でした。 第一部は企画で、方針をきめる。第三部というのが検閲、第五部が内務省。 文化だとか、演芸、

その時はまだ戦時体制といっていたけど戦争するも、 戦争しないもないんです。

という。それで情報局は仕事がなくなっちゃったんだ。指導、監督は情報局で、検閲は昔どおり逓信 なく、外交も全部厳秘だ。政府の発表したもの以外は何も書いてはいかん。流布したら死刑になる 宮本 そうです。開業したとたんに「国家保安法」とかいうこわい法律が出来て、軍事ばかりで

持とうというようなことになったんでしょう。それを放送局に作って、その後大東亜戦争 (平洋戦争 z に突入したというのが実状です。 その時分に私もちょっと気合いのかかっていた時だったから、その放送も企画部を作って、主体性を

画部だとか、その後の企画協議会などで作ったように見えるんだけれども、すでにその時は情報局の まるんですよ。それから〈ラジオ時局読本〉というのがありました。そういうのはただ見ていると企 情報局がきて、番組からいいますと、昭和一六年(四一)二月に〈政府の時間〉 というのが始

承知であったと思うんですけれども……。 ら出たんですよ。こういうものが出来るくらいだから、もうその時にはすでに当事者は百も開戦を そして、昭和一六年(四十) 一二月の開戦の直前に、「国内放送非常態勢要項」というのが情報局か

イニシヤチブのもとにそういう番組をつくらされはじめていたようですね

私たちは、その時分は緘口令をしかれて何もできないんだ。例としては五月二七日 の海

大佐 (海軍大佐平出英夫) に出てもらったら……」と言って、平出大佐が出たんだが、その晩の、あれは 記念日に、その日のいい講演者が出てこない。大事なことは言えないんだからね。 それで僕は「平出

除いた新聞に全部出た。一一月になったら、吉住部長がぼくに「近いうちに非常に忙しくなることが 歴史的な放送ですよ。びっくりしてみんな腰をぬかしちゃったんだ。彼が大放送をやった。 蔵のことでしょう。「大戦艦の用意あり、いくらでも戦争をする」という。それが翌日の 『朝日』を 戦艦武

あるぞ」といった。その程度です。

そうすると「西の風、晴れ」もご存知なかったわけですか。

常務理事はじめみんなに集まってもらって、戦争のセの字もいわない打ち合わせをしたんだ。それ ているんです。海軍は「軍艦マーチ」、陸軍は何やっていいかわからない。 からもう一つふしぎなのは、大本営発表のニュ, ースにつけるマーチね。あれはその日、そこできめ のだ。戦争をどことやるといったら首だから教えてくれない。それで僕は放送局へ行って、関正雄 曜日だったが戦争というのはまだ教わらないんだから、近いうちに何か大変なことが起こるという あれを放送してくれと海軍が持ってきた。あれが開戦の予告だったんだな。二日まえの土

島浦 ところで崎山さんは、七日はどうだったんですか。 結果的には陸軍は「分列行進曲」、で陸海協同の場合は「敵は幾万ありとても……」 になった。

Ē

- 一九四〇年一二月、内閣情報局第二部長に就任。 終戦の時の軍務局長
- (二) 国防保安法 (昭和一六年法律第四九号)

ル重要ナル国務ニ係ル事項ニシテ左ノ各号ノーニ該当スルモノ及之ヲ表示スル図書物件ヲ謂フ 本法ニ於テ国家機密トハ国防上外国ニ対シ秘匿スルコトヲ要スル外交、財政、経済其ノ他ニ関ス 第十条

- 御前会議、 枢密院会議、 閣議又ハ之ニ準ズベキ会議ニ付セラレタル事項及其ノ会議
- 二 帝国議会ノ秘密会議ニ付セラレタル事項及其ノ会議ノ議事
- 前二号ノ会議ニ付スル為準備シタル事項其ノ他行政各部ノ重要ナル機密事項
- 本章ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付亦之ヲ適用
- 以下同ジ)ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期 若 ハ三年以上ノ懲役ニ処ス 業務ニ因リ国家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外国(外国ノ為ニ行動スル者及外国人ヲ含ム
- ニ処ス 外国ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ国家機密ヲ探知シ又ハ収集シタル者ハ一年以上ノ有期懲役
- ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ処ス 前項ノ目的ヲ以テ国家機密ヲ探知シ又ハ収集シタル者之ヲ外国ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキ
- ハ公ニシタルトキハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ処ス 前二条ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ国家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外国ニ漏泄シ又
- 第七条 五千円以下ノ罰金ニ処ス 業務ニ因リ国家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ外国ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキ 業務ニ因リ国家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ
- 第八条 ハ三年以下ノ禁錮又ハ三千円以下ノ罰金ニ処ス 国防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ又ハ其ノ用途ニ供セラルル 虞 アルコト -ヲ知リ
- テ外国ニ通報スル目的ヲ以テ外交、 年以下ノ懲役ニ処ス 財政、 経済其ノ他ニ関スル情報ヲ探知シ又ハ収集シタル者ハ十
- 年以上ノ懲役ニ処ス 外国ト通謀シ又ハ外国ニ利益ヲ与フル目的ヲ以テ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シタル者ハ無期又ハ

外国ト通謀シ又ハ外国ニ利益ヲ与フル目的ヲ以テ金融界ノ撹乱、

重要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害

其ノ他ノ方法ニ依リ国民経済ノ運行ヲ著シク阻害スル 虞 アル行為ヲ為シタル者ハ無期又ハ一 年以

一ノ懲役ニ処ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情状ニ因リ十万円以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第十一条

第三条乃至第五条、第九条又ハ第十条第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シタル者ハ被教唆者其ノ実第三条乃至第五条、第八条、第九条及前条第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

行ヲ為スニ至ラザルトキハ十年以下ノ懲役ニ処ス

第三条乃至第五条、第九条又ハ第十条第一項ノ罪ヲ犯サシムル為他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタ

ル者ノ罰亦前項ニ同ジ

3 第八条ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シタル者ハ被教唆者其ノ実行ヲ為スニ至ラザルトキハ三年以下

ノ懲役ニ処ス

第八条ノ罪ヲ犯サシムル為他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同

第三条乃至第五条、第九条又ハ第十条第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ予備又ハ陰謀ヲ為シタ

ル者ハ五年以下ノ懲役ニ処ス

第四条第一項、第八条、第十一条乃至前条ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ発覚セザル前自首シタル 第八条ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ予備又ハ陰謀ヲ為シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ処ス

トキハ其ノ刑ヲ減軽シ又ハ免除ス

第十四条

第十五条 ノ犯罪行為ヨリ生ジ 若 ハ之ニ因リ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ属セザルトキニ限リ之ヲ没収 本章ニ規定スル犯罪行為ヲ組成シタル物、其ノ犯罪行為ニ供シ 若 ハ供セントシタル物又ハ其

スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハズ検事之ヲ没収スルコトヲ得

以外ノ者ニ属セザルトキニ限リ之ヲ没収ス其ノ全部又ハ一部ヲ没収スルコト能ハザルトキハ其ノ価2 前項ノ犯罪行為ノ報酬トシテ得タル物及同項ニ掲グル物ノ対価トシテ得タル物ハ其ノ物犯人

額ヲ追徴ス

掲グル罪ヲ除ク)

条 本章ノ規定ハ左ニ掲グル罪ニ関スル事件ニ付之ヲ適用ス

事

手

一第三条乃至第十三条ノ罪

ニ関スル第二十六条、第二十七条、第二十九条並ニ国家総動員法第四十四条ノ罪 等ニ関スル第三十一条、第三十二条、第三十四条、海軍刑法第二十二条乃至第二十四条及此等 十一条乃至第十五条、第十九条、刑法第二編第三章、陸軍刑法第二十七条乃至第二十九条及此 軍機保護法第二条乃至第七条及此等ニ関スル第十五条乃至第十七条、 軍用資源秘密保護法第

2 関スル事件ニ付亦之ヲ適用ス 本章ノ規定ハ外国ト通謀シ又ハ外国ニ利益ヲ与フル目的ヲ以テ犯シタル左ニ掲グル罪ニ

処罰 治三十六年律令第十四号)、明治三十八年法律第六十六号(外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行 令第二十四号)、不穏文書臨時取締法、 律第六十号(暴力行為等処罰ニ関スル法律)、爆発物取締罰則、 乃至第十一章、第十五章乃至第十八章、第二十六章、第二十七章及第四十章、 除ク)、要塞地帯法、 軍機保護法 措置ニ関スル法律)、 券証券偽造変造及模造ニ関スル法律)、 引ノ件)、 編第一章(前項第二号ニ掲グル罪ヲ除ク)、第八章及第百条、治安維持法、大正十五年法 陸軍刑法第二編第一章(前項第二号ニ掲グル罪ヲ除ク)、第八章及第九十九条、 外国為替管理法、 (前項第二号ニ掲グル罪ヲ除ク)、軍用資源秘密保護法 船舶法、 陸軍輸送港域軍事取締法、 航空法、 関税法、 治安警察法、 電信法、 通貨及証券模造取締法、 昭和十二年法律第九十二号(輸出 明治二十三年法律第八十三号(軍港要港規則 無線電信法並ニ国家総動員法 大正八年制令第七号 通貨及証券模造取締規則 匪徒刑罰令(明治三十一 (前項第二 入品等ニ関 (政治ニ関 第四章、 朝鮮刑事令第三 |号ニ掲グル罪 (前項第 海軍刑法 スル スル臨時 第八章 年律 ヲ

- 検事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得
- 検事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ発スル召喚状ニハ命令ヲ為シタル検事ノ職、 氏名及其ノ命令

ニ因リ之ヲ発スル旨ヲモ記載スベシ

- 号ニ規定スル事由アルトキハ検事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ検事ニ嘱託シ 若 ハ司法警 被疑者正当ノ事由ナクシテ前条ノ規定ニ依ル召喚ニ応ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七条第一項各 召喚状ノ送達ニ関スル裁判所書記及執達吏ニ属スル職務ハ司法警察官吏之ヲ行フコトヲ得
- 前条第二項ノ規定ハ検事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ発スル勾引状ニ付之ヲ準用

察官ニ命令スルコトヲ得

- 官之ヲ訊問スベシ其ノ時間内ニ勾留状ヲ発セザルトキハ検事ハ被疑者ヲ釈放シ又ハ司法警察官ヲシ 勾引シタル被疑者ハ指定セラレタル場所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ検事又ハ司法警察
- 第二十条 刑事訴訟法第八十七条第一項各号ニ規定スル事由アルトキハ検事ハ被疑者ヲ勾留シ又ハ其ノ勾

留ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

テ之ヲ釈放セシムベシ

- 第十七条第二項ノ規定ハ検事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ発スル勾留状ニ付之ヲ準用ス 勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スルコトヲ得
- 第二十一条 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ継続ノ必要アルトキハ区裁判所検事ハ検事正ノ許可、 地方裁判所
- 新スルコトヲ得但シ通ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ 検事ハ検事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ之ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ四月ヲ超ユルコトヲ得ズ 治安維持法ノ罪ニ付特ニ継続ノ必要アルトキハ検事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更
- 十九条ノ罪ノ捜査ノ為特ニ継続ノ必要アルトキハ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジ 検事総長又ハ其ノ指揮ヲ受ケタル検事刑法第七十三条、第七十五条又ハ第七十七条乃至第七

テ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ

ヲ準用ス

勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾留ヲ継続スルノ必要ナシト思料スルトキハ検事ハ 速 ニ被疑者ヲ

釈放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釈放セシムベシ

第二十四条 刑事訴訟法第百十九条第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハ検事ハ勾留ノ執行停止ヲ取消 検事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

スコトヲ得

第二十五条 検事ハ公訴提起前ニ限リ証人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ検事ニ嘱託シ若ハ司法警察官ニ命 検事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

3 令スルコトヲ得 司法警察官検事ノ命令ニ因リ被疑者又ハ証人ヲ訊問シタルトキハ命令ヲ為シタル検事ノ職、氏

名及其ノ命令ニ因リ訊問シタル旨ヲ訊問調書ニ記載スベシ 4 第十七条第二項及第三項ノ規定ハ証人訊問ニ付之ヲ準用ス

第二十六条 司法警察官ニ命令スルコトヲ得 検事ハ公訴提起前ニ限リ押収、 捜索若ハ検証ヲ命ジ又ハ其ノ処分ヲ他ノ検事ニ嘱託シ 若ハ

2 検事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、 通訳若ハ翻訳ヲ命ジ又ハ其ノ処分ヲ他ノ検事ニ嘱託シ若ハ

司法警察官ニ命令スルコトヲ得

3 前条第三項ノ規定ハ押収、捜索又ハ検証ノ調書及鑑定人、 通事又ハ翻訳人ノ訊問調書ニ付之

第十七条第二項及第三項ノ規定ハ鑑定、通訳及翻訳ニ付之ヲ準用ス

第二十七条 ニ関スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ 訳並ニ翻訳ニ関スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被疑事件ニ付之ヲ準用ス但シ保釈及責付 刑事訴訟法中被告人ノ召喚、勾引及勾留、被告人及証人ノ訊問、押収、 検証、

外国船舶又ハ外国航空機法律又ハ之ニ基キテ発スル命令ニ依ル禁止又ハ制限ニ係ル区域ニ侵

第二十九条

第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

ミニュステラ ホーティҳ、トトー JTxiim inーテュィ 入シタル場合ニ於テ検事捜査ノ為必要アルトキハ其ノ船舶 若 ハ航空機ニ対シ指定ノ場所ニ ベキコトヲ命ジ 若 ハ之ヲ抑留シ又ハ其ノ船舶 若 ハ航空機ノ長、乗組員及乗客ニ対シ指定ノ場所ニ 廻航

滞留スベキコトヲ命ズルコトヲ得

- 2 検事ハ前項ノ規定ニ依ル処分ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得
- 3 前二項ノ規定ハ第十六条ニ規定スル罪以外ノ罪ニ関スル事件ニ付亦之ヲ適用

弁護人ハ司法大臣ノ予メ指定シタル弁護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ刑事訴訟法第四十条

- 弁護人ノ数ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ
- タルトキハ之ヲ為スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタル 弁護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚状ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ経過シ

トキハ此ノ限ニ在ラズ

- 第三十一条 軍用資源秘密又ハ官庁指定ノ総動員業務ニ関スル官庁ノ機密ヲ陳述スルコトヲ得ズ此ノ場合ニ於テ 弁護人ハ其ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ陳述ニ代フルコトヲ得 弁護人ハ審判ヲ公開シタル公判廷ニ於テ口頭弁論ヲ為ス場合ニハ国家機密、 軍事上ノ秘密、
- 第三十二条 コトヲ要ス 弁護人ハ訴訟ニ関スル書類ノ謄写ヲ為サントスルトキハ裁判長又ハ予審判事ノ許可ヲ受クル
- 三条 第十六条第一項ニ掲グル罪又ハ外国ト通謀シ 若 ハ外国ニ利益ヲ与フル目的ヲ以テ同条第二 弁護人ノ訴訟ニ関スル書類ノ閲覧ハ裁判長又ハ予審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ為スベシ
- 項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ対シテハ控訴ヲ為スコトヲ得ズ
- 前項ニ規定スル第一審ノ判決ニ対シテハ直接上告ヲ為スコトヲ得
- 3 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ対シ上告ヲ為スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ

為スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ対スル上告事件ニ関スル手続ニ依リ裁判ヲ為スベシ 裁判所ハ外国ト通謀シ 若 ハ外国ニ利益ヲ与フル目的ヲ以テ第十六条第二項ニ掲グル罪ヲ犯

シタルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ判決ニ摘示スベシ ハ外国ニ利益ヲ与フル目的ヲ以テ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顕著ナル事由アルモ 前項ノ摘示ヲ為シタル第一審判決ニ対シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所外国

ノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ

第十六条ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審判決ニ対シ上告アリタル場合ニ於テ上

告裁判所同条ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顕著ナル事由アルモノト認

ムルトキハ亦前項ニ同ジ

上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二条第一項ノ期間ニ依ラザルコ

トヲ得 裁判所ハ本章ノ規定ノ適用ヲ受ケル罪ニ関スル訴訟ニ付テハ他ノ訴訟ノ順序ニ 拘 ラズ 速

二其 一ノ裁判ヲ為スベシ

第十六条ニ規定スル罪ニ該ル事件 (陪審法第四条ニ規定スルモノヲ除ク) ハ之ヲ陪審ニ付セズ

刑事手続ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス 本章ノ規定ハ第二十一条、第二十二条、第二十八条、第二十九条、第三十条第一項、

第三十四条及第三十七条ノ規定ヲ除クノ外軍法会議ノ刑事手続ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於

法会議法第四百四十六条第一項トシ第二十四条第二項中刑事訴訟法第百十九条第一項ニ規定スル テ刑事訴訟法第八十七条第一項トアルハ陸軍軍法会議法第百四十三条又ハ海軍軍法会議法第百四十 刑事訴訟法第四百二十二条第一 項トアルハ陸軍軍法会議法第四百四十四条第一 項又ハ海軍軍

第四十条 朝鮮及台湾ニ在リテハ本章ニ掲グル法律ハ制令又ハ律令ニ於テ依ル場合ヲ含ム

由アル場合ニ於テトアルハ何時ニテモトス

トス

- 九条トアルハ刑法第七十三条、第七十五条、若ハ第七十七条乃至第七十九条又ハ朝鮮刑事令第三条2 朝鮮ニ在リテハ第二十二条第三項中刑法第七十三条、第七十五条又ハ第七十七条乃至第七十
- 事長又ハ検事正トアルハ覆審法院検事長、地方裁判所検事又ハ区裁判所検事トアルハ地方法院検事 3 トシ第三十五条中刑事訴訟法第四百二十二条第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一条トス 朝鮮ニ在リテハ本章中ノ司法大臣トアルハ朝鮮総督、検事総長トアルハ高等法院検事長、
- 検察官長、検事正トアルハ地方法院検察官長、 検察官又ハ地方法院支部検察官、 4 台湾ニ在リテハ本章中ノ司法大臣トアルハ台湾総督、 検事トアルハ検察官、 地方裁判所検事又ハ区裁判所検事トアルハ地方法院 予審判事トアルハ予審判官トス 検事総長又ハ検事長トアルハ高等法院

- 1 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 2 本法ハ内地、 朝鮮、台湾及樺太ニ之ヲ施行ス
- 3 第二章ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

4

- 等ニ関スル件 (昭和二○年勅令第五六八号) により、本法は昭和二○年 (四五) 一○月一三日をもって廃 5 この法律は、 前項ノ捜査手続ニシテ本法ニ之ニ相当スル規定アルモノハ本法ニ依リ為シタルモノト看做 昭和十六年 (四一) 三月七日に公布され、同五月一○日より施行され、 国防保安法廃止
- たと言われている。 この法律は戦争突入のための外国の諜報、宣伝、謀略を一切遮断する国防国家体制の総仕上げであっ

止された。

別講演」を放送した。 大本営海軍報道部課長・平出英夫(大佐)は、午後八時から「海戦の精神」と題して以下のような

とは誰にも出来ないと思はれる。」 支那大陸において示しつゝある遠距離爆撃その他の戦法とはまた別個に、わが海上航空部隊として独特 勢にあるのである。帝国海軍の航空兵力は軍民一致の努力によりその数すでに四千機になんなんとし、 れに拠り、大鯨(艦)こゝにひそみ、軽々しく我に挑戦するものあらばこれを一挙に粉砕せんとする姿 **さに帝国有史以来空前のものであつて、必要なる基地は今や完全なる防備を施し終つて海鷲 (|機||) こ** の艦艇をこれに必要な根拠地とを整備して西太平洋の海域に備へてゐるのであるが、その整備状態はま の必殺的戦法をも練りつゝある状態である。今日の世界情勢から日本が参戦することなしと断言するこ 帝国海軍は現在大小二百余隻の艦艇をもつて支那沿岸海域の作戦に従事しつゝ、更に他の三百余隻

九四一年一一月一九日、外務省は次のような回章を発令した。

(非常事態のウインド・メッセージ)一月一九日 東京回章二三五三号

非常事態の場合の特殊メッセージ放送に関し。

非常事態(わが外交関係断絶の危険)における国 信の杜絶の場合には、 つぎの警報が毎日 1の日本

語の短波ニュース放送のなかに加えられる。

) 日米関係が危険になった場合……東の風雨。

□ 日英関係が危険になった場合……西の風晴れ。□ 日ソ関係が危険になった場合……北の風曇。

すべての暗号書などを処分する。これはいまのところ、完全に秘密にしておかれたし。以上は至急通信 天気予報として放送の中間と最後に加えられ、二回繰返す。この警報を聞いたならば、

四 開始の第一送信(ヨーロッパ向け)、午前九時から三五分間のアメリカ向け放送で放送された。 かで、「西の風晴れ」が担当の海野春樹アナウンサーによって放送された。さらに午前三時五五分から 一二月八日午前○時二五分から三時三○分までの第七送信(東南アジア向け)の日本語ニュー ・スのな アメリ

カ向けの放送はFCCが傍受し、次のように記録している。

晴れ」(『真珠湾攻撃に関するアメリカ議会調査委員会議事録』三三○八頁) 「ニュースの途中でございますが、本日は特にここで天気予報を申し挙げます。 西の風晴れ、 西の風

なったかは謎とされている。(北山節郎『ラジオ・トウキョウ―― 否定されている。しかし、本来は、「東の風、雨」と放送すべきものが、どうして「西の風、晴れ」に なお、日米開戦を意味する「東の風、 雨」を受信したという証言もあるが、信憑性にとぼしいとして 戦時体制下 日本の対外放送』(Ⅱ

五 という題の八章の詩であったが、小山が作曲にあたりこれから三章を抜粋した。 太平洋戦争時の大本営発表の戦勝発表の際、 元は、一八八六年(明治一九年(四四))に刊行された詩集『新体詩選』に収録された、 山田美妙作詞、小山作之助作曲 前後で流された。

戦景大和魂

大東亜」への道)を参照。

直は曲にぞ勝栗の電は曲にぞ勝栗の東方に正しき道理ありまるぞいではそれ正に勝ちがたくまった。

堅き心の一徹は

畳の上にて死ぬことは玉となりつつ砕けよや瓦となりて残るより

旗は飛びくる弾丸に などてたゆとう事やある これがは昇る朝日子よ 記紋は昇る朝まするよう。 は飛びは昇る朝かまる。

石に立つ矢のためしあり

石に矢の立つ(立つはずのない矢が石に突き刺さったという故事)ためしあり

はいることこそ誉れなれては、 は、飛びくる弾丸に は、飛びくる弾丸に は、飛びくる弾丸に は、日の本の兵士よ なにな愧じそ進めよや いるるまでも進めよや いるるまでも進めよや なかるるまでも進めよや でな愧じそ単じなせそ

進みて死ぬるは身の誉れ破れて逃ぐるは国の耻

などてたゆとう事やあるなどて恐るる事やある

世に武士の義といわめりを野晒になしてこそりを野晒になしてこそうできる。

などてたゆとう事やある

などて恐るる事やある

| | 見で詔書を読む | | |

せんでした。

七日に宮本さんから電話がかかってきまして非常に慎重に、

「あしたの朝、とにかく非常に大事な放送だから、優秀なアナウンサー……」

崎山 風雲急というのは、承知していましたけれども、戦争にいつなるなんていうことはわかりま

をということで

「中村茂さんを」

と言われた。私は報道部長の横山重遠氏に同じようなことを連絡した。

島浦 宮本さん七日は……。

宮本 「日曜日に家におれ、出ちゃいかんぞ」

るんだよ。鈴木貞一氏とか、情報局の谷正之 (タト癈トトトトトロ゚) 総裁、奥村喜和男次長、松村秀逸氏ぐらい て、すぐ総理官邸へこいという。官邸はひっそりかんとしていて、星野書記官長がテニスをやってい といわれたんですが、天気のいい日で、長男を連れて近所を散歩していたら、昼ごろ家から呼びにき

しかいない。そこで

というんですよ。八日にやるためには七日から飛び出している。それが一機発見されたので青くなっ 「いよいよ戦争だ」

ていましたよ。そこへ星野さんがきて

あした四時に戦争状態のニュースを出す」

ましたよ。みんな軍部がきめちゃったんだからね。

という。まだ閣議も開いてないし、枢密顧問会議も開いていない。一生懸命自動車の手配をしてい

島浦(その時、詔書はもう出来ていた。

宮本 そうなんです。僕はチラッと詔書を見た。これを読む手配をしろという。それで星野さんに

「これは内閣書記長が読むものですよ」

といったら、

「こんな長いものがおれに読めるか」

夜は寝て、四時ごろ目が覚めたけれども、どこからも何も言ってこないんだね。これは戦争をやめた のかなと思ったんだ(笑)。ラジオをかけっ放しでいたら、六時二〇分に香港総動員発令のニュースが た中村茂氏を指名し、あした早くから官邸にきて待機していてくれと頼んでおいたんですよ。その というんだ。それで崎山さんに電話をかけて、二・二六事件の「兵に告ぐ」の名アナウンスを担当し

出て、開戦の臨時ニュースは七時です。

頼母木 「大本営陸海軍部午前六時発表。帝国陸海軍部隊は本八日未明、西太平洋において米英軍

と戦闘状態に入れり」

というんだ。

出勤して、一番青くなったのは、詔勅の長いやつを中村氏に読んでおいてもらわなければならん。探 宮本 あの時分から電話が掛かりっきりで、今度は家で処理しなければならんから出勤できない。

の日の朝、閣議、枢密顧問会議を開いて、詔勅の案をかけた。その後、ちょうど前の稲田侍従次長が したらない。それはその時分の東条の主義で、数か月前から宮中で閣議を開いていたんですよ。そ

当時の総務課長で、金庫へその詔勅を封じ込んじゃって鍵を持っている。しようがないから

「大事なニュースがあるからスイッチを入れておいて下さい」

という放送をしてもらったんですよ。そのうち宮内庁から電話がかかってきて、東条が官邸に帰り しだいすぐ開戦の放送をするというんだ。

宣戦詔勅を自分でやるというんですか。

しようがない。それで時間稼ぎに、僕は 満州事変やシナ事変と違うんだからやるというんだ。こっちは読んでないのが気になって

で待ったらいいでしょう」 「ニュースというものは一二時が定時で、総理が帰ってきても一○分か二○分待つだけだ。それま

いって、中村君に渡した。中村君はパッと見て全然読み違えをしなかったんだな、さすがですよ。 わっちゃってね。やっとこさ稲田さんをつかまえ、詔勅を早く出してもらわなければ大変なんだと といったら、松村秀逸さんは東条はせっかちだからそんなことを言ったらおこられるというんだ。よ

春日 回しか見ないんてすよ。

たんだ。

宫 本 辞書を引く間も、 聞く間も何もないんだ。そしてもう、東条はツカツカと入ってきてしまっ

できたとき〈大命を拝して〉を放送したのが使いはじめでした。 春日 首相官邸の放送室として一五年 (nh) の六月に作った部屋です。 七月に第二次近衛 内 閣

たともいえるんです。 結果的には正午の定時ニュースの時間になっちゃったんですから、

精神的

には臨時ニュ

1

·スだっ

が

註

- $\overline{}$ 陸軍中将。 通称「背広を着た軍人」。「三奸四愚」と呼ばれた東条英機側近三奸の一人。
- $\stackrel{\textstyle \frown}{=}$ 天皇の最高諮問機関である枢密院の顧問を構成員とする会議

がいった。 おおいでは、 おいでは、 はいでは、 おいでは、 はいでは、 はいではいでは、 はいでは、 はいで

シテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年自除ヲ堅タリをこれって「「「」」というなからからからない。というないでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、 相提携スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆ニ相鬩クヲ 悛 メス米英

シメムトシ隠忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツヲ與へ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ囘復セ剰ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ åćd 強シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害両國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制罪ノ非望ラ 這 ウモムトス 信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコト ヲ期ス テ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關 ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ 逞

名

四 七時のほかに七時一八分、八時三〇分、九時三〇分に放送された。 昭和十六年十二月八日

五 http:/ 近衛文麿による演説「大命を拝して」の音声は国立国会図書館デジタル資料 $^{'}$ dl.ndl.go.jp $^{\prime}$ info:ndljp $^{\prime}$ $^\prime$ dl.ndl.go.jp $^\prime$ info:ndljp $^\prime$ pid $^\prime$ 3572390 / pid // 3572391 演説

に収録されている。 dl.ndl.go.jp/

http:/

dl.ndl.go.jp / info:ndljp / pid /

info:ndljp/

pid/

3572393 3572392

官邸をかけまわる

たんだ。そうしたら一人の少佐が 頼母木 一二月に入って早々だと思うけど海外放送の担当者と、軍の連中と一緒に忘年会をやっ 風、晴れ」をもってきたんだ。

「いよいよアメリカと戦争をするんだ_

という。それで僕は

思っていない。それが負けてはじめてド根性を出して、こりゃいけなかったと反省するのもいい」 「よかろう、勝っても負けても日本は得する。僕は長い間外国にいて実力的に日本は一等国だとは

と言ったんだ。そうしたらその一人が

「負けるとは何だーッ」

といって刀を抜いて斬ってかかってきたんだよ。

斬るなら斬れ」

とこっちも血気盛んだから激論した。その時から「やるな」という感じは僕はしていた。 そして一二月七日五時ごろ、宮本さんからの話か何かがまわりまわって、沢田進之亟という課長の

ところにはまたその少佐どもが電話をかけたものとみえるな。それで沢田が私のところへ 「あしたの朝何かありますよ」

と言ってきた。

春日日曜日の夕方ですね。

があった。中味はこっちはわからないが、要するに開戦の指令だったんでしょう。その後で、「西の のかなり前に「雲か、山か、呉か、越か」という詩を放送して、そのあいだに暗号通信を送ったこと(『) **頼母木** うん。五時ごろだよ。それじゃ何があるか知らないが待機しようということでした。そ

宮本 それは一二月の二日ごろでしょう。

二日ごろだ。それをやった翌日軍令部の海軍の佐官が来て

と礼を言いに来た。はあァ、それじゃ何かあったなと思いました (笑)。館野守男 (当時アナウンサー、 現 「大変あれはうまくいって、成功しましたよ。ありがとう」

NHK国際局長) 氏が、いきなり「西の風、晴れ」というのは、どうにもおかしいから「天気予報を申

し上げます」と前につけるというので、いいだろうと僕は許したことがあったよ。その晩は海外放送

の担当者はかなり泊りました。

きたんだから、国内より国際放送のほうがちょっと遅い。英語は五十嵐新次郎君 (現早大教授) だった。 日本語でやったんだ。それをやったのが館野だよ。国内ニュースをやっておいて、僕のほうへとんで 開戦を放送した時刻は、大体国内と同じぐらいで、あの時、東南アジア向けでやる番組の一番先に 春日 企画部というのが昭和一六年 (四一) の一月にできて、花岡守人とか、宮川三雄とか、 川口柳

一それに崎山さんと僕の四人で、四月一日の全面的な番組改正のプランを毎晩作っていた。 その時、われわれの頭の中では一種の非常体制に移行するということは知っていましたな。 開戦

ほど緊迫しているとは思わなかった。最悪の場合には都市放送 (第二放送) を止めるという作業はして の二日前に宮本さんが来て、皆が会議室へ集まった。ところが宮本さんの話は非常に抽象的で、それ

しかも、僕は恥かしいが当日「七時のニュース」を寝ていて聞いていない。 「お前いまのニュースを聞いたか。何をしてるんだ、早く飛んでこい」 寝ていたら、 いきなり

いた。しかし八日ということだけは、全く知らなかった。

回の着初めだった。家から駅までかけつけて、電車で来たんだよ。 NHKではそのころ、そういう場合の制服を作っていた。 カーキ色のダブルで、それの第

来たらとたんに崎山さんが

ている。 感心したのは中村さんは本当に一回サッと目を通しただけだ。間ぎわに渡され、東条さんはもう待っ て行くのはやっかいだというわけで首相官邸の一番奥の小さな部屋を、放送出来るようにしていた。 て打ち合せて官邸へ飛んで行ったわけだ。中村さんがいて憮然としていたよ。宮本さんは詔書がな というのが指令でした。それで花岡君なんかと、ここをちょっと編成がえしようじゃないかと言っ いわけだからソワソワしている。私どもはかなり前から、首相官邸へしょっちゅう中継設備をもっ 崎山 何とかかんとか言っているうちに、結果的にピシヤッとお昼に来たんですね。 期せずして重要なのは一二時から一時までの間にみんな入っちゃった。 は首相官邸へ行く。宮本さんにくっついて、はなれるな。それでこっちと連絡をとれ

度どうするとかという時に、一々NHKへ電話をするわけだ。 僕は企画部員だけど、宮本さんの側から離れずくっついて、宮本さんが今度何するとか、今

は変えてないんです。 何度も往復するんだよ。そのたびに番組が変わるんだからね。番組を見てもわかるように、午前中 **首相官邸の廊下には表通りと裏通りがあるんですよ。階段を上がったり、下りたり、息せききって**

山 一二月五日に「国内放送非常態勢要綱」というのが前にちゃんと出来ていて、 それを読ん

71だ直後でしたから、比較的スムーズに行った面もある。そうでなければ放送は大混乱で、それが聴取

春日

わる 者を動揺させただろうと思いますね。 島浦

放送 (現在の第二放送、当時AK $\left({\mathrm{r}} \right)$ 、BK $\left({\mathrm{K}} \right)$ 、CK $\left({\mathrm{E}}^{\mathrm{r}} \right)$ だけにあった)をやるとか、首相官邸に放送要 員を配置するとか、一応決めていた。それから電波管制に対する用意もしておりますね 五日にそういうものをこしらえて、それによって万一の場合は放送を一元化するとか、都市

崎山 それはね、空襲で、一ぺんに日本流行られるという最悪のことを考えてやったんです。

私がきょう一番知りたかったのは、NHKの最高幹部、あるいは宮本さんが何日前に大東亜

戦争がわかっていたかということなんだ。 ぼく自身がほんとうに知ったのは前の日です。前々日は放送関係では手落ちのないように

しておけという。それだけの命令だものわかりようがない。

は知っていた、おれは知っていたという人たちが出てくる。僕は知っているはずがないと思うんだ。 **春日** このごろ新聞社の人たちでそのころぼくと同じぐらいの地位の人だったろうと思うが、おれ 知っていたら死刑だもの。ぼくら情報部の中におったっていわないものね。

註

頼山陽の漢詩 「泊天草洋」。

万 水 雲 天 耶ヵ泊 泊ス髣モ山 天 舟ョ髴ふ耶ヵ草 草 一 耶"

洋な髪

Щ 陽

太白当船明似月

(三) 神谷勝太郎は、「この大本営発表が臨時ニュースとして館野守男アナウンサーによって国内放送され (二) 一一月一九日及び二二日に、海軍の依頼によって放送電波に乗せてモールス符号を送信した。一九日 にもっとも適しているという理由であった。この詩吟もマイクロフォンを通じて送出された。 なお、電信送信に頼山陽の詩吟を重畳したが、これはこの詩吟がモールス信号をカモフラージュするの ロヘツルで、一分間電信放送、五分間休み、一分間電信放送、五分間休み、又一分間電信放送を行った。 は二一時からの第四送信の日本語ニュースの時間であった。使用周波数はJLG4、一五、一○五キ

四 要旨は以下の通り。 、放送の一元的統制を強化するため地方各局からの全国入中継を中止し、 またはローカル放送となす。 原則として東京発全国中

信(欧州向け)が後二十数分で終わろうとしていた時刻である。私は英語を最初にと主張したが、沢田

たのは午前七時であったが、海外放送でもほとんど同時刻に、日、独、伊、英語で放送された。第一送

送した。」と証言している。(『NHK戦時海外放送』海外放送研究グループ編、原書房、一九八二)。 課長の決断で、最初に日本語、続いて枢軸国の国語であるドイツ語、イタリア語、最後に英語の順に放

、防衛総司令部、各地軍司令部ならびに各地鎮守府および警備府に、 、都市放送(第二放送)を休止して、全国統一放送となす。

、防空下令その他作戦用兵に関する事項は、防衛総指令部又は各地軍司令部より直接放送をなすも アナウンサー、中継係、技術係の勤務をなさしむ。 原則として中継用マイクの設

、首相官邸放送室を情報局放送室に兼用し、アナウンサー、中継係、 のとする。 技術係を常勤せしむ。

- 、大本営及び逓信省連絡のうえ、必要なる時間において電波管制をしく。
- 楽など一般放送は人心の安定と国民士気高揚を中心とし、積極的活用を図る。 警戒管制中は放送番組は官庁公示事項、ニュース、レコード音楽に重点を置き、
- 、重要事項には放送アナウンスにより、聴取者をして常に受信機にスイッチを入れ置くごとく告
- 、敵空襲とともに、原則として電波の発射を休止す。
- 空襲警報解除または必要ある場合は、敵機退却とともに再び電波を発射す。

電波管制で混乱

春日 宮本さん、東条英機(闊総理大臣)さんの「大詔を拝し奉りて」という原稿はだれが書いたん

それはむろん政府ですよ。責任者はたぶん迫水久常氏(現参議院議員)でしょう。

春日 午後七時の、奥村情報局次長の原稿はだれが書いたんですか。

ブレーンを使うかもしれないけれども、だれかに書かせたんだろうな。先生は四、 五日前か

ら知っていたと思うんだ。

かひは勝つべきものぞ。身をつくし、国をつくしても勝たんとぞ思う」という電報を宮本さんが持っ 論』)に書いたけれども「討匪行」。の八木沼丈夫 (無工作の最高指揮者) の電報がきているんですよ。 「たた てこられて「春日君、これをどこかへ入れようか」ということだったんです。 春日 七時も、七時半のやつも、全部官邸から出たんだよ。ここでおもしろいのは本(『体験的放送

うん、そんなことがあったな。詩吟でやったんだ。

春日 これは伊藤長四郎 (「御ヒマゎれ」) です。 奥村さんの演説の後へ付けたんですよ。

それが八時一分か。

春日 ·のが真中にあって山海の珍味で、東条総理以下陸海軍の肩章をつった連中が、その演説の後zこのころになると首相官邸の真中の部屋で、僕の目に一番ついたのはシナ料理の鯉の丸焼

乾杯しているんだよ。宮本さんもその中へ入っているんだ。官邸の裏は二階から見おろすところに 大広間があるんだよ。そのころ僕は飛んで歩いていて弁当を食っていない。だから開戦の日という の大きなのが真中にあって山海の珍味で、東条総理以下陸海軍の肩章をつった連中が、その演説

宮本さんも六時に放送しているでしょう。「ラジオの前にお集りください」というのを。

と、腹が減った記憶でねえ(笑)。

毎時間に何かニュースを出そうというんです。

崎山 それは前の日に決まっていましたね。今ではNHKでも民放でも、ニュースが時間 の頭に

くる。 宮本(ニュースの後「軍艦マーチ」が出たら情報局で評判がよくて、前へもっていけというので前 あのアイディアはあの時が最初だと思いますね。

へもっていったんだ。初めは後だった。海軍が済んだら「軍艦マーチ」、陸軍が済んだら……。 春日 「分列行進曲」つまり「抜刀隊」。何かの本に、たまたまあの

「軍艦マーチ」はNHKの指

揮室にいた和田信賢の思い付きだとあったけど、それは違うんだね

山 ニュースのテーマ・ミュージックとしては、あれが初めだろうと思う。

75

頼母木

チャイムはありましたがね

間際になったら、指揮室の和田信賢に電話が掛かってきて、「開戦状態に入れり」というニュースが、ホッッ゚ル 中君は朝七時のニュースで担当の館野がスタジオへ入っていて、いくら待ってもニュースがこない。 道部長に云われて泊り番じゃないんだけれども、何のことかわからずに泊ったというんですよ。 島浦 田中順之助君 (当時の報道プロデューサー、元水戸放送局長) の記録によれば前の晩から横山 重遠報

飛び込んで間に合った。だから現実に和田信賢は指揮室で「軍艦マーチ」を掛けたが、掛けるという 指揮室へ入ってきたので、びっくりして田中のところへ送った。田中君は原稿を持ってスタジオへ 企画は前に決まっていたということですね。

ずっとニュースだとか、戦争関係のことをやろうという思想はあったんです。 Щ 決まっていたんです。定時ニュースという思想の中には、戦争が始まったら初め三○分は

るんだと言っていたんだ。それが急に来るとは思わなかったんだ。 れから第二放送をやめるとか、天気予報はやらないとか、打ち合わせをやりながら、いったいいつや スを出して何もなかったらつないで、また次へいくというやつね。そいつはもう前にやっていた。そ それはもう崎山さんを中心にわれわれが集まつた時に横書きの表が出来ていました。ニュ

たんに海外放送連絡協議会というのを作った。会長が司令長官で……。 いるんですよ。その時に放送司令部というのが出来ているんです。開戦三日後です。海外放送はと そして一二月一一日になるとすぐに「戦時放送業務処理要領」(月二一日廃止) というのが出

ないという大変な問題が起こった。 開戦直後の出来事として、電波管制をやりましたよね。それで北海道とか、 樺太でラジオが聞こえ

いった。 られないんですけども、 山 それは軍管区に合わせたんですよ。いま考えればラジオの電波で飛行機が来るなんて考え 当時はこちらとあちらから出ているのを合わせていけば、東京がわかると

島浦 敵機誘導になるというんだ。

というけれども、そのために東京の放送を無線中継出来るくらいに、鶴岡の技術は進んだんです。 ないから、鶴岡の局は短波で東京を取ったんです。こんなむちゃなことで、戦争のたびに技術は進む 線を通っているでしょう。たとえば鶴岡は東京の軍管区で、番組は仙台から流れている。 島浦 崎山 地方では困って、ジャンジャン電話がかかってきた。こういう時にこそラジオを聞きたい それをやったために混乱したんですよ。混乱したというのは、放送というのは普通の中継 しかたが

何かあったらとにかく同一周波にして第二放送をやめにしてしまう。東京全中一本槍、後はローカ 時から第二次体制に入ったんです。あんまり空襲がこないからゆるめた (笑)。 ルというようなことにして、同一周波にしてしまったんです。それから翌年二月の紀元節 (二月一) の 崎山 最初は、日本全部を一周波にしちゃったんですよ。これは六日からちゃんときめたんです。

ラジオが役に立たん。

į:

(一) 「大詔を拝し奉りて」

ります。東亜全局の平和は、 つたのであります。 只今宣戦の御詔勅が渙発 (広々天下) せられました。精鋭なる帝国陸海軍は今や決死の戦を行ひつつあ これを念願する帝国のあらゆる努力にも拘らず、遂に決裂の已むなきに至

- ****、「非常にあぶく にして彼等の強要に屈従せんか、帝国の権威を失墜し支那事変の完遂を期し得ざるのみならず、遂には は飽く迄平和的妥結の努力を続けましたが、米国は何ら反省の色を示さず今日に至りました。若し帝国 政府の否認、 歩も譲らざるのみならず、かへつて英、蘭、支と連合し支那より我が陸海軍の無条件全面撤兵、 日独伊三国条約の破棄を要求し帝国の一方的譲歩を強要して参りました。これに対し帝 あらゆる手段を盡し対米国交調整の成立に努力して参りましたが、 彼は従来の主張を

なりと雖も一身を捧げて決死報国、唯々宸襟(天子)を安んじ奉らんと念願のみであります。国民諸きに至つたのであります。今宣戦の大詔を拝しまして恐懼(忠れかし)感激に堪へず、私不肖(りないた) であります。 君も亦、己が身を顧みず、醜の御楯 (外敵を防ぐ防人) たるの光栄を同じくせらるるものと信ずるもの 帝国の存立をも危殆(ない状態)に陥らしむる結果となるのであります。 事茲に至りましては、帝国は現下の危機を打開し、自存自衛を全うする為、断乎として立ち上るの已むな

の挑戦を受け祖国の生存と権威とが危きに及びましては、蹶然起たざるを得ないのであります。りません。只管、世界平和の維持と、人類の惨禍の防止とを顧念したるにほかなりません。しかも、 りません。只管、 との最大限と重ねたのでありますが、断じて安きを求めたものでなく、又敵の強大を惧れたものでもあ 更に栄ある帝国の明日を建設せむことを固く誓ふものであります。顧みれば、我等は今日迄隠忍と自重 も破砕するの確信を生ずるものであります。我等は光輝ある祖国の歴史を、断じて、汚さざると共に、 **○年を加える)、我等は、未だ嘗戦ひに敗れたるを知りません。この史績の回顧こそ、数。西曆に六六)、我等は、未だ嘗戦ひに敗れたるを知りません。この史績の回顧こそ、数。西曆に六六)、 当面の敵は物資の豊富を誇り、これに依て世界の制覇を目指して居るのであります。この敵を粉砕** およそ勝利の要訣は、「必勝の信念」を堅持することであります。 建国二千六百年 (を建てた年を紀元とする年およそ勝利の要訣は、「必勝の信念」を堅持することであります。 建国二千六百年 (神話上の天皇神武天皇が国 如何なる強敵を

大なる建設的努力を要すること言を要しませぬ。かくて、我等は飽くまで最後の勝利が祖国日本にある 東亜不動の新秩序を建設せむが為には、当然長期戦たることを予想せねばなりませぬ。 これと同時に絶 雨降りしぶく鉄兜

ことが出来るものであります。 せられたる天与の試錬であり、この試錬を突破して後にこそ、大東亜建設者としての栄誉を後世に担ふ ことを確信し、如何なる困難も障碍も克服して進まなければなりません。是こそ、昭和の臣民我等に課

を挙げて、国に報ひ国に殉ずるの時は今であります。八紘(界)を宇(家)と為す皇謨(つあるを、欣快とするものであります。帝国の隆替、東亜の興廃、正に此の一戦に在り、 この秋に当り満洲国及び中華民国との一徳一心の関係愈々敦く、独伊両国との盟約益々堅きを加へつ (天皇の国家統治 一億国民が一切

御稜威 (威光。) の下にありと確信致すものであります。 かった、此の尽忠報国の大精神ある限り、英米と雖も何等惧るるに足らないのであります。 勝利は常にの下に、此の尽忠報国の大精神ある限り、英米と雖も何等惧るるに足らないのであります。 勝利は常に

二・二六事件当時総理大臣秘書官として岡田総理の救出に成功。敗戦時鈴木貫太郎内閣書記官として 私は茲に、謹んで微衷 (ころ) を披瀝し、 国民と共に、大業翼賛の丹心を誓ふ次第であります。

終戦詔書の起草に尽力。

雨降りしぶく鉄兜三日二夜を食もなくでのかぶと

形見と今は別れ来ぬ倒れし馬のたてがみを断く声も絶えはてて

草生す屍悔ゆるなし 我はつわものかねてより

さもあらばあれ日の本の

草生す屍悔ゆるなし

焔と燃えて迫る見よ

忽ち響く関の声 山こだまする砲の音 山こだまする砲の音 た5** 通信筒よ乾パンよ 造るるものは涙のみ 溢るるものは涙のみ 溢るるものは涙のみ 一八、 今日山峡の朝ぼらけ 細くかすけく立つ煙 大い。 大い。 が油断でひしなかり見ゆ 大い。 大い。 が油断ぞひしなかり見ゆ 大い。 が油断ぞひしな寄れ 大い。 がは草を食むが見ゆ 大い。 が油断ぞひしと寄れ がかかしつわものが 満蒙の闇晴れ渡る 満蒙の闇晴れ渡る 王師 (軍隊)一度ゆくところ亜細亜に国す吾日本

仰ぐ御稜威の旗の下十三、 野の辺の草を紅に染む 幾山越えて今日の日に さし照れる日のうららけさ さし照れる日のうららけさ 焔は上がる山の家 賊馬もろとも倒れ伏し ての辺の草を紅に染む 十二

会う喜びを語り草 会う喜びを語り草

花を手向けて懇ろに敵にはあれど遺骸になるれど遺骸に 興安嶺よいざさらば 十四、

興安嶺よいざさらば

五、

福岡を語る会編、

海鳥社、二〇〇二年)

· 新十七年十二月

は取りやめ、天気予報も中止する」という非常体制に入った。 は一切行わない。地方局はローカル放送のみを実施する。 二月八日、日本放送協会は「全国放送は東京発(第一放送)のみで実施し、地方局発の全国放送 東京、 大阪、名古屋の都市放送(第二放送)

移によって四群、六群、八群別などに変わる。 分け、群ごとに別な周波数で放送を行う「群別放送」に切り替えた。この群別放送は、その後戦局の推 と、一二月二五日からは、昼間は全国同一の周波数 (^ ^ ^ ^) で放送し、夜は全国の放送局を五群に 聞こえない」という苦情が殺到し始めた。このため放送協会では、すこしでもこの状態を改善しよう になったのである。とくに夜間は、遠方の局同士の妨害が激しく、全国の放送局には聴取者から「よく 技術の研究が未発達だったことなどから、各局の電波間に微妙なずれが生じ、干渉を引き起こすこと 波を出し始めたのはよかったが、当時は水晶発振子の確度や安定度が現在より低かったこと、同期調整 波数電波管制」がスタートした。これによって全国の放送局の周波数はすべて八六○キロヘルツの電 の位置を知るのを防ぐためにとられた措置だったが、翌九日からはさらにこれを補完する「全国同一 これは、空襲に際して、出来るだけ放送局の電波の発射位置を隠し、電波の方向によって敵機が自分

木柱を使用、出力もわずか五○ワットと、応急施設の域を出ないものだった。(『博多放送物語』NHK 所にのぼる臨時放送所が建設された。建物としては公共施設や民家の一部を借用し、アンテナとしては しかしこの群別放送によっても聴取状況の悪化は避けられない所が全国にあり、終戦までに計四七カ

「アジア人のアジア」

長から感謝状をもらったんですが。 島浦 海外放送で、これは何のことかよくわからないんだけれども、インド向けの放送で、参謀総

とはあったな。

いう、逆の放送をさせたことがある。それで向うさんが大混乱を起こした時にほめられたというこ チャーリー・吉井(英語アナウンサー)に北から敵前上陸をするやつを、 ジャワの上陸の時に、ニューヨークだかサンフランシスコにニュースを毎日聞かせてお 南から敵前上陸をしたと

同盟通信にも関係があったので、放送局と三位一体の情報網(絡協議会)をつくろうと言って、愛宕山同盟通信にも関係があったので、放送局と三位一体の情報網(海外放送連)をつくろうと言って、愛宕山 れは唯一の情報網なんで、終戦の時に役に立ちましたがね。 に夏ごろから大急ぎで設備をととのえた。あれが開戦の一週間ぐらい前にでき上がったんですよ。 あちこち情報局へ行って見ていると、陸軍は何の情報も持っていないんだね。僕はその時

パ ロー ニュースの種を基礎にして、 えで毎日会議をやりました。それがさっき出た協議会なんです。初めアメリカ側は敗戦を隠してい という厭戦観念を起こさせて、日本がある程度占拠したところで何とかしてすわり込もうという考 内では禁止されていて、聞こえない。それなら短波を使ってアメリカに戦争をやめようじゃないか 談してニュースの種を取らなければだめだということになった。幸いなことにオールウェーブが国 ールハーバー」 初めは僕の所管下であったんで、 真珠湾なんか一年隠していたからね。こっちは負けてきたら隠したが、 ガンを作ったんです。「アジア人のアジア」こいつは効いたらしいよ。向こうは「リメンバー・ なんだ。 陸軍や海軍からも出させて毎日やったんだ。えらい影響があった。 七割ぐらい頭が海外放送にありました。そこで頼母木さんと相 初めはこっちの取った

リベラリストで当時迫害されていたような人も二〇人ぐらい出てくれて、呼びかけ放送

なっちゃった。 をやったわけです。 あれが成功していれば、もう少し形がついたが、ある海軍の幹部の放送でダメに

なんて放送するものだからね。それにしても、海外放送はほんとうに効果があったな。 宮本(そうだった。Yという大佐かな、こいつが馬鹿野郎で、「ニューヨークで大観艦式をやる」

頼母木 在外同胞で帰ってきた人の話をきくと、かなり短波で東京を受けている。

ろめいたものね。「アジア人のアジアには参った」とアメリカの新聞に書いているもの。 宮本 それは聞いていたてしょうね。インドだって、ネールは傾かなかったけれど、ガンジーはよ

宮本、頼母木ラインのアイディアとしては例の「捕虜放送」がありますな。

けに限ればいい。 捕虜がやった時はアメリカは必ず聞く。恋人がどうだ、おかあさんは元気かという、それだ

チキをやっていないんだから、かまわないと思っていた。そのうちに今度はだれを放送してくれ(笑)。 アメリカから捕虜を使って放送するというのはもってのほかだといってきた。僕はイン

≣±

(一) シンガポール陥落直後、昭和十七年 (四二) 四月インドで英印交渉が決裂し、同年八月ガンジー、ネー れわれのインド向け放送について杉山参謀総長から会長宛てに感謝状が送られ、海外放送の全員に会長 インド国民会議派は日本の海外放送の戦況ニュースを印刷配布していたと伝えられている。このころわ らが逮捕され、国民会議派の領袖二○名が投獄されるという一連の反英闘争が発生したが、これより先、 案が全会一致で採択され、ガンジーの名で不服従運動開始の指令が出され、その翌日ガンジー、ネール ル、アザドら国民会議派と回教徒連盟の全首脳が会同したボンベイ会議で、英精力即時撤退要求の決議

から褒賞として万年筆(男子)やシャープ・ペンシル(女子)が支給されたことがあった。 (神谷勝太

(二) 正富笑入、郷敏、 『NHK戦時海外放送』二一二頁)。 神川彦松、永戸政治、直海善三、棟尾松治、杉森孝次郎、 松本滝蔵、 神埼驥一、

正雄など。

戦前最後の船便でアメリカから輸入したハマーランドのスーパープロ五台を愛宕山に設置した。

日本電報通信社

(電通)

の通信部と新聞聯合社

百々

(聯合)が合併して設立された、軍国日本の宣伝機関。

(三) 一九三六年当時の国内における二大通信社である、

四 合軍将兵の氏名、手記、家族あての手紙などの放送を始めた。 一九四二年一月、中国、香港、マレー半島、ビルマ、フィリピン等の戦場で日本軍の捕虜となった連

これを了承し以後捕虜放送のアナウンサーとして活躍した。その後さらにアメリカ人エドワード・イン チャールズ・E・カインズハ爾今日本放送協会ノ海外放送に従事スベシ」なる命令を発し、カインズも は、シドニーの民間放送局のアナウンサーであったこともあり、参謀本部は、カインズに「濠州軍少佐 ス大尉およびフィリピン人ノーマン・レイス少尉が加わり、軍が製作した番組の放送に従事した。 九四二年二月シンガポール陥落の際して捕虜となったオーストラリア軍少佐チャールス・カインズ

ドイツとイタリアで間に合う

聞課長になって、放送を離れるまで、軍には一指も触れさせなかった。 僕は放送というものは根本はみんなを喜ばせるものだ思っていた。 だからすくなくとも新

あの一時間番組というやつは、相当続いた。それから洋楽をぬいたら放送は成りたたんでしょう。し んだらなかなか立ち直らん。だから、 放ったらかしておいたら、非常時だと言って放送が萎んでしまいはしないかと心配したわけだ。萎 崎山先生と相談して一流の演芸陣を総動員して出したんです。

〇七〇〇

時報

〇六四〇

武士道の話

沢庵の「不動智神妙録」(一)

かし軍からはすぐ敵性音楽とくるんだよ。

春日 ベートーベンぐらいは放送出来る線を考え出した。開戦の日だって日響(今のN響)をやって

いる。

宫 本 幸いなことに、大体ドイツとイタリアで勇ましいやつは間に合うというわけでした。

すよ。 ディスクをとって、半分ずつミックスすることになった。ところがマルコニーのほうが硬い。それで それを大詔奉戴日に出せというので、東条さんに二度読んでもらった。東条さんは「芟除」というの **両方の音を合わせて、両方つないでテープへ取直し一本にした。戦争は放送の面でも発明の父だ(笑)。** をせんじょと読み違えちゃった。それをマルコーニの録音機の大きいやつに ̄つとって、それから 頼母木 春日 開戦の日に中村アナウンサーが間違わなかったのを、東条さんに読ませて、録音をとって、 海外放送では軍部はジャズバンドをやめろというんだがこれは餌だといって残したんで

参考 全国放送番組(昭和一六年一二月八日 月曜日)

〇六三〇 0×10 O 大 O O ラジオ体操 ニュース(香港に総動員令発令ほか) 内 楽 (レコード)

早大教授 伊藤康安 臨時ニュース

(開戦の発表、

臨時閣

臨時ニュ 1 ス 開 戦の発表)

〇七〇四 ラジオ体操

〇七一八 朝の言葉(仙台) 臨時ニュース (開戦の発表)

「伊達正宗と太平洋」

〇七四一

ニュース(開戦の発表、米陸軍香港の総動員令発令)

音楽(レコード)

仕事と共に(大阪

吹奏楽

一、行進曲 行進曲 皇軍 空軍の威力」 Ó)精華」

行進曲 行進曲 皇軍の精華」 暁の進軍」

行進曲

大艦隊の行進」

行進曲 空軍の威力」

行進曲 行進曲 - 大艦隊の行進」 暁の進軍」

行進曲 皇軍の精華」

行進曲 大艦隊の行進」 空軍の威力」

行進: 行進曲 一暁の進軍」

> 指揮・福喜多鎮雄 陸軍軍楽隊作曲 大阪吹奏楽団

海軍軍楽隊作曲 江口 [夜詩: 作曲

口夜詩

陸軍軍楽隊作曲 作曲

海軍軍楽隊作曲 口夜詩 作曲

陸軍軍楽隊作曲 軍楽隊作曲 口夜詩作曲

博

) 译斉韦兄		
) 臨時ニュース(ハワイ奇襲作戦に成功、シインガポール他爆撃)		
	一音楽(レコード)	一一〇九	
) 臨時ニュース(英砲艦一隻撃沈、米砲艦捕獲の戦果)	1.00	
	軍隊行進曲集		
) 吹奏楽(レコード)	1 〇四〇	
逓信省管理局長 景山準吉	国と家のためになる郵便年金		
いしんしょう	家庭婦人の時間	10110	
	一音楽(レコード)	一 〇 五	
) 臨時ニュース(開戦の発表、日米交渉の経過と対米通告内容)	〇九三〇	
) 経済市況	○九三○	
	一 音楽(レコード)	〇九 二 二	
文部次官 菊池豊三郎	朝礼訓話		
) 国民学校放送(全学年の時間)	〇九〇〇	
) ラジオ体操	○八五○	
) 臨時ニュース(開戦の発表、臨時閣議)	〇八三〇	
江口夜詩作曲	四、行進曲「暁の進軍」		
江口夜詩作曲	三、行進曲「大艦隊の行進」		
海軍軍楽隊作曲	二、行進曲「空軍の威力」		
陸軍軍楽隊作曲	一、行進曲「皇軍の精華」		
) 国民学校放送 (全学年の時間)	○九○○	
) ラジオ体操	○八五○	

時報

アナウンス

詔書奉読

君が代

大詔を拝し奉りて

愛国行進曲

大本営陸海軍部発表(マレー半島上陸、

香港攻撃)

一、行進曲「皇軍の意気」

二、大行進曲「アジヤの力」

指揮· 服部逸郎 東京交響吹奏楽団

大政翼賛会・日本放送協会撰定 服部逸郎編曲 服部逸郎作曲

ニュース(マレー半島の奇襲上陸作戦成功、 香港攻擊開始 日本放送協会業務局告知課長

中村茂

ニュース

一二五九

一三三七

政府声明朗読

三、愛国行進曲

音楽(レコード)

音楽(レコード)

一三〇九

ニュース

一三六 ニュース

音楽(レコード)

三四五 経済市況

臨時ニュース(防空実施下令)

音楽(レコード)

日本放送協会業務局告知課長 内閣総理大臣・陸軍大将

中村茂

八三〇

<u>Fi.</u> 臨時ニュース (防空実施下令)

五〇八 職場への放送

音楽(レコード)

ラジオ体操

音楽(レコード)

五三〇

ニュース(防空実施下令、

臨時議会招集、

非常時金融対策に対する蔵相談話)

音楽(レコード)

七00 六四〇 臨時ニュース(フィリピン、香港空襲) 経済通信(経済市況の名称変更)

合唱

敵性撃滅

音楽(レコード)

八〇〇 七五〇 番組予告

八〇四 小国民のシンブン

ラジオの前にお集まり下さい

音楽(レコード)

合唱と管弦楽

、管弦楽「軍艦行進曲

海ゆかば

二、合唱

指揮· 伊藤昇 日本放送合唱団

土岐善麿作詞 伴奏 東京放送管弦楽団 伊藤昇作曲

情報局第二 一部課長 宮本吉夫

指揮 ・ 片山頴太郎 東京放送管弦楽団

日本放送合唱団

瀬戸口藤吉作曲

大伴氏言立 信時潔 作曲

(H.)

管弦楽「分列行進曲 愛国行進曲 アジヤの力 太平洋行進曲 護れわが空 遂げよ聖戦 敵性撃滅 国に誓ふ 大政翼賛会・日本放送協会撰定 柴野為亥知作詞 野口光次郎作詞 佐藤惣之助作詞 土岐善麿作詞 服部逸郎編曲 長津義司作曲 信時潔作曲 内田元作曲 伊藤昇作曲 陸軍省制定 海軍省撰定

九〇〇

君が代 時報

詔書奉読

大詔を排し奉りて(録音)

九三〇

宣戦の布告に当たりて国民に 愬ふニュース(ハワイ、マレー、フィリピン、 香港の戦況

朗吟

戦いは勝つべきものぞ

情報局次長 奥村喜和男 日本放送協会業務局告知課長

内閣総理大臣・陸軍大将

東条英機

中村茂

伊藤長四郎

(八木沼丈夫作)

(海犬養宿弥岡麿作)

(防人の歌

内藤清五 瀬戸口藤吉作曲 山田耕筰作曲 海軍軍楽隊

指揮 ・

大蔵次官

谷口恒二

隊長

(斉唱付)

行進曲

吹奏楽

金融の非常対策

二、今日よりは 一、御民われ

行進曲 「軍艦」 「聯合艦隊」

四 ニュース歌謡

宣戦布告

全国民に告ぐ

吹奏楽「海行かば」外

ニュース(ハワイ空襲の戦果、 戦艦二隻撃沈、 戦艦四隻、大型巡洋艦四隻大破など、タイ

音楽

国進駐)

、吹奏楽

①軍歌「世紀の進軍」

|二軍歌「海洋航空の歌」

四行進曲 三 行進曲 「護れ海原 「海の進軍」

合唱

「愛国行進曲 「太平洋行進曲

時報

今日の戦況とニュース(開戦第一日の戦況とりまとめ)

臨時ニュース・他(ハワイ真珠湾で米戦艦ウェスト・バージニア、オクラホマなど撃沈、タ イ国進駐

作詞 野村俊夫

作曲編曲並指揮 古関 裕而

伊藤久男・霧島昇 東京放送管弦楽団

防衛総参謀長・陸軍中将 指揮・隊長 内藤清五 小 林 海軍軍楽隊 浅三郎

海軍軍楽隊作曲

海軍軍楽隊

海軍軍楽隊 海軍軍楽隊

海軍省選定

〇 〇 〇 八 〇

終了には、おくれれ大混乱の模様)

戦時下の放送

古 関 裕 而 「津軽めらしこ」など現在も活躍中。第四回放送文化賞受賞。 作曲家/戦時中は東南アジア慰問団に参加、ニコース歌謡なども作る。 ミュージカル

横 遠 ス 東京都モーターボート競争会監事/太平洋戦争当時のNHK報道部長としてニュース

報道に尽力。のち理事となり広島中央放送局長 久保田万太郎氏の後文芸

日本テレビ芸能局顧問/仮放送時代から芸能番組を担当、

小林徳二郎

Щ

重

杉 本亀一 部長となる。戦時中、ビルマから雲南にいたる。長途の慰問旅行団長! NHK学園理事長/大阪局の名アナ。従軍録音隊として弾丸とびかう下から戦争実況

を放送する。のち業務局長、NHK報道局長を歴任、 監事となる。

日本の戦時下らしい一つの形として「東亜放送」というものからいきましょう。よくわからないのは、 島浦 支那事変が始まって大東亜戦争が終わるころまでがいわゆる「戦時下」でしょうけれども、

当時は日本のものであるのに東亜放送協議会というと台湾も朝鮮も入っていた。 横山 前から朝鮮とか台湾の放送局は植民地扱いだった。日本放送協会のサービスヱリアは、

日

本内地に限られていて、 朝鮮は朝鮮放送局、台湾は台湾放送局がやるという建前になっていた。

台湾が加わった東亜放送協議会で第一回東亜リレー放送を昭和一五年(四○) にやっていますね。 東亜建設と興亜の月」というんだからなかなかしゃれている (笑)。東京のAKの中に事務局がありま 満州事変が始まって満州電電ができ、シナ事変が始まって華北広播電台ができ、それに朝鮮、

したが、 台北や朝鮮へはNHKから人は行っていませんね。

95

横山 アナウンサーを頼まれて養成したぐらいでしょうね。

小林 それでこちらから前線取材班が出てゆく。

いう話を聞いたことがあります。

新聞社は盛んに従軍記者を出す。NHKは何も出さないじゃないかと、軍から叱られたと

沼博 (現日本放送出版協会副社長) のコンビで武漢作戦を放送したんです。 になり、 の時はあぶないからダメだ、ということだった。それから間もなく河西三省アナが取材に行くこと ために派遣をするだけの要員がない。徐州戦取材へでかけたのがはじめてで、軍の要請もあった。 島浦 横山 上海にいた松隈君が一緒になって徐州会戦の放送をやっているんです。その次が中村茂、浅 シナ事変が始まったころに、僕が矢部謙次郎放送部長に行きたいと話したことがある。そ 建前が違うんだ。当時というのは取材をしないということになっていて、前線取材をする。

そして上海にいた藤島克巳君 (現NHK理事) や現地で石集をくっていた今幡兼六君 (現東芝技師長室付) が は放送協会と軍のトップ会談で決まったと思う。僕は当時告知課長で、河西君は僕のところにいた んだけれども、河西君を出せという話は天下り的で、徐州戦をやるんだという話も何もなかった。 横山 武漢へ行った中村・浅沼組に技術屋の野村達治君(現NHK技師長)がついて行っているんです。 中村君あたりは放送協会から出すという制度が確立してからの話なんです。 河西君時分の

等と私が行った中支、北支の一班。これは戦後経営が中心で、戦争といえば私が乗った重慶爆撃と、 島浦 その後が高野(重幾、故人、中継係)、飯田次男(現NHK広報室長)アナ、、杉本、内田、 安田技師

手伝っているんだ。

黄河をはさんでの対敵宣伝放送位でした。

命がけの前線報道

うことで変な宣誓文を読まされて、長沙で作戦を始めるからそれを放送しろという話だった。 杉本 その次の僕のほうは明らかに作戦が目的だった。陸軍省に呼ばれて、軍属にするからとい

んだん放送取材班の評判がよくなってきたんですね。 の場合は所はいえないが大きな作戦が起こりそうだから、もう一班出さないかということでした。だ 横山 それ以前はとにかく戦後経営をやっているところを取材しようというわけだった。

岳州にいきなり行った。それで長沙の作戦に追いついたんです。 **杉本** 僕達の一行 (堀場中継係、河辺技術、由篠技術) は上海に行って、すぐ漢口から南下して湖南省の

の急降下爆撃の時に乗っていって、帰ってきてから実感放送的にまとめたり、前線の弾の来るところ 小さいものでも取り上げ、戦争というものの実体を想像してもらうよりしょうがないと考えて、長沙 スでやっているんだから、内地の人達のほうがよく知っている。しょうがないから一つ一つ前線の でまとめていいのかと、非常にとまどったなあ。戦局全般の規模なんていうのは、毎日ラジオニュー 戦争録音などいままで誰もやったことはない。それをああいう広大な戦線で、何を一体どういう形

古関 その当時の録音というのは、円板で大変な機材だったのですね。

発電機から持っていかなければなりませんからね。

まで行って、兵隊と対話をしたり、いろいろと送ったわけだ。

ちょっとかたむけると電池の中の希硫酸がこぼれる。僕は洋服をボロボロに焼いちゃった。

単な機械があったらいいものがとれましたね。 そして録音盤は円板でしょう。砂ぼこりがもうもうとしているところなので、なかなか刻めない。

簡

島浦(そののち南に飛んだんですね)

中支の長沙作戦の後、洞庭湖畔の仲秋名月の岳陽楼なんていうのは、いい放送になるんじゃ

上海にいま行ったから、すぐ追っかけてくれというので、上海に行った。上海の報道部長は秋山中佐 京の総軍からすぐ帰ってきてくれという。南京へ行ったらシナ派遣軍の総軍報道部長の岡崎大佐 ないかと、棟田博とか、山岡荘八、摂津茂和、久生十蘭などの従軍作家なんかと計画していたら、南

「きみらに歴史的チャンスを一つつかませるから、いまからすぐ広東に行ってくれよ

「何をするんですか」

岡崎さんと二人が

と聞いたら、

ならないし、きみらも腹を切ってもらわなければならない」 香港を攻めるかもしれない。だがそういうことをおれが言ったとわかればおれも腹を切らねば

という。もう一一月になっていました。

小林 それは大変なことでしたね。で広東へとんだの。

杉本 ええ。便船を求めて上海から南支派遣軍のいる広東まで行った。行ったけれども、

てのんびりしたものなんだ。

一二月五日か六日ごろ、報道班員は広東を離れるから二、三日分の食糧を用意して集まれという。

たら方向が違う。国境のほうに向かってどんどんいく。トラックが着いたのがいまの中国の入口だ。 行ってみたら刷りものに昆明作戦を始めると書いてある。 九竜半島を南下していたんです。 昆明をまたやるのかいななんて言ってい

島浦 それからが、ほんとうの戦争実況放送になってしまったわけだな。

合ったり、飛行機が爆撃したりしている。その真中の高いところへ立って放送するんだから、ずいぶ 見える。きわめて放送向きでした。向こうは動かないし、こっちは九竜ま出来ていて、両方で砲撃し 塞攻略戦は両方が全部見える。うしろが味方の砲兵陣地で、敵味方の問の高いところに立つと、全部 ん流れ弾がきたり、破片なんかが飛んで来て、新聞記者も死にました。 野戦では大きな中にポツンと入っているわけだから状況がよくわからないんだけれども、要

それが大東亜戦争の夜明けだな。

たら追っかけて大本営の報道部長から電報がきて、「香港攻略は大変感銘を与えたから、ついでにサ イゴンへ行け」(笑)。今度はシンガポール攻略戦だ。 **杉本** そして、もう横山さんが帰還命令を出してくれるだろうと思って待っていたんだ。そうし

それでせっかくここまできたんだから、足を延ばしてビルマまで行ってくれという(笑)。 んですね。だから、山下奉文・パーシバル会見なんていうのは、台湾放送協会の取材班が取ったんだ。 に録音隊を呼んで今日立たせたところだという。南方派遣総軍と支那派遣総軍とは連絡がなかった サイゴンに行ったら、サイゴンの報道部長は独自の立場で台湾放送協会からシンガポ 山を越えて、 1 ル攻略戦

ビルマへたどりついたんだ。

99

という。そして三月一○日の陸軍記念日にラングーンが落ちて、今度は、北上してマンダレー作戦だ ちょっと魅力があったのは、文学少年時代、上山草人の「マンダレーへの道」というアメリ それを軍の偉い人も言っていたね。悪いクジをひいた、わしらのところは終点はインドだ マライ半島はシンガポールという目的地があったが、ビルマは目的地がないから大変だよね。

放送人として、杉本さんがいちばん記憶に残った放送というと……。

カ映画があったので、何かものになるんじゃないかとまた、ついていっちゃった (笑)。

のは、実に壮観だった。そして、帰ってそれを放送して録音盤を発送しかけたら、寺田中佐という口 があった。 機長が合図をするから、飛びおりて四つ数えてこれを引きなさい。そのころまだ日本には航空母艦 うと床がガラス張りの偵察機にのってマラッカ海峡に出て行った。落下傘をつけて、落とされたら 杉本 ビルマにいる時、やっとラングーンが落ちて大船団が入ってくる。それを一つ収録に行こ 空母を中心に船を数えたら五三杯ありましたが、大船団がマラッカ海峡を北上してくる

機で送って、もし飛行機を落とされてとられたら、 ということで、とうとうそれは日のめを見ずじまいだ。 「お前らは利敵行為をするのか。五三杯船団が入ってくるなんていうのを録音盤におさめて飛行 敵に情報が全部知れるじゃないか」

やかましい報道部長が

足跡あまねき「慰問団」

小林さんの率いる大慰問団は、まずシンガポールへ行ったわけでしょう。何時ですか。

昭和一七年(glt) 一〇月八日に東京駅をたったんです。大阪に寄って、第一スタジオで何

101

ちゃってる(笑)。 は潜水艦がウジャウジャいるというので、大阪にいて徳川夢声さんなんかもう行くのがいやになっ かやりました。 船待ちさせられたんですよ。三日か四日でした。 全部で三二人。もう台湾の近所に

でした。ほんとうは一万二〇〇〇トンだということでしたね。そしてわれわれ慰問団は船倉の特別 古関 洛陽丸という、もと南米航路の船らしいですね。八○○○トンか九○○○トンぐらいの船

郎さんなど東管が一二人ぐらいでしたね。 中軒鶯童さん。 井みどりなど、舞踊団の人が五人ぐらいおりました。司会と漫談が夢声さん、浪曲は〈流れ雲〉の梅 小 林 歌手は内田栄一、波岡惣一郎、奥山彩子、亡くなりました豊島珠江など五人です。 いまの三平のおやじの林家正蔵さん。後は伴奏の東管の前田磯さんとか、久岡幸一 舞踊 は石

島浦 そして古関さんが棒ふり。

副団長です。 古関 小林さんが団長で、大島宗一さんと松島通夫さん(ともに当時のNHK芸能番組プロデューサー)が

古関 キャセイビルを大東亜ビルと言っていまして、その中の大東亜劇場で第一回をやりました。 まず昭南島へ着きまして、五日か一週間いました。

見てびっくりしましたよ。 そこでディズニーの「ファンタジア」をお礼に特別に見せてもらいました。接収したフィルムですが、

小林 私のそのころの日記を見ると、古関さんが軍歌か何かを作曲したでしょう。

「大南方派遣軍の歌」というのを頼まれまして作曲しました。

の後ビルマへ入っていった。小林(そのお礼だという) そのお礼だというんで二○○○人ぐらい入れるところで、三○人ぐらいで見たんです。そ

空権はどっちかわからなかったね。 トの立派な家で人間らしい生活が出来るなと言っていたら、その晩空襲があって、屋根から下までつ つ抜け。焼夷弾の不発ですよ。コンクリートだなんてこれは張ぼてじゃないか(笑)。あのころから制 初めてラングーンの町へ入って、亡くなった高見順さんが隣りの部屋で、 やっとコンクリー

警報が鳴ると飛行機が飛ぶんですが、これは逃げるためですね。その後、マンダレーへ寄りましたが、 ほんとうに廃虚でした。 **小林** ラジオで、あしたの何時に行くぞと、インドから放送して、その時間にきちんとくるんです。

まで行った。 古関 あそこで二つに班をわけて、インド国境行きと、シナ国境行きにし、僕は小林さんと雲南省

横山 雲南省まで行ったんですか。ずいぶん奥地まで行かれたな。、 慰問団 の足跡が一番遍しですね。

長は即死でした。曲師のおばさんは肩の骨折。曹長を荼毘に付して、われわれは一晩お通夜をしま われわれは、 おばさんと、 古関 雲南省のユウリョウで慰問して、最前線のラモールに向かったんです。鶯童さんの曲 うしろのトラックに乗ってついて行きましたら、ある山道のカーブで車が転倒して、 踊り関係の子二、三人がシボレーのオープンカーに乗って、曹長が運転して先頭を行き、

7

本へ帰ってきたのはあくる年の二月初めでした。ですから一○○日まではいっていません。 小 林 その後は曲師なしで浪曲をやってもらったんですが、これはやりにくかったそうですよ。日

島浦 話がかわりますが、あのころは国内では芸能ものができなかったでしょう。

情報局が主催して「戦時下芸人の心得」なんていうのを浅草の松竹座で、情報局の軍人がきてやっ

ている。浪曲は?

米若はあまり出たがらなかった。それを無理やり毎月出すようにしたのも浪曲動員協議会です。一端やか 方では浪曲作家協会というのもできて、新しい作品を書かせたんです。 すが、それと同じような恰好で浪曲動員協議会というのができました。それまで放送には虎造とか、 役立つものにしようということで、文芸浪曲というのを久米正雄、などという人たちが書いたんで 上会というのがあるんです。それはつまり浪曲を三尺ものから、もっと上品にするとか、士気高揚に 小 林 浪曲は「浪曲動員協議会」というのを、情報局が音頭をとって作りました。その前に浪曲向

んだけど。 島浦 そこでできたのが「南京攻略一番乗り」だとかね。あんまりおもしろくなかったろうと思う

のは、 鶯童という人なんか、 小 林 天中軒雲月で、伊丹秀子になって最近またやっていますね。これは「銃後の母」にピッタリで 広沢虎造が部隊長になったりするんだから、これはちょっと無理ですよ。そういう点では **゙わりあい融通のきく人でしたし、米若もそうでしたね、その時に一番騒がれた**

古関 毎週日曜日でしたかに、傷病兵と遺家族慰問の番組がありまして、それによく引っぱり出さ

昼間は放送の中継で、夜は町の劇揚でやったりしました。

ものまで大目に見てもらえたというわけです。 横山 あれも正直に白状すると苦肉の策で、慰問というワクの中に入れておけば、相当やわらかい

占領地にも放送局を建設

も行きましたが、これは完全に軍の管轄ですね。 島浦 香港、シンガポールから始まって南方を占領しだして日本の放送局を作ったでしょう。私

横山 最後まで軍だったな。

島浦 パラオ放送局は戦争と無関係。

戦争直前にできた。むしろ戦争が始まってから追い払われたほうです。

小林 島浦さんはジャワへ行かれたの?

島浦 ええ。ジャカルタ放送局の放送部長でした。

ですが、ジャワは非常に恵まれているから、慰問の要はない。そのころ都々逸に「ジャワは天国、ビ われわれもジャワへやってくれと言ったんです。そうしますと寺内元帥が言ったというん

ルマは地獄、どっちつかずの昭南島」(笑)。

島浦 占領地の放送局もフィリッピン、ビルマ、ジャワ、シンガポール、それにスマトラ、セレベ

ス、ボルネオとずい分できましたね。

横山 香港もあった。とにかく占領地に元から放送局があったところは、 無論それを修理して、す

戦時下の放送 105

ぐ使えるようにしていました。セレベスあたりは新しく作った。

南方室というものを作り、南方の放送関係の窓口にしていましたね。それで南方室と南方の放送局 ボルネオなど、ついに出来ないうちに戦争が終わっている。NHKの本部には、会長直属で

古関 私も内地で聞いた記憶があります。

とつないだ多元放送なんていうのをやり、ジャワからも放送しました。

南方へNHKから行った連中でフィリッピンは気の毒でしたね。ほとんどみんな死んじゃっ

たでしょう。 られたり、逃げきった人は山の中で飢死したりした。 横山 二○年(四五)の二月三日に、マニラ放送局を自分たちの手で破壊してから、逃げる時にや

小林 その時に生き残ったのは宮沢縦一 (音楽評論家) 君ですよ。 負傷して、逃げる時に置いてきぼ

りをくったんです。

防空壕できくラジオ

のをたくさん使った。敵の空襲に備えたんでしょうが、ほうぼうで放送が聞こえなくなったという 大東亜戦争が始まってすぐに第二放送をやめたり、放送の電力を落として同一周波という

苦情が起こり、それで今度は軍管区別にした。これは防空情報を出す必要上からですか。

横山 そうなんです。だから軍司令部の地域ごとにまとめたわけだ。

のまえの段階はほとんど全中(中継)一本で同一番組ばかりをやっていた。そうすると、そういう意 島浦 中継系統なども編成変えして、たとえば福井局が大阪管内に入ったりなんかしましたね。そ

味でのブロック・ローカルができたわけですね。

の放送と毎月行ったりきたりして番組の打ち合わせ会をやって、相当活発にローカルもやった記憶 いうことになったんです。しかし、波長の同じ部分は同じ放送をしなければしかたがないわけです。 横山 僕は広島にいた。広島と熊本が第四群というグループなんです。だから広島の放送と熊本 夜はいけないけれども、昼は電波が遠くまで届かないからローカル放送をやってよろしいと

があります。 小林 私もその時は名古屋で、名古屋というのは全中が月にいっぺん出ればいいくらいでしたが、

う。 僕は神宮球場へ行ったんです。空襲警報が出たから身分証明書を出したりして一生懸命頼んでやっと 地下鉄でNHK 京の初空襲が四月一八日です。四月一八日は土曜日で、あの日は六大学リーグ戦が始まるというんで 風説いたずらに紛々、確報知るべからず」と書いてあって、非常に頼りない。日付は四月一九日で東 静寂喜ぶべし」と書いてあるんですが、四月になりますと「新聞紙、ラジオともに沈黙せるをもって、 ウンサーが続々と出勤してくる。中にはゲートルを巻いて弁当を三つぐらい持ってくるのもいる (笑)。 ローカル放送はずいぶんやりましたよ。 横山 島浦 だから爆弾が落ちるまで軍が全然知らないんですよ。警報を出す暇もないんだ。だから、 ドー 昭和一七年(四二)一月二目の永井荷風の リットルの東京空襲は非常な不意打ちだった。レーダーの下をくぐってきたんでしょ へ帰ってきたわけです。それがドーリットルの最初の空襲です。帰ってきたらアナ 『断腸亭日記』に「夜は月明るくラジオ聞こえず。

局へ警報を出せという連絡は全然なかった。

あれは銚子沖から入って京浜地区と名古屋をやって中国大陸へ降りたんでしょう。

うね。 島浦 そのころは、空襲警報を発令する命令系統というものは、全部出来上がっていたわけでしょ

したのはだいぶ後です。サイパンが落ちてから空襲の可能性がでて、その後次第に頻繁になるわけ 空下令と同時に空襲警報なんかを放送する体制が決まっていただけでした。それを本格的にやり出 ですね。 横山 出来上がっていたけれども、まだ軍司令部の中へマイクロフォンを持込んでいませんし、

横山 島浦 これはもうそういうふうになってしまえば、ラジオ番組というのは警報と防空情報以 日本各地で爆撃が始まったころは、防空情報というのは大変に活躍したんでしょうね

なかった。というのは警報が出ると電波を止めなければならない。それだからどんな番組が組んで あっても、ブランクになっちゃうわけです。そこで聞いているほうではラジオをつけっぱなしにし ておくと、時々ブーッとブザーが鳴って、出てくるのは警報か情報だけ。

ども、機械のほうが追いつかない。ぼくらなんかも、とうとう最後にはラジオがぶっ壊われちゃって、 **杉本** 真空管が故障すると、かわりの真空管が手に入らなくて、聴取者はどんどん増えるんだけれ

ラジオなしで非常に不安だったな。

各地で電話線や電灯線を利用した有線放送の実験を早くから数回にわたってやっていますね。 みんな防空壕へ引き込んで、そこで聞いていましたね。

僕のところは商売柄、有線放送を付けてくれた。一部だろうけれども、鉱石受信機が復活し

ましたよ。すぐ電気が止まってしまうからね。

亜戦争と、ことごとく増えていきましたね 小 林 放送というのは事変ごとにだんだん聴取者が増えた。 上海事変、満州事変、 シナ事変、

大東

横山 それ以外に災害があると増えている。

島浦 戦前は一七年(四二)がピークで一七年初めが七○○万です。 おそらくもっと伸びているはずだけれども、資材の関係でその程度なのですね

註

厚手の木綿・麻・ラシャ・皮製の繃帯状のもので、すねに巻いて保護する。

時娯楽ものが復活

の入れ方というのは相当変わったそうですね。 島浦 戦争の形勢がだんだん悪くなって負けるというところまでの間、 情報局の番組への口ばし

それは変わってきましたね。シナ事変が始まってだんだん拡大していくにつれて、日本の

横山

国論を統一しなければならんというので、各省から情報担当官を集めて情報委員会を作ってやって いたんです。これを行政的に強力にするために、情報局というふうにまとめたんです。 しかし、まとめたとたんに軍から相当の人が入り込んだ。部長級は第一部長が陸軍少将、第二

を指導するんだから、 は海軍少将ぐらいの人で、半分ぐらいは軍人が入っていました。そういう情報局が新聞、雑誌、 間接に軍が指導しているのと同じでしたね。

開戦当初に放送をこういう方向へ持っていくんだというような方針があったかどうかが

といわれた。

てきた時に、情報局では指導要項みたいな「放送指導の基本方針」「実施要綱」「政府放送」「東亜放 横山 支那事変がだんだんああいう状態になってきて、それから国際間の雲行きがあやしくなっ

問題ですが……。

送及び国際放送の指導」の五点をきめていますね。

具体的な判断が、たとえば開戦当初は軍歌をふやせ、ニュースをふやせとか、色物はやめ

各部長と情報局の放送課長が人った編成会議というのが、毎日開かれていた。、 と、放送局であろうと、この場合そうするよりしようがないと思うことはみんなが賛成しますからね。 ようなどという判断は外から指示されたというよりも、放送局の中での自主的な判断だったんですか。 **横山** それは編成会議を毎日やっていますから、ある人が意見をいえば、それが情報局であろう

ると私は青い顔をして部屋へ帰ってきて担当者をどなりつけたり (笑)。 それでゆうべやったあれがいけないとか、何とかというのが出てくるわけですよ。そうす

私は開戦の日からシンガポールが落ちるところまで、ほとんど毎日引っぱり出されました

から、小林さんの怒っているのは毎日見ていた(笑)。

古関

送しちゃったんだ。そうしたら終戦のすぐ後の理事会で石井光次郎さんが 終戦の晩に合唱があってその中に「青葉の笛」の「一の谷のいくさ破れ……」というのを放

終戦の日にああいう平家滅亡の歌をやるなんてとんでもない」

横山 反対に開戦の日に、なるべく士気を高揚するような、行進曲風なものをやれという指令を、

う抗議がきた (笑)。おそらく、行進曲集レコードをかけた中に入っていたんだろう。 全国へ出したんですよ。しばらくたってから九州のどの局かが、「星条旗よ永遠なれ」をやったとい

時局関係の座談会とか、ストレート・トークの番組がふえてきて、その間に古関さんが数時間かでお 編集部 開戦と同時に番組がほとんど報道中心になっていますね。これがしばらく続いて、後は

作りになったような「ニュース歌謡」がありますね

どの騒ぎでしたからね。それはたとえば情報局の指導でそういうふうな番組にしたというより、む 横山 古関 アメリカとイギリスとを向こうにまわして戦争するなんていうのは、日本がひっくり返るほ 一二月八日に第一発を出しました。「日本開戦す」だったと思います。

しろあれこそ国民感情だったんじゃないですかね。

かなりの比重をもってきている。これは劇場が閉鎖になったのは一九年(ハロハ)二月ですが、その前 になるというので、また復活してきた。それに印刷媒体は紙やインクがなくなっているわけです。 からしだいに公開の演芸が窮屈になってきていたことの余波じゃないでしょうか。放送だけが頼り こっちの旗色が悪くなってくる、そう一日中ニュースをやっているほどの材料がなくなってきたん 横山 編集部 一、二年のあいだそういうのがあり、一八年 (四三) ごろからは、また娯楽番組が復活して、 たしかにそれもありますね。もう一つの要因はだんだん戦線が膠着してきたり、 あるいは

島浦 しようがないからそこに高級なる娯楽もやらなければいかんということが出てくるわけで なんですよ。

そこでいいものをやれ、名人を出せということになった。

にいる人たちを芸能嘱託にお願いしたりね。 杉本 作家に、小人数でも出来るドラマを書いてもらったりしていますね。一流の芸能人で東京

とたちですね。作家、演出家、作詞作曲家、 市川中車、守田勘弥などという歌舞伎の人から水谷八重子、夏川静枝、 歌手、俳優など三九名。 山本安英といったひ

芝居や寄席が閉鎖されてしまった中に、放送がすこしでも戦時生活にうるおいのあるよう

なものにならなければ、という努力がそういう形となったんでしょうね。

明朗化方針」をきめ、五月から放送もそれを確認した形で出ていますね。 編集部 政府がそれに気付いたのが一九年 (MM) に入ってからですか、次官会議で「戦時生活の

切られなかった武蔵

これが大変な評判で、その時間になると風呂屋が空になるというのは、あの時に云われはじめた言葉 大仏さんの〈鞍馬天狗〉というドラマを連続でやったのは、小林さんが部長の時でしょう。 戦時中一番印象に残った放送というのは何だろう。〈宮本武蔵〉かな、〈学徒出陣実況〉かな。

から、やっぱり剣豪だ(笑)。 **〈宮本武蔵〉はその後ですか。あれは名放送だったな。一回も空襲で切られなかったという**

小 林 武蔵は支那事変のころから続いていました。市川中車と夢声さんがかわり合ってやったん

ですよ。最初は擬音を入れたりしてやったんですが、だんだんその必要がなくなっちゃって、夢声一

人になりました。この反響も大きかったですね。 島浦 あと連続ものでは〈姿三四郎〉 があるんだね。 単発ものでは和田信賢の朗読で、一七年 (四二)

の六月にやった〈夜鶴の声〉というのが評判がよかったらしいですね。

も立たなかったと思うんですけれども、やっぱり一応企画を立ててやったんですか。 一九年 (四四) から二〇年 (四五) の空襲がものすごい時は、番組の編成なんていったって企画も何

らない。それで何とかかんとか理屈をつけて、休止時間をふやして性能が下らないようにしたりな 送機の真空管なんですよ。これが切れたら代わりはない。だから、出来るだけ大事に使わなきゃな **横山** 一応、時間は埋めていくことになるんです。もっともあの時分には機材はないし、 問題は放

いっていました (笑)。 **編集部** 受信側のセットがダメになっていたら、終戦の詔勅も、あんなに早く全国に滲透したかど 「真空管がやせるから、むやみに聞きなさんな」ということを、放送協会の下村海南会長が

んかしている。

うか、ということが問題ですね

なかったでしょう。 ほんとうにそうですね。とにかくラジオというものが、あんなに生活にとけ込んだ時代は

送も景気がよかったが、後半は戦局われに利あらずで、物資も不足してくるし、放送も明るい内容の ものがしだいに少なくなってきて、最後は警報だけというぐあいになった。 島浦 日本がああいう形で太平洋戦争につっぱしって入っちゃった。最初は勝っていたから、放

それで「終戦の詔勅」で幕になるんだが、これらの高価な代償を払って、いったい放送は何を得た

んだろうかと考えちゃうんですよ。

なった、といえるでしょうね。僕は、それが戦後のラジオの再興につながると思うんですよ。 しろ娯楽の媒体としての意味が大きかったラジオが、報道という面での役割を強く発揮するように むという、ある意味では放送中心の生活が確立したという点は注目していい。だから、いままで、む 道機能がフルに発揮されたということが第一でしょうね。戦争というものの是非や、 命がけで送った番組の中身は置くとしてもね。 島浦 **杉本** なんといっても、さっきから話の出ているラジオの偉力というか、独自性みたいなもの、報 やはりそうでしょうね。ラジオの速報性は完全に実証されたし、防空壕の中にまで持ち込 われわれが生

終戦と放送

迫 水久常 参議院議員。 終戦時の内閣書記官長として終戦工作に尽力し終戦詔勅を起草。

は政界に進出し、経企庁長官、郵政大臣などをつとめる。

樫 準 二 毎日新聞社友・編集局嘱託/大正九年万朝報入社以来宮内省記者として取材にあた 宮中の盛儀にはとくに招かれるという宮廷記者の長老。

藤

山正毅 神奈川大学教授・英文学/当時はNHK企画部副部長として番組編成の事実上の責任

者。

崎

頼母木真六 元NHK経営委員、 大倉観光取締役/当時、NHK国際部長として日本の立場を海外

に伝えた。

春 日 由 三 日本音楽著作権協会理事長、 元NHK専務理事/開戦当日、 首相官邸放送室から番組

を編成送出した。

議など、順を追っていったほうがわかりやすいと思う。迫水さんは当時、鈴木貫太郎内閣の書記官 はり八月六日の広島への原爆投下あたりから話しをはじめて、ソ連参戦、ポツダム宣言受諾決定の閣 仁科さんが出発したのは七日で、その飛行機が広島に着かないで途中でおりて、八日に向こうへ着い 迫水 島浦 **(**房長官)をされていて、広島被災の報告後、すぐに仁科芳雄博士を調査に派遣なさっていますね。 仁科博士から「広島に落ちたのは原子爆弾です」という報告を、九日か、一○日に受けた。 終戦と放送をテーマに座談会をするとなると、直接八月一五日にいってしまうよりは、や してもできなかった。

ている。 私のところへ原子爆弾という最初の報告は八日の夕方、 陸軍を通してきたんだね。そして

鈴木総理が終戦を決心する段どりとなったんだ。

春日 サイパンからの放送が、あの晩からアトミック・ボムという言葉を、ジャンジャン使ってい

ましたね

神谷 それを受けて国際放送では「アトミック・ボムで市民が大勢死んだ。残虐だ」という打ち返

しをやっていたんです。

国内では「新型爆弾」という表現でしたね。

政府の発表には、原子爆弾というのはついに出てこない。詔勅の時にも「残虐ナル爆弾ヲ使

用シテ」と書いたな。

した。それをどういう表現にするかで大騒ぎをやっていましたよ。

情報局のわれわれのほうも、かなり早くアトミック・ボム――

-原爆だということがわかりま

六日以降の放送は、ニュースのほかにやっぱり演芸もやっていたの。

島浦

春日 もちろんやっていました。〈姿三四郎〉とかいろいろやっていまして、空襲警報のたびに切

れていたわけです。

ふたつの談話 ―ポツダム宣言受諾決定まで

が出るということがわかって、久富達夫情報局次長に何とかやめさせなさいと言ったんですが、どう 迫水 放送局が一番苦労したのは一○日の陸軍大臣談と情報局総裁談でしょう。実は陸軍大臣談

午後四時に発表せよということだった。三時一五分過ぎごろ僕のところへ告げてきた朝日新聞

たに大命を拝し、米英ソ支四カ国に対して作戦を開始せり」というのが、新聞社や放送局に渡って、

もう一つ、八月一三日午後四時に、大本営発表というニセモノが出たんですよ。「皇軍は新

高橋さんから受けた私も、あの時ぐらい弱りきったことはなかったんです。

NHKの高橋武治報道部長の机の前にいたんですが、高橋さんはそりゃ往生

かれたのは、自決された親泊朝省大佐ということになっています。

家中で死なれましたね。りっぱな人でした。

春日

いわれたというので、閣議の最中呼び出された。戦争をやめる方向へ行っているのにね。これを書

い記者は、政治部長が、こういうものがきているが書記官長が知っているかどうか耳に入れておけと

総裁談を放送するつもりだったのに、あくまで戦うという陸軍大臣談が出た。実際困ったね。

土が保衛せられたら、それで大東亜戦争の目的は達したんだというような、漠然とした趣旨の情報局

を談話の形で放送しようとしたら、主戦派の陸軍も阿南陸軍大臣談話で対抗したというわけですね。 宣言受諾が内定した。そうすると、この結果をどうして全国に知らせるかが問題だ。下村総裁がそれ

まだ御聖断 (天皇の) が下ったということを云うわけにいかないから、国体が護持せられ、皇

知らんという。総長も知らない。だから、いかに当時の陸軍というのが紊乱していたかだね。

八月九日の夜から一〇日の暁にかけて御前会議があり、大激論がたたかわされてポツダム

何とひどいことには陸軍大臣、参謀総長がその書類を決裁している。

それで僕が大臣に話

116

僕はその時、

春日

したんですよ

その電話を、

軍報道部から人がきて、高橋報道部長の机の前で監視している。その前で高橋氏が情報局の山岸さ ことにきめていたところ、 春日 NHKが一番困ったのは、情報局総裁談は七時のニュースのトップという指定だから、やる 阿南陸軍大臣の全く正反対な徹底抗戦の談話が出てきて、しかもそれに陸

編集部 高橋さんの話では

んのところへ電話をするわけですよ。

可がなければできないんだ」 「NHKは情報局の命令によって総裁談話がトップなので、この順序を変えることは、 情報局の許

ということで突っぱねたら

いう。山岸さんごやりごりしていた「じゃあ情報局へ電話をしろ」

「その電話を貸せっ」という。山岸さんとやりとりしていたら、

というわけでとって、山岸さんとだいぶやって陸軍大臣談話がトップへきたらしい。 **山岸** そうです。とにかく当時の陸軍というのは無茶苦茶でしたからね

ニュースでは順をひっくり返して、情報局総裁談をトップにした。 春日 彼は七時のニュースのトップに阿南さんの談話が出たのを見届けて帰った。 それで九時の

神谷 海外放送では、阿南陸軍大臣談話は全然出さなかった。下村総裁の国体護持の談話は、 日本

語放送だけでやったんです。 春日 一一日の各新聞には、両肩に並べて出ている。便利だなと思いましたね(笑)。ラジオはどっ

らか先にやらなければならない。

島浦 一○日の海外放送でやったポツダム宣言受諾のニュースは、やっぱり情報局から出たので

すか。

者はだれだと聞いたんですよ。東郷外務大臣、松本俊一次官といろいろ出たんですが、どうも迫水さ んじゃないかということを言っていましたね 神谷 私は後で武藤義雄さん(当時のNHK海外局長)に短波で受諾放送をするというほんとうの発案

通信海外局長の長谷川才次君 (現・時事通信社長) に指示したら、長谷川君がそれを放送にも伝えたらし ためには和平工作が進行中という状態を見せなければならない。たまたま高等学校の一年下の同盟 い。そういう意味で外務省はあまりあの海外放送には関係なかったんじゃないですか。 迫水 私はあの時第三の原子爆弾が東京に落ちてくることを非常に心配していた。落とされない

長)が、ある程度動いておりましたね。それをきめたのは松本次官を中心とする外務省の幹部でしょう。 外務省では、コミュニケーションについてたいへん詳しかった太田三郎氏(当時・外務省情報課 一〇日の朝、外務省はスイスとスエーデン駐在公使あてに訓令を出していますが、内容は

そのようなものですか。

打ってもらった。その足ですぐNHKへきて武藤局長に会っているんです。あの時は打つというこ サーに読ませると広がっちやうので、彼がアナウンスした。日、英両語をつかっています。その原稿 とを知っていたのはせいぜい四、五人なんです。ニュース係満潮英雄君があれを書いて、アナウン 神谷 そうでした。太田さんが長谷川さんのところへ最初に行って、トン・ツー (対外無線情報) で

れど、後でトルーマンの『メモアール』を見ますと、ワシントン時間の八月一○日午前七時三三分に ラジオ東京を傍受したというんです。それから逆算すると、日本時間では一○日の晩の八時三三分 人) に渡し、彼は家へ持って行って焼いた。私の記憶では夜中にやったような気がしていたんですけ ら憲兵がきてだいぶせめられましたから、彼はこわくなって上司の山崎勇氏(のちNHK報道局次長、 はコピーも何もとらず一枚だけのやつを、彼の引き出しに鍵をかけて入れておいたんですが、翌日か 故

いうのを出せ」とは言ってこなかったということですか。 編集部 そうすると情報局も外務省も内閣も、直接NHKには「海外放送で、ポツダム宣言受諾と

なんですよ。

はい。正式命令じゃないですね。

いいと知恵をつけたんでしよう。 春日 **同盟のトン・ツーは、情報局の事前検閲がなかったしね。だから検閲のきびしいNHK海外** 同盟のトン・ツー (電信) を使おうとでかけたら、 同盟で海外放送を合わせて使ったほうが

放送がそれを出したのは、大へんな勇気だったと思うな。

した。 その晩に、南方総軍で怪放送だということで文句がきて、翌日から憲兵隊につけまわされま

親泊大佐には

゙けしからん、ぶったぎる」

と血相かえてどなりこまれましたよ。しかし、その頃はもう軽井沢の抑留外人なんかは、日本が負け

たと威張っちゃったし、スイスでは道で人びとが踊りまわったそうですからね。

玉音放送は誰れが――終戦の詔勅が出来るまで

参内して拝謁して、二時間のあいだ陛下と単独でお話ししている。その時に上奏したのじゃないか 音放送」をやっていただこうと立案したんだろうということです。八月八日に下村宏情報局総裁が ということにもなっているんですが……。 終戦のいろいろな記録を読んで一つ考えたことは、だれが終戦に当たって天皇陛下に「玉

時に風呂敷包みを持っておられて、そこから紙を一枚ずつ取り出しては細かく破いておられました。 ら、破いた紙は自分が陛下にお話し申し上げた内容を書いたもので、軍部の連中に見つかったら、陛 後狭い部屋に押し込められていた時に、私は下村さんを扇子であおいであげていたんですが、その 下にご迷惑がかかるということをおそれて破いたんだということでした。 に心配しました。 放送にお出まし願わなければということを、お話し申し上げたといわれていました。玉音放送収録 かなかったんです。下村さんとしては国民に真相を知らせるということと、いざとなったら陛下に 知らせなければいけないということを、かねがね言っておられましたが、なかなか軍はいうことを聞 たし、その時の情報局の次長が久富達夫さんで、毎日新聞出身ですし、お二人でもっと国民に真相を しばらくして「便所に行きたい」というと兵隊がついて行く。なかなか帰ってこられないので、非常 あの方は朝日新聞におられて、新聞人としての一つのキャリアというものを持っておられ 解放されてから伺いましたら、あの方は非常に丹念に記録をとっている方ですか

下村さんはその前に二年間NHKの会長もやっておるので、これで、その話が結びつくん

藤樫さん、陛下側近の方々の中でそういうことを陛下にすすめられたという話は……。

藤樫 ありますね。私の取材したところでは、下村さんと木戸内府(幸一氏、内大臣)の合作じゃない

か。最後の決断は木戸さんのほうが強かったんじゃないでしょうか。

·われは八月一四日の御前会議の席上で、初めて陛下から放送してよろしいとおっしゃっ

たので、非常に恐懼したんです。ですから、下村さんもそういうお考えでおられたとは思うが、知恵

をつける人があったとすれば、木戸公爵がつけたんだと思いますね。

山岸 八日に下村さんは、国民にもっと真相を知らせなければいけないということを、主として

おっしゃったんじゃないかと思いますね。

如何トノ意見ニツキ懇談ス。三時五五分ヨリ四時五〇分迄拝謁、ラジオノ件其他ヲ言上ス」とありま 『木戸日記』の八月一一日には「三時石渡宮相ヲ居室ニ訪ヒ、ラジオニテ御放送被遊テハ

すね。

の次に困ったのは「爾臣民」という二人称。これは「お前ら」とおっしゃるのか「国民諸君」とおっ どうにもならなくなったのは一人称です。このごろは「私は」とちゃんとおっしゃるけれども、その れなら書記官長原稿を書けということで、僕は口語体で書こうと考えて、ペンをとってみたけれども、 と伝えているんです。それをうけて玉音放送をやるときめたのが、一四日の午後の閣議ですよ。 **「朕」とおっしゃる以外には陛下が自分のことを一人称で公式におっしゃることはない。そ** そうです。それで木戸内大臣は五時に石渡宮相に、陛下がいつやってもよいとのお考えだ

しゃるのか、見当がつかない。一人称、二人称なしで書くわけにいかん。詔勅を読んでいただく以外

に方法はないという結論を出して、僕は鈴木貫太郎総理の了承を得たのです。

その内容は一○日の御前会議で陛下がおっしゃったことを中心に……。

一四日のお言葉も多少補充しましてね。

それをもとに下書きをさせた。

木原君(通雄氏、のち電通ラテ局次長、故人)に私が書き流したものを、清書させるわけですよ。

彼

は文章家だから、

迫水

「書記官長、ここのところはこうしたほうがいいですね

下請させるわけにはいかない。 ということはいいましたね。しかし、御前会議で陛下のお言葉を聞いたのは私なんだから、 それを

春日 木原さんは内閣の嘱託ですか。

何が一番自信があるかと聞いたら、終戦の時に出した内閣告諭だということでした。これは彼が下 迫水 彼は最初から文章を書かせるために、私が頼んだんです。彼に、きみの書いた文章の中で、

書きして、私が手を入れた。

春日 そうか、巷間の話は告諭と一緒になっているんですな。

としてきてもらったんです。 迫水 正規の内閣嘱託は川田瑞穂先生なんですよ。安岡正篤さんは迫水久常個人のアドバイサー

「万世ノタメニ太平ヲ開カムト欲ス」というくだりは、安岡さんがつけ加えられたわけで

て日本語的漢文だ(笑)。宋の張横渠の文章の中にある「万世のために太平を開く」というのを使った 迫水 僕は「永遠の平和を確保せんとす」と書いたんですよ。そうしたら安岡さんがこれはきわめ

すね。

島浦
その詔勅はいつできましたか。

してね。

んです。

四日の夜八時半ごろです。それまでは案をめぐってなかなかまとまらない。 議論が出ま

そ待てど暮せど音沙汰なしですよ。おいしい晩ご飯を出していただいてじっとみんなで待っていた。 春日 NHKから宮内省差し回しの車に、大橋八郎会長以下の録音班が乗って出かけたのが三時 そうでしょうね。私どもも午後三時には宮内省におれ、ということでまいりまして、それこ

ぐらいでした。

天皇陛下のところへ持って行って、御名御璽 (示鑑「天皇之印」) をいただくわけです。その前に原稿追水 八時ごろ原稿を全部作成して、佐野内閣書記官が清書したわけですよ。清書してからまず はそれに反対して、議論していた。これは復讐を前提とする言葉ですからね。 いう連絡は、ひんぱんに行なっていましたね。「臥薪嘗胆」という言葉を一部で強く主張されて、私 をタイプライターで打ったものを一応、宮内省の待従職を経て陛下の御内謁は願っておいた。

藤樫 内閣側ではその後どうしていたんですか。

清書して御名御璽をいただいて公布の手続きを終ったのが午後一一時ですよ。だから終戦

えると……。

の御詔 **深夜にこういうことが発表されることは、治安工作上とても困るからと阿南陸軍大臣がいう。大臣** は自決して陸軍に無言の鎮圧を与えるまで待ってくれという意味だったんでしょうね。いまから考 勅の日付は八月一四日なんです。発表だけは八月一五日でしょう。実に異例なことですがね。

総理は陸軍大臣がそうおっしゃるんだから、そうしましょうといっておられた。

とりなおし一回――「玉音」の収録おわる

島浦 ここで立ち合った人の名前を出しておきましょう。石渡宮相、藤田尚徳侍従長、下村情報局総裁' 機械を持って参内したら、蝉時雨が非常ににぎやかだったというんです。

加藤祐三郎第一部長、山岸さん、川本信正秘書官、NHKからは大橋八郎会長、矢部謙次郎国内局

長、荒川大太郎技術局長、近藤泰吉現業部副部長、それに技術者として長友俊一、春名静人、 に「テストをしなくてもいいのか」というようなことを、ちょっとおっしゃったそうですね。 吾、玉虫文一の四氏。さらに三井・戸田・徳川・入江の四侍従がいる。陛下がいよいよ録音される時 山岸(ドアを開いておりマイクも生きていましたし、陛下の生のお声も聞こえたんですよ。 村上清

後、いまのでよかったか、もう一回やろうかとおっしゃったことはございました。 し、テストをしようかとおっしゃったことは、ちょっと記憶にない。ただ、第一回の録音をなさった

言ったなんていう話が伝わっているでしょう。そんな場面なんか全然ないんですよ。それに比べる 島浦 御前会議の時に阿南さんが泣きながら陛下のお袖にすがって「陛下、お待ちください」と その前に声が陛下に似ている戸田侍従が新聞かなんかを読んでマイクテストをやっている。

と、陛下が「テストしようか」とおっしゃったことのほうが自然だね。

本当だと思いますよ 藤樫 テストとか何とかということはよくご存じですよ。「これでいいのか」とおっしゃったのは、

「テストをしてくれ」というのは陛下のお言葉としてちょっと品が悪いな。 放送局の職員の

うだったか」といわれた。五分間ぐらいだそうですね。一回おやりになって陛下ご自身ややご不満 いう言葉だよ (笑)。 島浦 そして下村総裁が進み出て頭を下げる。荒川局長の目くばせが合図で収録。 終わると「ど

れた。陛下も下村さんに「いまのは声が低かったからとり直しをしよう」ということをおっしゃいま お声にふるえがあったんです。それで技師のかたも「お言葉に不明なところがある」といわ

だったということですね

しゃったそうです。 たとばかりにお願いしたんだと思いますけれども、そうしたらまた三度目をもう一ぺんやるとおっ 島浦 収録の技師としては、どうしても二つは録りたかったんでしょう。ですから待っていまし

そうです。 **藤樫 それは私も石渡さんから聞きました。もうよろしゅうございますと陛下にすぐ申し上げた**

山岸 私も隣りの部屋で泣きながら聞きましたが、陛下のお声のトーンの高低がひどいので、うま

125 く録音がとれるのかと心配しました。

春日 だから、技術者はおそらく何度でも録りたかったんでしょう。

島浦 陛下が玉音をとられた時は、陸軍の軍装ですね。そして陛下のうしろには獅子の絵屏風が

あったという。

ましたから、よく覚えていますが、獅子の屛風はありましたね。 準備している時に、陛下のお立ちになる部屋と録音設備のある部屋とを、行ったりきたりし

二つ折りの屛風で、その前にお立ちになって放送されますかとお伺いすると、立っておやりになる

ということでスタンドマイクを立てたと思います。

藤樫 雄壮な屏風です。いまでも陛下のいらっしゃるところにありますよ。

マイクロフォンもわざわざスタジオで使っている一番いいやつを、係とけんか腰で持って

いったというんですから、もし録りそこなったら腹切りものだったろう。

山岸 それはほんとうに必死ですよ。ですから、あの後すぐその場で再生して試聴をしています。

陛下は帰られた。もう一五日になった頃です。

「私語を禁ず」――監禁された録音班

僕のほうは、録音を終わりましたということで、ああよかったなと思って、それから後は連

知らないんだ。 絡がないんだから、その後、収録の人たちがつかまってひどい目に会っているなんていうことは全然

警視庁へ行ったら、警視総監がどうも宮内省との連絡が午前一時ごろからつかないという。それで そのころ、総理官邸が襲撃を受けて、機関銃を撃ち込まれたんです。私は地下道を通って脱出して、

僕は初めて山岸さんたちが監禁されたことを知ったんだ。

なられましたが、下村さんも大橋さんも、衛兵所に入れられたんですか。 **神谷** あそこで録音盤がなくならなかったのが、奇跡みたいですね。きょう大橋八郎さんが亡く

山岸 ええ。宮内省の加藤総務局長とか順々にみんな連れてこられちゃうんです。とにかく一七、

を書け」というんです。それから「私語を禁ず」といわれました。録音をした後、その録音盤をどう 八人そこへ入りました。初め、中尉ぐらいの人が一枚の罫紙を出してみんなに「ここに位階勲等氏名

するかという打ち合わせは、碌々吾々はやっていなかった。結局恐れ多いということで、宮内省へお

預かり願おうということでした。

した」というような話を生前にしていましたがね。 春日 矢部さん (謙次郎氏) は「何か不穏なことが起りそうだと思って宮内省に置いてもらうことに

録音が大変予定より遅くなってしまいまして、一一時過ぎてやっとこれからということで、 しかし、あそこに置いてくるところが非常に自然なんですよ。

終わったのは一二時近かったと思います。みんな恐れ多いからという感覚で、録音盤を侍従に渡し

て急いで退出して、宮内省のあの建物を出たとたんに、空襲警報のサイレンが鳴ったんです。

春日 一四日の晩に、五つの都市(熊谷、高知、小田原、秋田、福山)がやられたんですよ。

ええ。自動車の置いてあるところまでちょっと歩いて、車に乗って坂下門を出ようとした

ところ、バラバラッと兵隊が「止まれーっ」ときた。録音が行なわれてその時間まで三○分そこそこ

127 だと思いますね。だから、どう伝わったんですかね

128 春日

でしょうね

私どもは宮中でも、その予定をいつにするかとか、いろいろ連絡をとっておりましたよ 山岸(その晩、たしか七時ごろのニュースから、あした重大放送があるということは出しました。

それが疑問なんですよ。陛下が録音を録られたということが、どうして兵隊にわかったん

春日 七時一二分ぐらいに和田信賢アナが重大放送を予告してますね。

かと思うんですよ。それと録音をとるために放送局からゾロゾロ行っていることだと思うんです。 島浦 その重大放送ということや、前からいろいろな動きがあるので、何か感づいたんじゃない

あの元凶はいまだによくわかりませんが、あの一派の人たちは、われわれが録音盤を持って

退出するんじゃないかと考えていたと思います。

情報局の中に、親泊大佐など陸軍報道部の連中もいるわけですからわかっていたと思いま

すね。

う。そのあたりからもれたんだと思いますね。いつも陛下が悩まされておったのが侍従武官長なん です。これは陸軍のまわしもので、 藤樫 宮内省には侍従武官というのがありましたが、あれは陸軍省のイヌと言ってもいいでしょ 陛下が何回かおしかりになっても、ごもっともでございますと

すな。 島浦 矢部国内局長が連れてゆかれて、宮内省の録音した部屋へ案内して、一芝居しているんで

いって、本旨は取り次がなかった。

「盤は侍従に渡したからどこにあるかわからない」

「侍従ははじめて会ったから名前は知らない」

などと弾をこめた銃の前で言っているんだね。これもたいへん勇気のあることだ。一度戻されて、ま

た探しに連れ出されている。

室で仮睡していて、事件を知り、お文庫に報告した後、将校に呼び止められ押し問答していたら、 編集部 録音盤保管は徳川侍従で、皇后宮事務官室の軽金庫に入れ、書類でそれを埋めた後、侍従

「斬ってしまえ」

と云われたそうです。

「斬っても何にもならんだろう」

といって、結局なぐられただけで無事だった。これでいよいよ一五日の朝が白みはじめるんですね。

陛下も泣かれた――玉音の放送をきく

てくる。私と高等学校の同級生なんだ。雑嚢のようなカバンをちょっと押さえて 迫水 一五日に午前一○時半ごろ宮内省の玄関を上がって行ったら、 加藤総務局長が上から降り

「おい、これから放送協会へ持って行くんだ」

というので、僕は大いに感激して

「しっかり頼む」

と雑嚢に最敬礼したんですが、後で聞いてみると加藤は何も持っていないのね(笑)。

春日

陽動作戦ですね

して一組のほうは袱紗をかけて正々堂々と持ってきて、これは予備なんです。片方のほうはちゃん 島浦 うん。 ああいう時の作戦というのを、非常によく心得ておられた。録音盤は二組のを別々にしま **筧課長(素彦氏、当時宮内省総務局庶務課長)が別な口から本物を持って行っているんだよ。**

本営の地下室で平沼騏一郎さんも出て、ポツダム宣言受諾の報告をされ、それが本会議にかけられた と隠して持ってきたんですね。終戦の御放送を陛下はお聞きになっていたんですか。 **ご自分の声をラジオで聞いて陛下は泣いておられました。ちょうど枢密院本会議があり、大**

軍の関係者が無電技術を担当しておったんです。 た。陛下は会議室から出られ控室へお入りになりました。そこにはラジオが持ってきてあった。海

わけです。時間がきましたから会議を中断して、平沼さん以下大本営の入り口の廊下に整列しまし

官はおらず、前行する人と後からつく三人の侍従が陛下のおそばにおり、陛下はラジオを聞きながら うつむいておられ、廊下のご老人連も嗚咽していました。 して電波が入るかどうかということだったんですが、入ったんですね。枢密院会議ですから侍従武 七〇号と銘うってあった。廊下のドアが少し開けてありました。最初懸念したのは地下室ではた 陛下のお聞きになったラジオは、グァム島の占領品で、RCAビクターの小さなラジオで、グァム

社にもどろうとしましたら、二重橋の上は夕日が真赤で、いい天気でした。その時はまだ、写真に出 皇后さまはお文庫におられました。皇后陛下がお聞きになっていたラジオは、真黒なものでした。 あんなにたくさん人は出ていなかった。

春日 あの録音がなくなっていたら大変でしたね。ナマ放送か、アナウンサーが詔勅を読むんだ

ろうけれども、 もっと混乱したでしょう。

藤樫 ええ。当時は、これはニセモノだとかいう話がずいぶんありましたね。

田信賢アナウンサーが繰返していますね。こちらは和田君だとよくわかったんですが、参謀連中は、 がら、やるんだという参謀もあるし、いやだめだというのもあるし、はっきりしないんです。 私はジャワでその放送を伺ったんですが、短波ですからよくわからないんですよ。 後で和 聞きな

春日 あのころは終戦まぎわで中継線の規格はうんと悪くなっていて、国内でもわからない。

日本内地でもほとんど有線はズタズタで、短波でやったんですからね。迫水さんはどこで

そいつは連合軍につかまった謀略放送だという(笑)。

玉音放送を聞かれたんですか。

ような気持ちで聞いているわけだ。涙がボロボロ出ましてね。 から暗誦しているでしょう。陛下のお言葉は次は何が出るか、そのとおり出てくればいいがと思う 総理大臣官邸ホールで、職員一同と一緒です。詔勅は自分で何べんも書いていることです

NHK前の広い電車通りがいっぱいになっていて、電車もとまっているし、みんな泣いている。ス ピーカーを出したんですよ。あの騒ぎの後の警備にきた兵隊 (後出) まで泣いていました。

神谷 NHKでは、みんな第一スタジオへ集まってあれを聞き、部屋へもどって窓から表を見たら、

やろうと思ったのに、鈴木貫太郎とか迫水久常なんていうのがむやみやたらにあわてて戦争をやめ んでもう死ぬことはないんだが、運命の神様がもうちょっと日本ががんばったら神風でも吹かして 僕は放送を一承って書記官長室へ帰った。わけのわからない涙が出てくる。これで戦争が済

れで、僕が自分自身に言い聞かせたのは、陛下の思召しで戦争を終結したことに間違いがあるわけが るから、どうにもならんじゃないかと言ってやしないかと思って、居ても立って居られないんだ。そ

ないということなんです。 下のお声を放送したいという申し入れをNHKがしているんです。そうすると当時宮内省では、やっ てもいいだろうというのと、だめだというのと半分にわかれたというんです。すると大金益次郎さん 編集部 この間、宮内庁の入江侍従次長に取材したら、紀元二六○○年(┗カカ四○年)記念の式典で陛

ということを言われている。その後大金さんにも取材に伺ったら 「陛下の放送というのは今やらなくたって、もっと先に必要な時があるかもしれない」

(当時宮内省事務次官) がその時に

「いやア、私が言ったかどうか」

と言われるんですが、その辺で安直に出していたら、八月一五日みたいな本番ではだめだったろうと

いうことです。

外交文書交換の要旨、ポツダム宣言の要旨、 三七分にわたってやっておりますね。 **山岸** そうでしょうね。玉音放送の後、和田さんが前ぶれで詔書奉読、内閣告諭、「聖断」の経過、 カイロ宣言の内容、八月九日以降の重要会議の経過など

春日 これは東亜中継放送によって、在外将兵や邦人にも同時放送されて、敗戦を告げたわけです。 かなり長いあいだ玉音の録音をかけたスタジオがわからなかった。ああいう録音をかけら

れる部屋はNHK本館二階の日本間のスタジオの副調にきまっていた。一番いい録音機があったん

だから……というので「終戦放送記念スタジオ」というプレートをつけてあるんです。

放送会館を一時占拠 ――キラ星のごとく並んで「玉音」の再生

連中は第一スタジオに監禁されている。ここで保木玲子という技術員に 島浦 放送会館も一五日の午前四時ごろ反乱軍の別の一隊に占拠されたんですね。 宿直していた

といったら

「放送させろ」

といわれ、 「東部軍情報の出ている間はできませんよ」 館野アナウンサー (守男氏、現NHK国際局長) にピストルをつきつけて放送を強要したが

「東部軍管区と連絡が必要だし、技術と打合せしなければ……」

といって時間をかせがれているんですね。これは近衛第一師団長を射殺して偽の命令を出した畑中

少佐の中隊なんでしょう。

をかせいでいる間に、会館と川口・鳩ガ谷両放送所への連絡を切っていますよ。だから、 春日 放送局占拠をしそうだという情報は一四日の夜にはわかっていたそうです。だから、 もし、 彼ら 時間

それで七時二一分からは、館野アナウンサーが玉音放送の予告をなさっていますね。

がマイクをとっても放送は出なかったはずだ。

もは一一時に、放送会館二階のスタジオ (第八スタ) に並びました。

島浦 キラ星のごとく、と資料にありますね。入口は憲兵が固めた。玉音盤は高橋報道部長が会

133 長室から紫のフクサをかけた桐箱に入れて持ってきた。

春日 それを渡されて掛けたのは録音再生の名人だった木村龍蔵君(現NHK中央研修所嘱託)だ。

いるんですよ その時、もしこれが終戦の放送だったら、その盤をたたき切るといって刀に手をかけた人が

じゃないんだよ がなければできなかった。現実にそうだったから言えたんだ。うそを言って、口裏を合わせたわけ 春日 話が戻るけど、一五日の朝はほんとうに警報が出ていたので、現実問題として東部軍の許可

道部長に連絡している。そこで高橋さんは、森永武治 (現・劇作家) という宮内省に元勤務していたN HK職員を宮内省へやった。その時に朝倉も一緒にやった。 島浦 その時に占拠されたNHKの中を朝倉という少年が抜け出して第一ホテルへ行って高橋報

や(給仕)で、勇敢なやつでしたよ。 てきました」といって中へ入っちゃったんですよ。朝倉は、戦後間もなく亡くなりました。報道の坊 田道夫君(フシラトレビ顧問)と行く時に朝倉を連れて行ったら、大きなカバンをぶら下げて、「月給を持っ 春日 私はそれを知っていたから、一四日朝に川口と鳩ガ谷放送所が反乱軍に占拠されたとき、宇

障だといって拒否した。そのまま占拠されてお昼ごろに昼飯に行くといって脱出した所員が大宮憲 兵隊に急を知らせている。どうも放送局の連中は言を左右にするのがうまい(笑)。 この時も平野、 蒲生という鳩ガ谷の所員が、言を左右にしている間に送電を切り、

軍隊まで静まる――八月一五日午後から

島浦 一五日の放送を聞いた時は、みんな泣きましたね。そのうちひしがれた国民が、だんだん 春日

それは陸軍が喜んだでしょう。

立ちなおっていくわけですが、一六日以降は徐々にどんな放送をやっていたのですか。

ね。一六年(mi) 一二月八日からやっていなかったんですからね。 **活した。その天気予報 ̄つが、あらゆる娯楽番組に増して、平和になったんだという感じがしました** というので、一番先に朗詠をやったと思いますね。それから一七日の晩に天気予報が三年ぶりに復 春日 とにかく国民を力づけ、立ちなおるような放送をしなければならない。何から始めようか

いましたね。また三時には阿南陸相自刃のニュースと辞世の和歌が放送された。 神谷 一五日の午後一時に総理の「大詔を拝し奉りて」があり、アナウンサーが夜まで繰り返して

産をやれということを放送している。 やっていますね。そのほかに、千石興太郎農商相が「全国農民諸君へ」というので、一生懸命食糧増 軽挙な行動をいましめる」というのを夜の七時から一二時までの各時間の冒頭に反復放送で、六回 邇内閣が出来て首相の「大命を拝して」というのがあります。首相は八月二○日にも「軍人その他の 編集部 一五、一六日は時報とニュースのみ放送で、一七日になって、天気予報……。ここで東久

の国体ももう少しよく説明して、 の神ながらのものであるのに、国民の意思によってきまるということは国体の変革であるから、日本 があって、向こうの返事がきて、平沼騏一郎さんが、日本の天皇の地位というのは、国民の意思以前 春日 それから電波管制もとけた。「昼間送電をいたします」というアナウンスがあったね。 僕は終戦時には放送が一番大きな役割をしたと思うね。終戦の閣議が始まってから御 正確なる返事を求むべしという。

神ながらのことを、アメリカ人がわかるわけがないという。それで調査が長びいたんですよ。その 迫水 それはもう……。これを機会に戦争を巻き返そうとした。東郷外相は、いくら言ったって

間の時をかせぐのに非常にラジオ放送というものが役に立ったということが第一点。

そのつぎに、天皇陛下の玉音放送によって、国民も、軍隊までも静まったんですから、いかに放送

の影響が偉大であるかということですね。

ご意志が通ったことは意味深いことだと思うんです。 際はそうでなかった。それを帝国憲法の最後の時期になってまず終戦がきまり、玉音放送と、陛下の えるのが玉音放送だといえましょうね。しかも旧帝国憲法は天皇の意志を絶対のものとしながら、実 混乱の時に放送があったら、という例が関東大震災で、反対に大混乱を放送が救ったとい

(付録)「玉音放送」の予告アナウンス

す。まことに恐れ多き極みでございます。国民は一人残らず謹んで玉音を拝しますように。国民 **ご手配願います。ありがたき放送は正午でございます。ありがたき放送は正午でございます。な** 手持ち受信機を出来るだけ活用して、国民もれなく厳粛なる態度で賢き御言葉を拝し得ますよう 聞には特別に送電いたします。また、官公署・事務所・工場・停車場・郵便局などにおきましては、 は一人残らず謹んで玉音を拝しますように。(間)なお、昼間送電のない地方にも、正午の報道の時 れます。(間)賢くも天皇陛下におかせられましては、本日正午おんみずから御放送あそばされま つつしんでお伝えいたします。賢きあたりにおかせられましては、このたび、詔書を煥発あらせら お、きょうの新聞は、都合により午後一時ごろ配達されるところもあります。

朕が

ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ忠良ナル爾臣民ノ赤誠ニ信倚シ常ニ爾臣民ト共ニ在リ若シ夫レ情

ノ激

終戦の詔書

民ニ告ク

深ク世界ノ大勢ト帝国ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ収拾セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾サンタ

勢亦我ニ利アラス加之敵ハ新ニ残虐ナル爆弾ヲ使用シテ頻ニ無辜ヲ殺傷シ惨害ノ及フ所真ニ測ルカ百僚有司ノ励精朕カ一億衆庶ノ奉公各る最善ヲ尽セルニ拘ラス戦局必スシモ好転セス世界ノ大 曩ぉ 抑ら帝国臣民ノ康寧ヲ図リ万邦共営ノ楽ヲ偕ニスルハ皇祖皇宗ノ遺範ニシテ朕ノ拳メータンサートサードが帝国政府ヲシテ米英支蘇四国ニ対シ其ノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告セシメタリサント 朕カ帝国政府ヲシテ共同宣言ニ応セシムルニ至レル所以ナリサメ 文明ヲモ破却 排シ領土ヲ侵スカ如キハ閰ヨリ朕カ志ニアラス然ルニ交戦已ニ四歳ヲ閲シ朕カ陸海将兵排シ領土ヲ侵スカ如キハのよう へカラサルニ至ル而モ尚交戦ヲ継続セムカ終ニ我カ民族の滅亡ヲ招来スルノミナラス延テ人類 三米 英二国ニ宣戦セル所以モ亦実ニ帝国 スヘシ斯 一ノ康寧ヲ図リ万邦共営ノ楽ヲ偕ニスルハ皇祖皇宗ノ遺範ニシテ朕ノ拳々措 治一億衆庶ノ奉公各る最善ヲ尽セルニ拘ラス戦局必スシモ好転セス世 ノ如クム ハ朕何ヲ以テカ億兆ノ赤子ヲ保シ皇祖皇宗 ノ自存ト東亜 ノ安定トヲ庶幾スルニ出テ多国 ノ神霊ニ謝セムヤ是レ (ノ勇戦朕 カ ノ主 プサル所

堪 苦難 朕が テ 戦陣ニ ハ帝 ヲ蒙リ家業ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リテハ朕の深ク軫念スル所ナリ惟フニ今後帝国 へ忍ヒ難キヲ忍ヒ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス ア 固t 国 死シ職域 ト共ニ終始東亜 ニ殉シ非命ニ斃レタル者及其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内為ニ裂ク且戦 ノ解放ニ協力セル諸盟邦ニ対シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス帝 **【ノ衷情モ朕善ク之ヲ知** ルメシカ トモ朕ハ時運ノ趨ク所堪 ノ受クヘキ 傷 玉 巨民 ラ負 へ難 キヲ ニシ

胞排擠

所濫ニ事端ヲ滋

佐 伯 孝 夫 作詞家/新聞記者から作詞者になり、昭和初年から数多くの歌謡曲を作る。「湯島の ラジオと歌謡曲

白梅」、「僕の青春」、戦後は「銀座カンカン娘」、「有楽町で逢いましょう」、「潮来笠」など。

古 関裕而 **「長崎の鐘」「オリンピック・マーチ」「津軽めらしこ」など多数。第四回放送文化賞受賞。** 作曲家/銀行員から作曲家に転向。「船頭可愛や」「露営の夢」「予科練の歌」戦後は

郎 歌手/東京音楽学校在学中から藤山一郎の名で「僕の青春」「丘をこえて」など歌謡曲

藤

Щ

を、本名の増永丈夫でクラシックを歌う。指揮、作曲の面でも活躍。第九回放送文化賞

丸 Щ 鉄雄 コロムビア音楽芸能株式会社社長/NHKで多年音楽芸能番組プロデューサーとして

のど自慢素人演芸会」などの番組を企画・演出。文芸部副部長、

音楽部長など歴任。

流行歌から歌謡曲へ

丸山 島浦 そうです。歌謡曲という名称を仕事で最初に使ったのは町田嘉章です。新日本音楽という 昭和二年 (二七) ごろ町田嘉章先生が初めて「歌謡曲」といい出したという説があるけれども……。

琴だの三味線をやっている中で、琴を伴奏にして歌う、三弦を伴奏にして歌う、その歌を「歌謡曲 という名前でやったのが最初なんです。

佐伯 『ビクター文句集』という古いものがありまして「唐人お吉」「東京行進曲」とか、後は義太

謡曲」という言葉を使っておりますね

夫、詩吟とかを載せた文句集には「歌謡曲」という言葉はある。新小唄、新民謡、 流行歌の間に

いっていますね 古関 山田耕筰先生が新しく作られた芸術歌謡の「からたちの花」なんていうのも「歌謡曲」と

ごろ「須坂小唄」とか全国民謡をビクターでお作りになったことがありましたが、ああいうふうな時 藤山 僕の昭和六年 (二九) の「丘を越えて」は「流行小唄」となっているよ。それから昭和四年 (二九)

変えて、それが今日まで続いてきたということですね て、それが「歌謡曲」となった。流行歌はいけないといわれて、ラジオが歌謡曲というふうに言葉を **佐伯** その中に「新歌謡」というのがあるんですよ。叙情詩に曲をつけたようなのを新歌謡と言っ 「新民謡」と言って区別していらっしゃるんです。

丸山 「流行小唄」という言葉を漢字でこしらえたのはレコードですね

島浦 ラジオの放送が始まったのが大正一四年 (二五) でしょう。レコード会社がみずから企画し

て、いわゆる流行歌を作るというのが始まったのも、大体昭和の初めですね。

活動会社 (会社) がレコード会社に持ち込んできた。ずっと前からそれを流行らせておいて、映画に ますし、国産は音が付いていないものですから、向こうの主題歌が流行る。それじゃ困るというんで、 す。「君恋し」はレコードへ入る前に、浅草で流行ったものなんです。外国からトーキーが入ってき した。筋とは全然関係ないんです。 僕は「君恋し」(宵やみ迫れば――)、「東京行進曲」(昔恋しい銀座の柳――)でスタートしたんで

いた。「君恋し」「東京行進曲」から、今度はもっぱらレコード会社が作って広めるということになる 島浦 そうすると初めは方々から歌を持ってきて、新小唄とか新民謡という名前をつけてやって

丸山 そうだ。「東京行進曲」がレコード歌謡のヒットの第一発だな。 わけですね。

本でプレスして外国盤を作り出した。それから日本コロムビアができ、日本ビクターが出来る基に 古関 一番初めにポリドールが、日本ポリドールというのを作って外国から原盤を輸入して、日

なって会社が積極的に新しい歌をやり出したのが元じゃないかと思っているんです。 奥田良三さんの「会議は踊る」もその一つですね。あの立派な声楽家がいわゆるポピュラー・

ソングを歌ってくれるというので、ああ自分の行く道はあれだなと感じた。

藤山

島浦 藤山さんの最初の吹き込みは?。

瞭だというんで、たのまれた。これが昭和五年 $\binom{l}{l}$ なんです。これは別として、昭和六年 $\binom{l}{l}$ 藤山 慶応の幼稚舎の歌をプライベートで吹き込みました。学校の校長同士でこいつは歌詞が明

0) 島浦 「僕の青春」(恋は楽しや街に――)は?「酒は涙か」がはじめということになりますね。

藤山 八年(三元)です。

り放送しなかったようですね。 放送局で家庭のラジオとしての健全性みたいなものを、非常に重視していたために、あんま

流行歌や流行小唄が、卑俗なものに見られていたので、そういう種目名を、放送番組の上か

その後です。 らなるべく避けたかったということでしょうね。「波浮の港」なんかはレコードにする前に放送して いるんですが、「民謡」と言っていますね。市丸の「チャッキリ節」もラジオが早くて、レコードは

んかは、 島浦 **なるほどね。それで民謡風でないもの、たとえば昭和六年(三十)の「酒は涙かため息か」な** しばしば放送しましたか。

ものも、 丸山 家庭の茶の間に飛び込んで差し支えのないものが、少なかった。 レコードのヒットをそのまま取り上げるのは、放送局のプライドが許さなかったし、歌その

ないんですかね。 よ。これは昭和六年(三十) ごろ流行したんですが、放送に乗ったのは、かなり後になってからじゃ くなるんじゃないかと、放送することには、だいぶ反対の動きがあったように記憶しております。 丸山 「サムライニッポン」(人を斬るのがサムライならばー) なんていうのは、かなりニヒルなものです 一方レコード会社としては、はじめから放送が力を持ちはじめてきたら、レコードは売れな

ましたけれども、日本の歌でそういう結果をもたらしたような歌がありますか。 **編集部** ダミアが歌った「暗い日曜日」という歌で自殺者がいっぱい出たというようなことがあり

出すことにかなり厳しい姿勢がありましたね。 というんで、「山の煙よいつまでも、」というふうに、意味も濁してしまった。放送ではそういう曲を が歌ったんですが、最後の歌詩は、「山の煙よ、さようなら、」なんです。それじゃますます礼賛する 藤山 昭和七年 (三十) 「天国に結ぶ恋」(今宵名残りの三日月も――)と「御神火」がそうなんです。 私 一銭になる。

143 ラジオと歌謡曲

> 島浦 たとえば、東海林太郎の「赤城の子守唄」なんていうのも、ずいぶん方々で聞いたけれども、

放送ではどうでした。

週に一回と決まっていたんです。歌謡曲独自の種目として放送したのは、週一回ぐらいです。 はできない。あのころは「放送種目基準」というのがあって、ドラマは大体月に何回、 **丸山** それほどは、やっていません。ただ、流行っている流行歌を放送の上で黙殺するということ 歌謡曲は大体

レコード歌謡に対抗して

ずです。 藤山 それで手巻きのポータブルというやつが一四〇円ぐらいしたんですよ。 昭和六年(|||↑)、満州、樺太、台湾、朝鮮を含めても、蓄音機の機械は二○万台なかったは

れる。昔はレコードが摩滅しますから流行りますと三枚も四枚も同じものが売れたわけです。一枚 佐伯 そうですね。たとえばビクターならビクターのレコードが売れますと、ビクターの機械が売 支那事変でラジオと同じように蓄音機もパーッと普及したんでしょう。

だそれだけしか理由がないんだそうです。それだからもうかってしようがなかった。宣伝費を入れ て一九銭ぐらいでいくんだってね。だから、そのころのアーチストは、印税は一銭五厘、二年たつと 一円五○銭台からやられた理由は、向こうでは七五セント。その時の日本の為替レートが二円。た

島浦 そのころNHKはいくらですか。

回出ると二〇円です。

増永丈夫の本名でクラシックをお歌いになるといくらなんですか。

です。こっちのほうがいいからと言ったら、係が、いや藤山にしておこう (笑)。 藤山 昭和一四年 (三九) にグルリットさんの指揮で第九 (ポートーヘン交響) を歌いましたとき三〇円

コード歌謡に対抗して それの名称が変わって昭和一一年(三六)から「国民歌謡」となり、東京と大阪と交互に一週間ずっや 文芸課長・奥屋熊郎さんの提唱で「新歌謡曲」というのを始めた。それが昭和一○年(三五) ごろです。 丸山 家庭の中で子供が一緒に歌えるような歌が必要じゃないかというんで、大阪中央放送局の

りました。 島浦 「国民歌謡」 の古い楽譜があるんだがそのキャッチフレーズとして、およそこんなことが書

いてあります。

となり、毎日のように全国の電波にのってきたラジオ歌謡曲であります。 「国民歌謡」は昭和一一年 (三六) 六月一日、JOBKの発信下に始めて我国慰安放送の一 種目

これは近年いちじるしく狸雑煽情に流れてきたレコード流行歌の傾向に対し、ラジオの社会性

歌っても顔をあからめることのいらぬ歌謡曲たらしめたいと念願したものであります。 指導性の本質に鑑みて、ある修正を施そうとした試みであり、歌詞楽曲ともに健康明朗、

からと、 これは大阪放送局文芸課同人となっていて、一年経った一二年(三七) 八月に七○曲ぐらいできた まとめたものなんですね

丸山 たしか第一曲は「日本よい国」(今中楓渓作詞・服部良一作曲)で奥田良三が歌った-

つづいて島崎藤村の「朝」(小田進召作曲)と「椰子の実」(大中寅二作曲)が東京から出たんですね。

渡辺はま子さんや東海林さんが大阪へ来て「愛国の花」などを歌うというのは、ぼくらにも

とても楽しみだったな。

丸山 島浦 大阪方の作曲で活躍したのは内田元さんですね。「春の歌」(ラララ赤い花束車につんで――)や あれが国民歌謡での大ヒットだな。戦時中にも怒られなかったですから命が長い歌でしたね。

「夜明けの唄」(霧が晴れるよ夜が明ける――)なんかね。

謝野晶子で作詞、堀内敬三作曲というのがありますね。BK (大阪放送局) としては、「母の歌」(ごらん よ坊やあの海を──)が坂谷即子作詞、橋本国彦作曲だとか、佐藤惣之助作詞で、「野ばらの歌」 「希望の **田泣菫作詞・小田進吾作曲)などのほか「新鉄道唱歌」というのを土岐善麿、** など。作詞は相馬御風、 AK(JOAK)としては「野ゆき山ゆき」(九条武子作詞・瀬戸口藤吉作曲)、「白すみれ」 深須磨子、河井酔茗、長田幹彦、三好達治などの詩人の作品に、後から 西条八十、佐々木信綱、

藤山 島浦 歌手の中で、徳山璉さんが「私はラジオ歌謡は歌わない」と宣言していた時代がある。あれ 今でもよく歌われる白秋の「山は呼ぶ野は呼ぶ海は呼ぶ」なども、たしかその一つだった。

曲をつけたものもあります。

は流行歌、レコードを撲滅するから、協力はしないと言うんです。

二年ぐらいの間ですね。後は放送もレコードも新聞も映画も、国策にそわされるわけですから…。 丸山 しかし彼の「隣組」の教え方はうまかったよ。大きな声を出しちゃいけない、ドナリ組 まあ、時代相からみても、国民歌謡が明るく健全なホームソングとして放送されたのは、

哀調おびた、歌が戦中に

佐伯 国民歌謡が拡大強化されたのは、戦争が苛烈になってからじゃないんですか。 昭和九年 (三四)

れに軍歌がかぶってくる。

以降では「赤城の子守唄」(坊やよしよし――)その翌年「無情の夢」(あきらめましょと――)が流行り、二・ 二六事件があったり何かわけがわからずに「忘れちゃいやよ」(月が鏡であったなら――)になって、そ

うのも二年 (二七) からはじまるというぐあいで、時局はそういうふうに厳しくなって、一方では、別 島浦 そこで非常におもしろいと思うのは、NHKの国民歌謡もあり、一方では 「国民唱歌」とい

く星座」(男純情の愛の星の色――) などが流行りましたけれども、これはやっぱり、怒られないようなく星座」(男純情の愛の星の色――) などが流行りましたけれども、これはやっぱり、怒られないような に反戦ではないけれども、逆の傾向が出ているんですね。 佐伯 あの間に私のものでいえば「新雪」(紫けむる新雪の――)だとか、灰田勝彦の歌った「きらめ

仕組みをしていた (笑)。

が後で流行った。丸山あれは前 うな時で「酒は涙か」は一等うるさい最中に、なんであんなものが出たかと思うんですね 島浦 藤山 淡谷さんの「雨のブルース」(雨ょ降れ降れ――)は、シナ事変が始まってからでしょう。 僕が学校を出たときが昭和八年(三二)ですけれども、そのころ満州事変が一段落ついたよ

あれは前線の兵隊が、むしろ歌い出したんです。それが逆に国内へ輸入されて、国内のほう

慰問団が送りつけられて、内地で歌いたいんだけれども、兵隊さんの前ならヘッチャラだと

いうんですよ。 だけど、おかしなものですね。一七年(四二)の暮あたりに「勘太郎月夜唄」 (風か柳か勘太郎

――)というのが流行ったでしょう。僕は一九年 (四四) に漢口へ報道班で引っぱられて船から上

藤山

昭和の一けた時代には一曲ヒットすると三年飯が食えたんです。私みたいに、一年の間に

がりましたら「勘太郎」と「ラバウル小唄」(さらばラバウルよまた来るまでは――) が流行っていました。

あれは替え歌なんですね。

ビルマにいたんですが、「さらばラングーンよ――」とか、その土地土地の名前で歌っていました。 **古関** どこへ行ってもその場所の名前になっていますね。僕はちょうどあれが流行っているころ 李香蘭(淑子の中国語名)の映画、渡辺はま子の歌った「蘇州夜曲」(君のみ胸に抱かれて聞くは李香蘭(映画女優・山口)の映画、渡辺はま子の歌った「蘇州夜曲」(君のみ胸に抱かれて聞くは

に祈る」なんかですね。「ラバウル小唄」だって、考えてみれば敗退というか撤退を意味するのを戦 「誰か故郷を想わざる」(花つむ野辺に日は落ちて――)「並木の雨」や、軍歌調のものでは「露営の歌」「暁

マイクが変えた歌いかた

争中に歌ったわけですよね

がなくなっちゃうんじゃないかと思うんですよ。 みたいに何年間も続いたようなものがなくて、これでは何年か後になると「なつかしのメロディ」し 島浦 いまは、レコード会社みずからが大量生産をして、せっかくのいい歌でも「赤城の子守唄」

もの歌が同時に流行るようになり、同時にワンヒット・シンガーというのが生まれてきました。「バ ナナ・ボート」っきりでおしまいになっちゃう。三橋美智也 、美空ひばり、橋幸夫なんていうのが の「酒は涙か」とか一つの歌が流行りますとほかの歌は流行らなかった。戦後になりますと、いくつ いますから、やっぱり「なつかしのメロディ」には。そうお困りにはならないでしょう (笑)。 佐伯 一番初めのころは、勝太郎さんの「島の娘」(島でくらせば娘+八恋こころ――)とか、藤山さん

イクが変えた歌いかた 三曲も四曲も出しちゃったって、これは一二年にはならず、三年間の命なんです。いまは一曲でほか からなんですが、この前渡辺はま子さんに、なんでこのごろの若い歌い手はあんまり太らんのだろう に出なかったら、テレビとかラジオなどいろいろな媒体がほかにあるからすぐおしまいになる。 佐伯 もう一つは放送ができで歌い手さんが変わったでしょう。問題はマイクロフォンができた 藤山さんのころは実演というものには出なかったでしょう。それで三年もったわけですよ。

と言ったら「このごろの人は声なんか出していないじゃないですか」とやられましたが、この歌い方

グしたら崩しちゃう。 まはクルーナーが多くなった。ですからクルーンするものを、声楽的素養があるからといってシン ルーン」(croon――小声で感情をこめて歌う)」にします。この使い分けは、 藤山 「詩」のほうでは私は「シング $\left(rac{ ext{sing}}{ ext{sing}}
ight)$ 」しています。それから「詞」のほうはいわゆる「ク いまのマイクなら出来る。い

は進歩ですかね

ですか。 ロフォンなしで通せるものを持っていないと、それは本当の歌い手じゃない。こういうことはない 島浦 いま多いのは **「歌屋」だそうだよ (笑)。藤山さんなどの修業をした人がみて大講堂にマイク**

なるほど歌詞 と言っていたら、 の 明瞭度は落ちます。マイクロフォンというのはいいところも拡大するが、 こいつはアバタじゃないかというふうに悪いところも出しちゃうんだ。 エクボよ

いまの時代には必要ないですよ。残響音はいまはマイクがこしらえてくれる。どなればど

藤山

テレビで売れた若い子を、レコードに使うのは大変難しいんです。かわいい子で歌ってい

るのは一応楽しいんですが、レコードへ入って見えなくなってしまうと全然ダメですからね。

ニュースで作る歌謡曲

ものですね

島浦 戦争になってからは大本営だとか、情報局だとか、陸海軍それぞれ、いろいろな歌を作った

だん少なくなって、だんだん国民歌謡も軍国調になってきたんだ。その少し前から「歌謡組曲」とい で使ってくれと回してくるわけです。戦争になってからは放送局自主制作の歌謡曲というのはだん 丸山 陸軍省選定、海軍省選定、大政翼賛会、各省全部で、窓口の情報局で篩に掛けたものを放送

古関 フィリピンならフィリピンというものを題材にして、八曲か一○曲あるんです。三○分な

うのをやっていました。

り四○分の番組に、語りがあり、歌がありという番組でした。

藤山 つき合ったよ。海南島だとか、ビルマのシアン高原の思い出とか

「麦の幻想」なんていうのをやっていますから。 丸山 「東亜新地図」の歌だとかね。しかし、ノンビリしたものもやったんです。「虫づくし」「港」

藤山
それは大変な話だね。

すごいとみんなで言っていたところへ、丸山さんから電話で スを聞いたら軍艦マーチが聞こえてきて、プリンス・オブ・ウェールズとレハルズが沈没した、ワー、 三日目の一二月一〇日の午後四時ころにぼくはちょうどコロムビアにおったんです。ニュ

「いまのニュースを聞いたかい。あれで歌をつくれ」

というんです。詩人はいないかと見まわしたら、高橋掬太郎さんがいた。 **「それじゃっくってもらえ。夜七時のニュースの後に放送する。歌は藤山さんだ。よろしく」**

だから、どんなに早口でも大丈夫です。普通だったら、オーケストラのスコアー (鷺) を書いてやる ェールズとレハルスという言葉を、どこに入れるかと考えたんです。歌はピンちゃん(メッ」と読むことから、 とこれだけなんだ(笑)。すぐメロディを書いて、合うように歌詞を頼みました。 肝心のプリンス・オブ・ウ

んですが、そんな暇はないので、初めからパート (※器ごと) を書いたんです。

だよ (笑)。 に軍艦マーチをレコードでかけて終わったらすぐ△滅びたり……と始まるというんだ。緊張の極み 藤山 小生が譜をもらったのは三分前だよ。ニュースを読んでいる間を一生懸命稽古だ。こっち

戦」 (この一戦、なにがなんでも――) だ。 や「われらの歌」 リンス・オブ・ウェールズを沈めたというんで、非常に国民が感激した中で作ったわけです。 非常に好戦的だったけれども、海軍のほうは最後まで慎重だったようですね。そいつが不沈艦のプ 丸山 その後「香港陥落」「マレー半島制圧」「蘭印 (質インドシナ) 降伏」などをね、陸軍のほうは **島浦** その少し後からかなり力を入れてやったのは「国民合唱」ですね。何というか「国民歌謡 が発展的解消をとげて、一七年 (四二) 二月にはじまっています。最初が「この一

と例の「突撃喇叭鳴りわたる」、「一億総蹶起の歌」、二〇年(四五)に入って「特別攻撃隊斬込隊」な 八年(四三)に入ると「アリューシャンの勇士」「必勝の歌」「学徒空の進軍」、一九年(四四)に入る 丸山 その後が「朝だ元気で」「僕らの団結」で、「みたみわれ」(みたみわれ生けるしるしあり-

んていうのが出ているんだが、軍国調がナマで出たものは余り歓迎されなかったんです。

島浦

ニミッツ、マッカーサーというあれは……。

面 をつけたわけです。最初ほもうちょっと詩の型をなしていた。ところが見て、弱すぎるという。 は、大半フィリッピンはとられて、本当にニミッツもマッカーサーも出てきちやったんだ(笑)。 カーサー、出てくりや地獄へさか落とし――(笑)。ところが、「国民合唱」として放送を始めた時に やっっけるという文句にしてくれという要望で、作り直したわけです。~出てこいニミッツ・マッ が集まって打ち合わせして、作曲が先にできたんです。二つ曲をつくって、それに西条八十さんが詩 つけろという歌を作ってくれという、陸海軍と情報局の要望で、スタジオに情報局担当官とわれわれ 丸山 の敵は陸軍はマッカーサー将軍であり、海軍はニミッツ提督だ。はっきり名前を出してそいつを あれは「比島 (ン諸島゚) 決戦の歌」というんで、要するにあそこが決戦場だ、どうしてもやっ 僕は太平洋戦争の歌の中でへああ、堂々の輸送船、というのは、大傑作じゃないかと思うん

だ。これはむしろ悲哀感が強いよね。 藤山 短調でいいんだよ。陸軍省制定というのが表にあって、裏に短調の曲が出てくる。勝って

くるぞの 「露営の歌」は失礼だけどB面でしょう。 A面は陸軍省制定の 「進軍の歌」です。

『東日 (甲新聞) 』の懸賞で「日の丸行進曲」(母の背中に小さい手で――)を選んだときも、 が選者になって、ぼくともう一人で下選りしてエイッと「日の丸」なんかを屑籠に放り込んじゃった。 これが流行るとよと言って、菊池先生があれを作り上げたんです。昭和三年 (二八) に『大毎 (云新聞)』 「露営の歌」は菊池寛先生と選んだんです。こんなものはつまらないから捨てちゃえよ、いや、 佐藤春夫さん

その中にあれが入っていたんですよ。

うんですが、歌謡曲も含めて音楽が、小さいときから自然に耳に入ってくるということ。これはラジ 島浦 放送というものは国民の生活だとか、感情に影響を、知らず知らずのうちに与えていると思

オのかくれた、然し一番大きな影響だと思うんですよ。

丸山 それがいま、日本人の場合、あらゆる音楽をめったやたらに消化する能力ができた、その一

番大きな原因はラジオですね。

の教育は非常に大きなものでしたね。 藤山 音楽だけでなくて、いろいろな意味で発音ということにも広げれば、ラジオによる聴覚から

放送と歌謡曲(略年表)

大 正

△民謡放送のはじめ。 △新民謡も放送

昭

14

2 3 △「波浮の港」をラジオ「民謡」の時間に放送△「私の青空」「アラビアの唄」などジヤズ調の歌を放送、 △町田嘉章氏が 「歌謡曲」の名称を作る。 △国民歌謡の前身ともいうべき「夜ふけてうたへる」放送。

- 4 △「君亦心し」「東京行進曲」、浪花小唄」など流行
- 5 △「祇園小唄」「酋長の娘」「ザツツOK」など流行。
- 6 △「丘を越えて」「サムライニツポン」「酒は涙か溜息か」が流行。 △満州事変起こる。 「パリの屋根の下」を徳山塊が放送。
- 7 に 8、 △「影を慕いて」「天国に結ぶ恋」など。 9年ごろから一般に流行した歌曲を総称して「歌謡曲」と呼ぶようになる。△五・一五事件 △琴唄の名称だった歌謡曲がこの頃から流行小唄を含めさら

17

転車にのって」△「国民合唱」放送開始

8 △歌 詞 についての政府規制きびしくなる。 勝太郎 「島の娘」 レコード発売中止。 「東京音頭 僕の

9 △レコード検閲制度出来る△「赤城の子守唄」「国境の町」「ダイナ」

10 △放送の検閲もしだいにきびしさを増す△「船頭可愛や」「野崎小唄」「上海リル」

△NHK「国民歌謡」はじめる。「日本よい国」「朝」「椰子の実」△「忘れちやいやよ」「東京ラプソ

11

12 ディ」など流行。△二・二六事件 △軍国調歌謡がふえる。「露営の歌」など。△「ああそれなのに」「裏町人生」「妻恋道中」

日華事変はじまる。△内閣情報部募集の国民歌に「愛国行進曲」当選発表。

△軍国ものに情緒を盛った歌謡曲生まれる。「支那の夜」「満州娘」「上海ブルース」△

〈傷病兵士慰問

の午後〉 を放送△「愛馬進軍歌」「日の丸行進曲 13

16 1514 △大政翼賛会結成△「蘇州夜曲」「誰か故郷を想わざる」「隣組の歌」「きらめく星座」△愛国浪曲さかん △軍国童謡生まれる。△「愛染夜曲」「長崎物語」「森の水車」「上海の花売娘」△第二次欧州大戦 国民歌謡」 を「われらの歌」と改称。 「防空の歌」「隣組の歌」など放送。△「軍国歌謡」 愛国

△大東亜戦争新作歌謡集を放送(「落下傘部隊の歌」など)△一般には「勘太郎月夜唄」「お使いは自 謡」「時事歌謡」 が歌謡曲の中心となる。「月月火水木金金」「海軍の歌」△太平洋戦争はじまる。

18 △「若鷲の歌」「空の神兵」「学徒出陣の歌」「ラバウル航空隊」などの軍歌調のもののほか 新雪」が流行。 愛国の花

(第一回「この一戦」)△英米楽曲禁止

19 むけ △敗色濃厚となる。 「職場の歌」放送開始 「勝利の日まで」「同期の桜」 「南から南から」「ダンチヨネ節」 「炭坑節」 △勤労者

20 などもふたたび盛んとなる。△放送では「お山の杉の子」をしばしば放送△終戦 △「一億体当りの歌」「斬込隊」など歌にも敗色あらわれる△「ラバウル小唄」 露営の 歌 蘇州夜曲

ラジオと洋楽

増 沢健美 ば出演、音楽用語の委員としても貢献。第一四回放送文化賞受賞者。 音楽評論家/作曲家としてスタートし、のち評論活動に転ず。楽曲解説などにしばし

恭 輔 弦楽団の母体コロナ管弦楽団の指揮者、アーニイパイル劇場音楽部長をつとめる。 日本芸能実演家協議会常任理事/東大在学中から管弦楽運動に身を投じ、東京放送管

紙

福 安 藤 原信夫 鷹 中継手法を完成、海外からも注目される。音楽評論にも健筆をふるっている。 レビ音楽放送の原型を作る。N響事務長、熊本中央局長、放送総局総務などをつとめる。 NHK芸能局チーフ。ディレクター/音楽番組とくにオーケストラやオペラのテレビ 日本放送出版協会音楽事業部長/NHKで長く音楽番組の企画演出にたずさわり、テ

聞いていたんだものね。放送になるとその手間は要らない。これは僕のかねての持論で一つの結論 なんだけれども、放送が始まって何が日本人に一番影響を与えたかというと、僕は音楽だと思うんだ。 に多くなっているわけですよね。前の人たちは三分間か五分間かけてはレコードをひっくり返して 以外に日本にいて音楽を聞くという場はなかった。放送がはじまって音楽を楽しむチャンスが非常 というのは音楽が好きな国民だという大前提があるんじゃないかという気がするんですけれどもね。 ○年たってテレビができたことが非常に助けになっていることは否めないけれども、質的に、日本人 島浦 島浦さんの説にさらにしんにゅうをかけたいのは、同じマスメディアとしてラジオができ、三 大正一四年 (二五) に放送が始まる前は、演奏会を聞きに行ったり、レコードを買いあさる

音楽に親しんでいくようになると、よほど違ってくると思うんですよ。 うとまず音として聞かずに本を読みだす(笑)。ところが放送が始まって、若い時から音を聞いていて 日本人というのは非常にものごとを系統だてて勉強するのが好きですから、 音楽なんてい

浅草オペラなんていうのは相当影響があると考えていいんでしょうかね。

実際はオペラなんていうものじゃないんだ。カットはするし……。

夜店のオペラだよ (笑)。一種のミュージカルみたいなものだった。

です。その両方が噛み合わさって、それで音楽がますますラジオというメディアを通して普及して が演奏する場を与えられ、作曲家が作曲する場が与えられたわけで、こいつは影響が大きいと思うん いった。だから放送は、聴衆だけではなしに、演奏家に対しても、非常に大きな刺激剤になったと思 **安藤** ラジオによって非常に音楽が普及して、レコード会社が大恐慌を起こした、とともに演奏家

われて『東京日日新聞』(いまの『毎日新聞』)に書いてから評論家になっちゃった。もっと早く放送を で、僕は三○円なんだ。これは食えんということで大正一一年(̄ ̄ ̄) ごろに新聞に書かないかとい んだ。僕の楽譜を出版したのは山田耕筰と同じところなんだ。山田耕筰氏は歌曲一曲が印税六○円 増沢 大正の中頃にラジオというものがあったら、おそらく僕は作曲家になっていたろうと思う

放送と交響楽は同い年

やっていてくれれば、僕は批評なんかやらなくても済んだ(笑)。

島浦 ところで日本交響楽協会ができたのは、 放送の始まりとピタリと一致するんですね。 日本

の交響楽運動は放送とともに始まっているんですよ。

紙 そのことになるとちょっとうるさいよ (笑)。大正一四年 (二五) の三月から五月くらいまで、日

わけよ。もうバカバカしくて……。それが「二人いたわけだ。近衛秀暦を頭としてみんなポーッと ラバスでそれに参加した。五月にロシア人がみんな帰ったけど、ぼくなんか暗箱 (映画館) へ帰れない 露交歓の「ロスキー・ヤポンスキー・シンフォニー・オーケストラ」というのがあって、僕はコント

していた。そうしたらはからずも七月半ばにNHKが本放送を始めるというので、それを機会に初 めて日本のシンフォニーができたようなものなんですよ。だから日本のシンフォニー運動というの

は、NHKの本放送の開始と一緒だったんですよ。

ども、金を出しているほうなんだ。放送に出てはじめて金が入るようになった。大変なことですよ。 増沢 とにかく山田耕筰が自分で棒を振って、オーケストラをやりたくてしようがないんだけれ

島浦 それが今のN響 (響楽団)の前身ですね。

ですけれども、N響の第一回というのは厳密に、あくる年の春から起算しているんです。 実際は大正一四年 (二五) 九月二五日〈ベートーベンの午後〉というのをやったのが最初なん それは翌年新響になる。新響になったらそのままN響みたいなものですね。歴史的にい

をいたさなければいかんということを、初めから考えているんですよ。審議会みたいなものを作っ 島浦 日本の放送は初めから、洋楽というのが多い。NHK自体が、放送を通じて音楽の普及に力

ているでしょう。

あれは洋楽選定協議委員会といったかな。顔ぶれは堀内敬三、上野の音楽学校教授から大

塚淳、萩原英一、それに、伊庭孝、牛山充、私です。

というわけで、来てもらった。 堀内さんは、その前にNHKに入っていますね。 堀内さんを招いて洋楽をやってもらおう

楽を解説するという時間がありましたね。堀内先生や大田黒元雄さんなんかも解説されたし……。 わりあい早い時期に増沢先生など、一時間ぐらいの長い時間をとって、レコードを流して洋

見いしゃべりながら、原稿を一枚ずつ床の上へ落としていくんだ。 いけないというんで、しゃべっても、しゃべらなくてもいいようなアンコをこしらえて、時計を見い 増沢 とにかく私のやった記憶では、立ちマイクでナマ放送ですから、時間をきちんとしなくては

昭和三年 (二八) には「西洋音楽語彙」というのをお願いしていますね。

文研でこしらえた「外国楽曲の呼び方」というものの一番の元です。 している。音楽でも出来るだけ日本語にしようという狙いがあったわけなんです。それがNHKの 団法人で、堀内君が理事でした。彼がNHKへ入って下請でそれを受けてきた。われわれの考えて 会長で、副会長がパイブオルガンの権威だった理学博士の田中正平さんで、私は常務理事。これは社 いたのは、 あれを引きうけた下請に大日本音楽協会というのが当時あったんです。大倉喜七郎男爵が 日本の医学というものが非常に早く発展をしたのは、病名でも何んでもみんな日本名に訳

から、洋楽にはアナウンサーは困った。大阪ではモギレフスキーの放送を毎月一遍やるんだよ。ア 島浦 NHKがそこまで苦労をしているのは、開拓者の努力だが、あんまり力を入れてやるものだ

されるんだよ。それがながなかOKにならない。 レクサンダー・モギレフスキーと、ナデジタ・ロイヒテンベルヒ、というのを紹介する前に一々いわ

これがソナタをやって第一楽章が済んで僕が二本指を出したら、うんというから二番目の曲のア

ナウンスをした。そうしたら向こうは第二楽章のつもりだったんだ (笑)。

増沢 クラシック音楽というのは、イタリア語、ドイツ語、フランス語そこへ英語が入り、そのう

このプログラムを洋楽語彙に照らして見てくれと、ずいぶん頼まれたことがありますがね。 安藤 洋楽の語彙はわれわれが入ってからもずっと続けて、改訂を重ねてきた。それで演奏家に

え人の名前ときた日には、まことに大変だからね。

いい仕事だと思うよ。

ますからね。 安藤 一つの言葉を決めるのに、半日議論をしたりした。建築家にもドボルザックというのがい

アメカでは、シベリウスのことをサイビリアスと言ってる。国によって「伊勢の浜荻」でね(笑)。

常に神経質なんだ。ある程度で我慢しなければ、仮名表記は限度がある。要するに決めることが大事 なことなんです。現地音に忠実にということは大方針ではありましょうが、人名の場合にはなかなか そうも言い切れない。フランスなんかことにひどいですよ。メンデルスゾーンはマンデルゾンだしね。 **増沢** 先進国であるほど、自信をもって自国流の呼び方で通しちゃう。ところが、日本の場合は非

コストラネッツがきました時に、用語委員会のほうで、コストラネッツの奥さんのリリー

そうだな。ヘンデルがアンドルになっちゃうんだから。

ポンス (ノ嗽チ) を「ポンス」と呼ぶか「ポン」と呼ぶか、だんなに聞いでくれといわれた。

「二人の時はポンスと呼ぶよ」 (笑)

なんて言った。実体はもう決まっているわけですから、一種の符号をきめることが大切なことですね。 安藤(そう。しかし、ヴァイオリンがついにバイオリンになり、ヴィオラがついにビオラになって 「いずれにしてもおれの女房であることに変わりはない。どちらで呼んだっておれの女房です」

しまいましたね

ウににごりを使うと一行ぐらいになってやっかいだ (笑)。 増沢 活字のジャーナリズムが賛成するんですよ。ビバルディなんてカナで書いてごらんなさい。

伊勢地方で葦の事を「浜荻」という。

アンドレ・コストラネッツ。指揮者。二度来日。一九五五年にはNHK交響楽団を指揮した。

プラーゲ旋風の刺戟

うけれども、いわゆるちゃんとしたものもやっていますね。軍楽隊をやめてNHKにお入りになっ 福原 放送の初めのころは非常に軍楽隊が多いですね。やっているのは吹奏楽のようなものでしょ

た方もおられますね。

そうそう。その時分は陸軍軍楽隊、 海軍軍楽隊というのが、音楽普及に一役かっていまし

それから宮内省の楽部。上野音楽学校。この四つが原動力で、後は僕らがやっていたヤクザっ

ぼ

い町

の映画館の楽隊だからなあ。

しょう。ジンバリストもやっていますね。その時の謝金がいくらだとかという話から、ひとこすり 島浦 そのころ日本へきた音楽家で、有名な外国の演奏家というのは、ほとんど放送しているで

安藤 お互いさまです(笑)。

何十円とか、何百円になると、非常にひがんだ。

島浦 プラーゲ旋風というのが昭和八年 (三元) に起こっていますね。その後、 約一年間、 いわゆ

る西洋近代音楽の放送ができなくなった時代があるんですよ。

完全に押さえられてしまった。 え、その仕事を認可制にして、プラーゲには認可しないという手を考えた。彼は大連へ事務所を持っ どもね。日本がベルヌ条約 (^{条約}) へ加盟しておきながち、ちっとも義務を履行していなかった。 ていって、大連から日本の事務員に指令を出しておったんですが、戦争が始まるようになってから、 ているんだから、ブラーゲを罰するわけにはいきません。それで日本自体が著作権の団体をこしら かしやたらにおどかされたものだから社会問題になってしまった。条約上ちゃんと正当な行為をし これはNHKも演奏家も相当の被害者です。ブラーゲの要求は法律的には正しいんですけれ

るという、一つの刺激を与えることにはなったんですね。 ないベートーベンなんかの古い西洋音楽は継続できたわけです。日本人の作曲したものが放送され ただ結果的にいうと、日本人の作曲を盛り上げてくる一つのきっかけになったんじゃないか。 動機にはなったでしょうね。あの当時の放送は日本人の作品か、それでなければ著作権の

Ē

(一) エフレム・ジンバリスト。ヴァイオリニスト、指揮者。

大切な洋楽の言葉

島浦 レコードを掛けるのが特殊技能だったね。 ツーセット持って行って、こっちからこっちへ

移る時のつなぎのうまいこと。神技だったよ。 有坂愛彦さんがやり、私がやり、福原君もやり、みんなやりました。レコードを掛けると

れを出す。その次はだれそれのライトモチーフというと、全然違うところをパッと出すんですよ。 「だれそれのライトモチーフ」というと、レコードに黄色の鉛筆かなんかで付けておいて、パッとそ いうことは、非常にウエイトが大きいことだったんです。楽曲の解説で、ワグナーのものをやると、 増沢 同じレコードを二枚掛けておいて「これは音が悪いですから変えます」と言って、ちゃんと

五分の間にリレーするんですから大仕事でした。 のがございましたが、二組持って歩くわけですから、 LPになってから楽になりましたよ。昔は、オペラ放送で日曜目の昼に二時間ぐらいやる レコードが一山あるわけです。それを三分から

乗りかえをする (笑)。

いまはテープつなぎに変わってしまっているわけですよ。レコード会社なんかはうまく演奏

したところを持ってきて、パッとつなぐ。

を節約する意味で、繰り返しの部分が全部省いてある。それを放送時間の調節に、その部分をレコー 繰り返しをやっていいようにオリジナルの楽譜に書いてある曲でも、 SP時代ですと時間

ドで繰り返したことはよくありました。

ると二八分になり、解説を入れて三○分の放送に仕立てる。 「未完成」をやった覚えがありますよ。「未完成」は二四分ぐらいなんです。繰り返しをす

増沢 先ほどの洋楽の委員会では伊庭孝が、「特にオーケストラのレコード放送をやめて、 出来る

だけ実演を使ってくれ。レコードをかけられていたんじゃ、日本のものがよくならない」ということ

非常に主張しました。これはあっぱれな発言だと今でも思いますね。

Ē

(一) シューベルトの交響曲第七 のため、こう呼ばれている。 (旧八)番。第二楽章までで完成されているが、 その後の楽章が未完成

体ごと鐘にぶつかる

いうのがあったから助かったようなものですが、やっぱり戦争中の洋楽放送は窮屈だったんでしょ 島浦 それから戦争が始まるわけです、洋楽というのは敵性音楽ですけれども、たまたま枢軸 国と

うね。

た。マーチを三○曲ぐらい頼んで作ったんですよ。N響なんかでとりあげる曲も、日本人の曲目が パーッと多くなってきたわけです。 安藤 それは窮屈でしたね、 制限されて。この時にさっきおっしゃった日本の作曲家が育ってき

その理事長になれという。他方音楽著作権協会を背負っていたものだから、いやだと言ったんです 増沢 情報局が出来て責任のがれに音楽統制関係というのも、音楽文化協会にやらせた。ぼくに

が、無理やりに引っぱられた。

するからいかんというんだ。あんなものを聞いて、だれが戦意を喪失するものか、やれやれと言って 警視庁がたとえばチヤイコフスキーの「パセティツク (巻 | 悲愴))」なんていうのは、戦意を喪失

通したことがある。

枢軸ならいいだろうといわれるので 僕は音楽文化協会の敵性音楽を査定する会に一遍出たことがあるんだ。その時に国籍主義で

ということで一ちょう威張って帰ったことがあったな (笑)。 「クルトワイルやスクリアビンはどうするんですか。もうアメリカへ帰化しておりますよ_

イ。その時にイギリスから奇せられたブリテンの「シンフォニア・ダ・レクイエム」の後日談がある シュトラウスとか、イベール、ハンガリーのヴェレッシュ・シャンドール、イタリアのピツェッテ 紀元二六〇〇年の時に、各国から協会に寄せられましたものがありますね。リヒアルト・

やった。それが終わって彼が楽屋に帰ってきて言ったことは、これでやっと目的を達したというん です。二六○○年ではできなかったんですよ。お祝いの時に「レクイエム」ではぐあいが悪い。 が日本に寄りまして、N響を振ったことがあります。この時に「シンフォニア・ダ・レクイエム」を NHKホールができたとき、彼を呼んで演奏会をやったことがあるんです。旅行の途次、ブリテン

お寺から鐘を一○何個か集めてきて、中に砂を入れたり、泥を塗ったりして、音を調律するんです。

シュトラウスは「祝典音楽」を送ってきたので、それを演奏した。ご承知のとおり、方々の

い。まさに鐘や太鼓で探すのにえらい苦労をした。その時の演奏会には梵鐘を借りたお寺の坊さん ところが戦後それをやろうということで、ちょうど私がN響の事務長をやっておりました時に、そい つを放送したんです。昔と同じようにお寺の鐘を探したところが、戦争で焼けちゃっているからな

がたくさんきていました (笑)。 大きなものは直径が一メートル以上ありましたね。ですからそれをたたく棒が、直径二○

センチから三〇センチあったと思います。棒を八双にかまえまして体ごとぶつかっていく (笑)。 安藤 あれはNHKの宗教番組プロデューサーをしておりました摩尼清之君の斡旋で集まったよ

うなものです。あの叩くのも練習に叩くと皮が切れちゃう。都電のポールを引っぱる縄なら強いだ ろうということで、あれをぐるぐる巻いて保護しながらフオルティシモを打った。

į

○年は、一九四○年に当る。 神話上の初代天皇神武の即位を元年とした記年法で、西暦に六六○年を加えてたもの、紀元二六○

録音にも時代の差

ロフォン一本で録るとか、あるいは何本か立ててそれを絞るとかということを、いろいろやった。 洋楽放送の技術だとか、演出初期から見ればよほど変わっていると思う。たとえばマイク

うマイクは、扇型に方向特性が変えられるからというので、初めてワンポイント・ピックアップ・シ **ん使う時代もあり、いろいろなマイクロフォンのアレンジも勉強しました。戦後、RCA七七Dとい** 戦前の一番最初はワンポイントしかマイクを使わなかっようですが、戦争直前にはたくさ

ステムというのができて、一時風靡しました。

音をというので、さらに変わってきたと思います。 ということでしたね。昭和二六、七年 $\left(\frac{1}{1}$ 九五 $^{-1}\right)$ 以降、実音に忠実であるより、さらに放送のための だし、ワンポイント・ピックアップ・システムというのは、ほとんどクラシックで、軽音楽は「世界 の音楽」のようにいろいろセパレートしてやっています。演出というのはそのころは実音に忠実に 昭和二六、七年 (元二一) ごろを境に、またマイクロフォンを多数使うことが考えられました。た

なおしてくれるだろうと思ったら ミキサーがやってきて、僕のオーケストラがやった。ぼくらはいい加減に並んで、そのうちに配列を 実演家の側では、いまの福原さんと全く反対のことを要求したんですよ。アメリカの有名な

「本番に入ってもいいか」

「並び方は?」

という。なるほどアメリカさんというのは、タレントがうるさい国なんだな (笑)。 「これで君らはいいんだろう、これに合うように僕らはマイクを配置する」

のバランスというウエイトが、非常に大きくなっています。いわゆるミキサーの腕のみせどころで やはりメインを一つ置いて、後補助マイクということになってきました。その補助マイク

す。放送中その曲によっていろいろとミキサーが音を創造するというような線に来ていますね 島浦 かつて、和田精氏が大阪にいたころ、ダルモンテだったかが歌う時に、ソプラノの声は頭の

165 先から出るからといって、頭の上にマイクロフォンを吊した。それでは歌いにくかろうと、前には線

録る放送のためには、ガシャガシャと入れかえていったらどうか、なんてやっていった。 のつながっていないマイクロフォンを置いた(笑)。オーケストラの配列も演奏会というのは一つは見 る要素もあって、いつでもああいうふうに並んでいると思っているけれども、それをワンポイントで

あったのに、それが聞こえない (笑)。 んですよ。ところが今度は演奏するほうがたまったものじゃない。隣にいつも聞きなれている音が かずいぶん一生懸命やっていたわけです。オーケストラの位置も第一スタジオで変えたことがある バイオリンの音や、ホルンの音がどういうふうに出て、広がっていくか、これは福原君なん

れがどこかでまとまって、大音楽になったっていいわけでしょう。 ですと、さっき昭和二六年(ച്ഫ) 頃録り方が変わったと申しましたけれども、当時RCAのオルソ ビクターの収録の技術陣と研究してやりはじめたのだそうですね。やはりそれは日本だけでなくて、 バイオリンがいまのように並ぶようになったのは、ボストン・シンフォニーとクーセヴィツキーが ンが楽器の指向性について、大変にいい本を出したので、技術のスタッフと共同で訳したのです。 マイクロフォンの発達と同時にそういうことが世界的に出来てきたんでしょうね。それからNHK 福原 放送でやる場合には、極端なことをいえば別な部屋でやって、一人静かに弾いていると、そ 現にカラヤンなんかがやっているんです。各部屋に、管楽器なんかを分けて、テレビを見 クーセヴィツキーの「自伝」に書いてあるんですがファースト・バイオリン、セカンド・

昔は楽譜に書いてある音が聞こえないと、承知しない人種がいたんだ。実際にはそんなの

ながらやっているのです。

ですね。

ないはずのものが、それが分離して別々にやられたために、特に音が明瞭になっているのはいいとし は聞こえるはずはないし、また作曲家というのもそこまで敏感に音は考えていない。そうは聞こえ

島浦 放送屋としてはそれで今迄と何か違った、 すばらしい音楽ができれば、 大変けっこうだと

ても、バランスの上でちょつと違う。

増沢 そうそう。

思う。

良の席で聞いている状態がレコードですからね。 福原 レコードだけ聞いている人が、ナマの演奏会を聞きに行って云われることと同じです。最

たら、一番いい音がとれるかというので、その場所を探すのに大苦労をしましたよ。 ですから、さっきのワンポイントのマイクの場合、このスタジオのどこにそのマイクを置

Kの技研の人たちが行って音響学的に、NHKの実績による自分の知識をもとにしてやっているん らこちらに立てる。そうするとG線を弾く場合と、E線を引く場合と、方向性が九○度違うんですよ。 島浦 これは音楽とは直接関係ないかもしれないけれども、上野の東京文化会館を作る時にNH バイオリニストに一スタ(タシオオ)の真中で演奏してもらいまして、マイクロフォンをあち

技研の連中は大いに協力すると同時に大勉強しちゃった。その成果の宀つが文化会館の音響設計な 安藤 商業放送ができます時にスタジオの音響設計の依頼が、みんな技研にきたんです。 だから、

んです。

討

- (一)) セルゲイ・クーセヴィツキー。ユダヤ系ロシア人指揮者。一九二四年から一九四九年まで、ボストン 交響楽団の実質的な終身常任指揮者を務めた。
- (二))フェルベルト・フォン・カラヤン。オーストリア出身の指揮者。一九五五年より一九八九年までベル のひとり。「楽壇の帝王」と呼ばれる。 リン・フィルハーモニー管弦楽団の終身指揮者・芸術監督。クラシック音楽界において最も著名な人物
- (二) 民間放送は、一九五一年九月一日、名古屋の中部日本放送(CBC)、大阪の新日本放送(NJB)が であります。周波数一二一○キロサイクルでお送りしております」という女性アナウンサーの声で開始 お早うございます。こちらはCBC中部日本放送でございます」だった。 男性アナによる「JOAR。こちらは中部日本放送、一〇九〇キロサイクルでお送りします。みなさん 放送を開始することによって始まった。民間放送の第一声は、六時三○分、名古屋のCBC放送による 大阪の新日本放送は、CBCより五時間三○分遅れて、一二時三○秒前から「JOOR、新日本放送

ふるえたデル=モナコ

なんですね。 なったわけで、これはNBCだとか、BBCだとか、みんなありますね。やっぱり放送と音楽が結び ついているからでしょうがオーケストラというものは、古今東西を問わず、独立してはできないもの 島浦 昭和一七年(四二)に、小森七郎会長が理事長になって、日本交響楽団ができ、 戦後N響に

EMUが、レコードの使用時間の枠をだいぶ広げたんです。そのかわりそれの交換条件として、BB たしかにそのとおりでしょうね。去年か一昨年、イギリスのミュージシャン・ユニオンである

Cは音楽学校を出たての人を三年間経験をするために、オケを作ることという条件でした。

本にきて稼いでいく。それが日本の音楽家を大変圧迫しておるというんだけれども……。 島浦 紙さんと増沢さんのお二人に聞きたいんだけれども、戦後、外国の音楽家がジャンジャン日

紙 キタゾ (笑)

ける。ほんとうの意味の耳がないんじゃないか。 島浦 なぜああいうことになったんだろう。一つは日本の音楽愛好者にも、それを見わけ、 聞きわ

必要としているか、していないかという査定をまず出入国管理庁長官がするわけだ。わが国は出入 国管理令に、芸術、 いる。ですからおよそ音楽をやるものは、申請どおりの申請をしたならば、許可をしないと役人のミ 僕はそれよりオーストリアだとか、北欧諸国のようにこの人間はわが国音楽にとって助力を 学術、音楽家と並んでいまして、その次の号にスポーツ、演芸、演奏家となって

般の人たちの音楽の鑑賞力が高まってくることが望ましい。 増沢 日本では音楽に限らず、外国のものについては、まだ特殊な考え方を持っているんだな。

スになる。

んだものはみんないいだろう。それがいいたかったんだよ (笑)。 は、一言も書かない、世界的名手ならば書くべきですよ。結論はもう決まっているんだ。NHKで呼 ただ、日本の場合に或新聞社が呼ぶと、その新聞だけが世界的名手にしてしまう。 別

大体誉めていいな。

話は飛ぶけれど、私がヨーロッパへ行ったのは一九六二年でしたけれども、その時に私をヨー

¬ 「N響というのはうまいね」
¬ ロッパの音楽家連合会のボス連中がつかまえて

とみんながいう。僕は鼻高々でね。

ポーランドの後になった国は、だめだというようなニュアンスがあるくらいで、日本の作曲界も高く をきめるラジオ会議というのがあります。ここ数年日本とポーランドが非常に重要視され、 福原 その後で、ユネスコで毎年各放送局が現代作品のテープを持って集まって、投票して順位 日本と

増沢 聴衆のレベルも上がったな。

評価されています。

リアオペラできた連中は毎回ですけれども、デル=モナコでも初日の幕前にはふるえていた。 福原 クラシックの演奏家の人たちが、日本の初舞台を大変に気をつかいますね。たとえばイタ うですか。、

ラジオニュースの軌跡

木 竜 二 セントテル・リーグ会長/国民新聞に入り社会部長、 時事新報社会部長などを歴任し、

ラジオニュースとの競争を体験。

千葉雄次郎 大新聞研究所長、NHK経営委員長をつとめ、 日本新聞学会長・東洋大学教授/長らく朝日新聞で記者生活を送り、 放送、 新聞両面にあかるい。 取締役。 のち東

橋武治 元NHK報道局長/都新聞記者からNHKに入り、 報道番組の確立に力をそそぐ。の

高

宝 田 通 元 元NHK企画部長/国民新聞記者をへてNHK報道課長となり、 ニュース放送の充実

ちニッポン放送編成局長などをつとめた。

に尽力した。

説の中にも、「ニュースの速報」という当然あるべきものがない。その辺のところから宝田さん、ど てやれなかったという事情があるのかもしれません。放送開始の日の後藤新平総裁の大風呂敷の演 新聞社の本領であるニュースの放送に関しては、多少遠慮がちであった。新聞社からの圧迫があっ 聞社も放送局をやろうというんで非常に熱心だったといういきさつから、いざ放送がはじまっても 島浦 大正一四年(二五)、日木にはじめて放送局が出来るときに、いろいろ出願者があった。新

宝田 何といっても幹部が各新聞社から出ているもので、新聞の先を越してニュース放送が出る

謙次郎さん、『朝日』、『毎日』からもということだった。宝田さんものちに『国民新聞』から放送局 という速報性に対しては非常に敏感だったというのが最大の理由でしょうね。 へいかれたし、スポーツライターとして山本照君、そういうふうに各社が非常に協力的に人も出した 鈴木 でも、各社はだいぶ理解をもって応援したんですよ(笑)。僕の記憶では『時事』からは矢部

んじゃないですか。

きたようなものを、放送局へなんか出しっこないんだ。それはちゃんと懐へ入れておいて(笑)、五 時半というのは、これはちょうど新聞の締切時間なんです。新聞だって最新ニュースとして送って 締切のほうにしても、夕刊後の翌日朝刊用のニュースですから特ダネなんかほとんど出さない。 まずなかったと思うんですよ。それでニュースというものは新聞社の受持ちで、順番でやれという うものは自発的に放送局が取るべきものじゃないと思っていたんじゃないか。取ろうという意欲は ことで、私は整理部にいましたが、そこの仕事なんですよ。これはニュース時間が朝の一一時ごろと、 時半ごろと、五時締切の三回でしょう。朝の一一時なんてこれは何もありゃしない。それから一 鈴木 スクープしたニュースは、放送局へは提供しなかった (笑)。放送局自体、ニュースなんてい 人は出ているんですけれども、ニュースの放送そのものは非常に遠慮がちだったんですよ。 まだ試験放送中に、洲崎で大火があって、それをいまでいえば臨時ニュースで出したんで

放送局で自分で書いて出したとすれば、それは自主取材の最初ということになりますね。外

す。これは新聞社側にも相当なショックじゃなかったかと思うんです。三時半ごろ燃え始めた火事

七時半の放送劈頭にやった。

島浦

国なんかの場合は契約で、プリントされた後でなければ放送してはいけないということを明記して いたんですよ。日本の場合にはそれほど契約なんてやかましくないから、これはぜひやらなくては

ならんといえばやれたんで、非常によかった。

うのを聞いたほうが、プリントした印刷で見るよりも、もっとショッキングであったというようなこ 放送史には煙山二郎さん(当時の放送部長)の話で、「遊廓で赤い蹴出しをチラチラさせて……」といか送史には煙山二郎さん(当時の放送部長)の話で、「遊覧堂であい蹴出しをチラチラさせて……」とい

とが書いてありましたな (笑)。」」

(一) 着物を着た女性が、下着である腰巻の上に重ねて付けるもので、着物の裾を上げて歩く時腰巻があ らわに見えるのを避けるために着けるもの。

放送は「アペタイザー」

島浦

の仕事だったんですね。 宝田 ただ、二段見出し以上の大きいものは一つもこない。なんにもないことも多かったんです。

あの頃はもらったゲラ (ฟ̄́) を話し言葉に直すとか、ニュースの形に直すというのが当時

「朝日新聞のニュースは、きょうはございません」

というアナウンスをしたので、やっつけられましたよ。

「ないんじゃないんだ、提供しないんだ」(笑)。

放送をあんまり投げやりにしてはまずいぞということになったんですよ。 千葉 しかし新聞側、だんだん放送の反響が分かって、それからまたやっぱり各社競争ですから、

始めましたね。あれを作ったのはどういう意味ですか。 昭和五年 (lino) に宝田さんが『国民新聞』からこられて「放送局編集ニュース」というのを

宝田 新聞社提供のニュースがだんだん質が落ちて、ニュースの価値がないんです。それでたと

やろうということになった。「ニュース」でもいいわけだけれども、いままでの関係があるので、放 え通信ダネでもいいから自分のところでやらなければならないというので、ぼくを一人入れ、朝から 晩まで飛び歩かせた。それから一人、二人増員してもらって、「放送局編集ニュース」というものを

送局というふうなクレジットをつけたんです。

干葉 そのタネは『連合』と『同盟』を取ったんですね。諸外国ではみんなそうです。通信だけな

んですね。だから、あれでまあ、タネが途切れることはなくなったわけです。

鈴木 そのころまだ取材記者というのはいなかったんでしょう。

ラブへ申し込んだのですがだめだという。それで内務省の中でも地方新聞のクラブがあって、そこ へやっと入れてもらったくらいです。議会のクラブにも入れてくれないし、内閣書記官長に頼んで、 宝田 当時、各クラブではいくら申し込んでもメンバーにしてくれないんです。まず内閣記者ク

事務員のバッジをもらって中へ入ったんです。とにかく、何とか確めて自分の責任のあるニュ

としアプラフ

は二十一日会 (当時の新聞社編集局長の連絡会) がぶっつけてきた公文を後に発見したんですよ。それは昭 るということで了解がついた。だけれどこれは実施されなかったと書いてあるんです。ところが私 高橋 記録を見ていましたら昭和八年 (三三) 三月から一日四回六五分のニュースを、一五分縮め

和一〇年 (三五) 四月二三日というのですが非常におもしろいことが書いてある。

挙に出られ、貴協会創立十周年記念に相当する来る五月十五日より実施すべく用意ある旨を 承 り、 ここに了解を遂げるに至れるものに御座候。敬具。 会が前記放送の趣旨により、ニュース及び類似の放送に関し、あとう限り善処せらるべきを信じ、 これを了承するものに御座候。右は必ずしも本会の満足するところにはこれなく候えども、貴協 旨に基づき、貴協会において自発的に現在の一日の総放送時間七十五分を五十分程度に短縮する 送するべきものにして、新聞並びに通信社と競争的立場においてなさるべきものにあらずとの趣 長期にわたり慎重協議を重ねた結果、放送ニュースが新聞記事のいわゆるアッペタイザーとして放 粛啓、かねてラジオニュース放送時間問題に関し、貴協会小森専務理事と本会代表者との間に、

昭和十年(三五)四月二十三日。二十一日会幹事。

三、四時間放送しているんです。その時にこんなえらい文章をもらってね。アッペタイザー (産業) だなんて (笑)。新聞社側の放送局に対する厳しさを、初めて知ったんですよ。だけども戦争によって ら封書で発見したんです。本物は後に放送博物館へ寄贈してあるはずですが、当時ニュースをもう ニュースはどんどん伸びてきまして、新聞社側も文句はいわなくなった。 私が報道部長になったのは昭和一七年(四二)でその時に引き継いだ書類の山を整理している中か

島浦(クラブに入れるようになったのはいつ?

入会金三○○円のところ、放送局は一○○○円出せ、それから受信機一台持ってこい(笑)。 一番初めは天皇が人権宣言をしてもっともポシャッた宮内省が入れてくれた。そのかわり

新聞の劣勢をカバーするということについて、相当の注意を払っているのですが、 だから、この書類で見ると二十一日会幹部という新聞社の経営陣が、放送と新聞との立場における われわれの時はす

でに第一線記者がそれを始めていたということなんです。

二十一日会というのは各社のどういう方の集まりだったんですか。

これは編集首脳です。緒方竹虎 (副社長)、美土路昌一 (副社長)、『毎日』では高石真五郎

奥村信太郎という人たちがいて、相当活躍していましたね。

けてニュースを放送局が売る。これをやると新聞社は広告へ影響しますからたまらないわけですよ。 局へ売ったんですよ。そうしたところが向こうは一つは広告の問題がありますから、スポンサーをつ メリカはもっとひどいんです。最初、UP、INSというのはこれは商売ですから、ニュースを放送 それともう一つ午後四時ごろのレイト・ニュースなんかを放送局がどんどんやりますと、夕刊が全 ところで、あえて新聞社におった人間として申しますと一、これは日本だけじゃないんですよ。ア

朝晩五分間ずつというので縛ってしまったんです。 も、全部そのニュースは一括して何とかビューローというものをつくらせて、そこで編集したものを 然売れなくなっちゃう。それで困って新聞社側とネットワーク側が協約をしまして、INSもAP

たのが昭和一五年(≧^) なんですよ。それを思うと、日本の新聞のほうがまだいい (笑)。 それが確か一九三三年 $\left(^{\mathrm{RR}} \right)$ から一九四〇年 $\left(^{\mathrm{RR}} \right)$ というから、だいぶん後ですね。やっと崩れ

は矢部放送部長がやったんで、 島浦 二十一日会の臨時ニュース中止の申し入れが中山竜次常務のところへ来たんですな。 あれ

なんて逃げているけれどもね。

高橋 「放送は玄関、新聞は奥座敷 矢部さんはこういうキャッチフレーズを言ったらしいね。

ほんのとば口をやるのが放送で、奥座敷へ行ってじっくりと話し込んでものを了解するのが新聞じゃ いかと鋭鋒をそらした。しかし、その後に新聞社はアッペタイザーだという(笑)。

ニュースの評価と二・二六事件

一六事件じゃない? あれは確か取材員を派遣したでしょう。 鈴木 放送というものが非常に価値があり、また国民にとってもああよかったと思ったのは、二・

と、ラジオで盛んにやったんです。それからさらに戒厳司令官の香椎中将の「兵に告ぐ」だ。あの名 ようにしなさい」 流れ弾がくるといけないから、なるべく家を立ちのきなさい。あるいは畳を上げて流弾を避ける

文は大久保少佐が書いたんだが、あれを繰り返し繰り返しやつてラジオの報道力のようなものを国

ュースの軌跡

民に大きく印象づけた。

くて、反乱軍の兵隊に何とか聞かせようというので、特別に車を出して、そして物陰に車を隠して高 島浦 二・二六事件の時には全力を注いで、「兵に告ぐ」なんだ。これはみんなに知らせるのでな

声ラッパ (ピーカー゚ス) で向こうの兵隊たちに聞かせた。決死の覚悟で行なったわけです。 高橋 あれは実に大したものだったよ。

としてアッペタイザーでなくなってくるのは、やっぱりシナ事変と関係がありますね。 そういうことがあった後、放送局のニュースというものが一般の人にもわりあいニュース

ありますね。それから後では例のベルリンにおける「前畑ガンバレ」だ。

感じは出てきたと思うんです。そのころには愛宕山では大体陣容は整ったんですか。 ともかくシナ事変が始まって、放送局のニュースを聞いていれば一応戦争は分かるという

軍省へやったり何かして取材して、放送したんですよ。 でもそういうふうな経験があるものはみんな集まれというんすよ。それで二○人足らず集めて、陸 いや、あの時分には四人ぐらいしか報道関係職員はいなかったんです。それで何かほかの部

く、意気を大いにあげて、アナウンサーはもっと戦意高揚のような恰好でやれというんです。 が放送としてはそんなけしかけるようなことはまずい、という態度を取っていた。 ところが陸軍あたりでは、もっとガンガンやれという。ニュースをドンドン出せという意味でな

Ē

(一) 一九三六年(□□)八月一日から一六日にかけてドイツのベルリンで行われたオリンピック競技大会。 さえ、金メダルを獲得したが、その時実況した河西三省アナウンサーが「前畑頑張れ」を連呼し、日本 の聴衆者に熱狂的な興奮を巻き起こした。 女子二百メートル平泳ぎで出場した前畑秀子が、地元ドイツのゲネンゲルの激しい追い込みを僅差で押

検閲」の副産物

ども、そこでいま宝田さんの話のように軍部がいろいろな注文をつけてくる。 島浦 ニュースというものが放送の中で占める位置はだんだん高くなってきたと思うんですけれ

かないわけですね。新聞や映画はできたものを見せればいいだが……。 閲なんていうものは放送に何も特別なものがあるわけではないんで、要するに新聞紙法と出版法し その前に、ずっと引っかかった問題は検閲問題だと思うんですが、これは放送が始まったときに検

うのを作り、スタッフを揃えて、そしてその時は同盟通信ができましたから、 間に放送したんです。 ら何番までOK、何番はちょっと待てとかいう指令が、直通電話でくるわけです。それを揃えて各時 が編集する同盟通信ニュースをナンバーを打ってオートバイで届けるわけです。そうすると何番か ちはだかったのが逓信省。雷波はおれのほうだというんです。そこで東京逓信局の中に放送部とい 放送は始めから事前検閲だった。あれは内務省が放送の検閲を取りたかったんですよ。 われわれ一〇人ぐらい それに立

宝田 ただ、宮内省のニュースはやかましくて、たとえば戦争中各宮様方が赤十字へ繃帯巻きの作業 スタッフを揃えてといわれたけれども、いまからみればあんまり揃っていなかったですな

にご出勤になるわけだ。そのニュースを送ったところ、

いまこっちで調べておるから、これは待て」 「ちょっと待て、いま宮内省へ聞き合わせたところが、放送局のには成子内親王殿下が落ちておる。

という。しばらくして

というようなこともあったんです。一々向こうで宮内省へ聞くんですよ 「成子内親王殿下もおいでになっている、だからこれを加えて次の時間に放送しろ」

だから、たとえば総理大臣が参内して、何時何分に辞去しましたなんていうニュースは、何

180

時何分であったかどうかなんて向こうで調べる。

象がでてきた。これは検閲のおかげですね 高橋 **そういう手続きを取ったために、放送局のニュースは正確である。間違いがないという印**

千葉 私も一つはそれが大変大きいと思うんですよ。

てくるわけですよ。愛宕山の時分に松田義郎アナがニュースをやっていたら地震があった。「ただいてくるわけですよ。愛宕山の時分に松田義郎アナがニュースをやっていたら地震があった。「ただい 閲を受けた原稿以外のことをしゃべったというんですよ (笑)。 ま地震ですからちょっとお待ち願います」、と言ったところそれが問題になっちゃった。要するに検 いるわけですよ。時間がくるのになかなか来ない。そして読み始めますと、途中からピョッと入っ 私などニュースを読む立場でいうと、OKが来ないものだからアナウンサーはイライラして

置をとってくれ」。それを持って使いにきたのは夏目漱石の長男の夏目伸六さんですよ。そして海南 秋』を廃刊するんだ。従来どおりの文芸雑誌でない『文藝春秋』はそのまま続けるんだ。 時の会長の下村海南に抗議文をよこしたわけです。「『文藝春秋』は廃刊しない。文芸雑誌『文藝春 はそれを読んで伸六さんをこっちへ通してきた。それで私も 高橋 私は、『文藝春秋』が廃刊するというニュースを出したことがある。そうしたら菊池寛が当 取消しの措

間違ったことは訂正しましょう」

というので、次の放送で訂正したんですよ。

そうしたら情報局から電話がかかってきたんだ。

『『文藝春秋』の廃刊を、廃刊ではないんだ、文芸雑誌としての廃刊であって従来の『文藝春秋』と

いうものは続刊だという訂正放送をしたか」

しました_

「いかなる根拠でしたか」

間違いだったから間違いを訂正したんだ」

「そういう権限はお前らにあると思うか」(笑)

「いや、間違いは訂正しなければならんと思うから訂正した」

「電波法の何条とかを読んでみろ」

それでもがんばっちゃって、結局電話で叱られただけで、何のお咎もなかった。 じて訂正せしむ旨あるべしというのであって、てめえで勝手に訂正してはいけないというんです(笑)。 というんですよ。そうしたら、放送に誤りがあったときは所属 ――要するに逓信局長が放送局長に命

かに比べれば、問題はわりあい少なかったともいえましょうね。 ニュースの検閲というのは手続きが面倒くさかっただけで、落語とか芝居の台本検閲なん

島浦

は指揮室といいましたね。アッと思って切るんだから、かんじんのコトバでなく次のコトバを切る 査閲係というのがいて放送の中に具合の悪い言葉が出て来るとそこで放送を切るわけです。 後に

んですが、とにかく切ったといえばそれで通ったんですからひどいものだったな。

と間違いが起こるということになるんだ。たとえば松内則三アナがニュースを読んでいる途中へ **宝田** それに逓信局から直通電話でもってジャンジャンいうのが、また電話なんだからそこでちょっ

「セイトウのニュースはいかん」

それが「青島」なんだ(笑)。 と言ってきたんですよ。それで松内君はそれじゃというんで「政党」ニュースをどけて放送したら、

鈴木 いま政党の放送はというお話が出たんですが、新聞だったらいい。放送だからだめという

ような区分けは内容的に言ってはっきりあったわけですか。 **宝田** それは各官庁の意思なんですよ。これは自分のところには具合が悪いから止めてもらえと

か、これは大いに宣伝してもらいたいとか……。

するというのが放送の役目であるかのごとく、当局も、放送協会もそんな考えに馴らされて来ていた う。ところが放送の場合にはアナウンスすべき材料を向こうからもらってきて、そして受身で放送 と思うんです。アッペタイザーだというのはそこから出るんですよ。 たけれども、とにかく記事を書くイニシアティブというか、取材も書くのも自前でやっているでしょ **千葉** 戦前の放送と新聞との違いというものを大づかみに考えますと、新聞も検閲がございまし

があったってそれは出さなかったですね。たとえば阿部定の事件というのがあったでしょう。 のです。ですから、たとえば家庭で聞くのに具合が悪いようなニュースというものは、どういう材料 宝田 放送局でももちろん自分の放送に適しないというものは削り、放送に適するよう書いたも

島浦 昭和一一年(三六)ですね。

れて、見出しは二段以下で紙面の下半分ということで言ってきて、それから後載せなくなっちゃった。 新聞はあのとき第一報は社会面のトップですよ。一回載せたら情報局からピシャッとやら になったんでしよう。

高橋 一応の編集権というものがそろそろできたのは戦後ですよ。

턺

コリーダ」として映画化した。 二〇日)後に号外が出されるなど、当時の庶民の興味を強く惹いた事件。一九七六年に大島渚が「愛の の男性を扼殺し、局部を切り取った事件。事件の猟奇性ゆえに、事件発覚後及び阿部定逮捕 仲居であった阿部定が一九三六年 (昭和一) 五月一八日に東京市荒川区尾久の待合で、性交中に愛人 (同年五月

ニュースと「耳の言葉」

放送と標準の話し言葉の問題というようなことがでてきていますね 方が違うということが、その頃の『新聞及び新聞人』の中にも書いてあるというんですが、やっぱり 島浦 その次の問題としては、やっぱり同じ言葉でも目で見るのと、耳で聞くのとでは、受けとり

けれども、その書き直すときにやっぱり標準語であるとか、正しい言葉であるとかいうことは、問題 そういう意味からいいまして、昔の編集ニュースにしても単なる書き直しというとみんな怒った。

じゃないか。日本には「首相」なんていう言葉はどんなものを調べたってない。 字入るとか、非常な制約がある。ところが放送はそういう制約がないから、なるたけ、正確にいこう **宝田** ええ。いまでもはっきり残っているのは「内閣総理大臣」です。新聞はたとえば見出しは何

と続いていましたよ。 ありませんね。フル表現で行こうじゃないかという風潮は、私どもが引き受けてからもずっ

いまでも内閣総理大臣と言っていますね。あれはいいことだと僕は思っていますよ。

やさしい言葉にしようというあれはニュースから始まっていますよ。 定例閣議を定例閣議ということにしたでしょう。白衣の天使を白衣の天使とか、。要するにじょうれい

いますから、話し言葉の研究は、早くからやられていたようですね 千葉 春日由三さんの『体験的放送論』」を読むと、「放送用語委員会」が昭和九年(三四)に出来て

手葉 島浦 その会を作った設立の趣意書みたいなのがございますけれども、いまでも通用する。 **「聴取者の共通理解を基準として美しい語感にとむ『耳の言葉』を建設する」云々とあるの**

ラジオニュースと新聞

は卓見ですな。

じっくり明日の新聞でもっと詳しい、多少解説めいた一つの完全な記事にするという傾向がなかっ たんですか。 スのおかげだと思うんです。そこでラジオのニュースは、まず第一報を聞くものだ。そして今度は 島浦 そんなことから標準語は放送でということになった。これはやっぱり長年の放送のニュー

千葉 それはだいぶたってからですね。初期の時分にはそれほどじゃなかったな。 いまでも、ニュースの第一頒布者は新聞だという誇りというか、伝統というか、いまだにあ

るんですよ。もうそうじゃないですけれどもね

いまどきそんなことを云ったって早さじゃかなわないからね (笑)。

発表 (四月一八日) のときなんか、ラジオ、テレビは明日で、新聞は発表と同時に号外を出すというこ **高橋** ようよう新聞はそうはっきりいう人はいなくなったんだけれどもね。皇太子殿下のご成婚 185

とを新聞側が主張してきかなかったんですからね。

叙勲なんかの場合には夜発表して朝刊、放送局も夜九時なら九時にもらってくるけれども、やっぱり 手葉 ああいうニュースを押さえるというのはちょっとどうかと思うんですけれども、たとえば

朝にしますね。これはいわゆる報道関係者の紳士協定でいいと思いますけれどもね。

高橋 それで小泉信三博士が中へ入ってようようのことで、新聞が号外を刷る間というので、一一

時発表なら一二時からラジオ、テレビでやる、新聞はすぐ号外を出す。一時間の差で妥協がついた。

私は発表しないんだからしょうがないと思って待っていました。しかし織田幹雄さんはもめている 中へ入って行って聞いていまして、どうやら決着がついたと言ってパッと電報を打った。帰ってきて レースでタイムの遅いほうが先にゴールに着いたという変なことになってもめたことがありました。 島浦 終戦後、古橋たちがアメリカで泳ぎましたね。あれを向こうから放送したんですが、何かの

と言って彼がいばるんですよ(笑)。新聞社のほうが早かった。久しぶりで勝ったという。

おれの電報のほうが早く着いた」

「そんなことを言ったってそれから印刷しなければならないじゃないか。出たのはどっちが早い」

「そりや、お前のほうが早い。」(笑)

オリンピックのベルリン大会でも、 あれはラジオをきいて号外を作ったんだからね。

そりや、かないっこないんだ。

ことの起こりから説き起こしたりすると、一体将来新聞というものと、それからラジオ、テレビの 島浦 ところがラジオ、テレビがまた解説をやりだしたわけですよ。そうすると、それがやっぱり

186 ニュースは、

どうですか。

干葉

送にはないんですよ。新聞は二ページにわたってやるでしょう。あれは全部見たいですよね

将来、ファクシミリ時代になるとまたこれは問題ですね

大変長い間ありがとうございました。この後NHKは戦後に、自主取材をはじめるわけで

島浦 でも選挙が終わり、速報も全部終わっちゃって、代議士の一覧表が出るでしょう。あれが放

ときには新聞社もまだまだと思っていた。テレビ時代になったら、もうとうていかなわないという

速報もテレビ時代になってから、さらに躍進したんじゃありませんか。ラジオだけだった

印象ですね

千葉

台風だと思うんですよ。うまいというのはリレーでやるところなんだよ。九州から、広島から、

しい。ただしやった場合には「詳報は明日の地方新聞をごらんください」ということを必ず入れよと

アメリカで新聞とネットワークが協定したときに、臨時ニュースは特別の場合やってよろ 少なくとも臨時ニュースが出来てから、新聞の号外ということは非常に少なくなったね。

いうんですよ。ですからどこも放送を競争相手として見ているんですね。NHKが一番うまいのは

ちがいつまでも残りますよ。ただ、新聞の場合は資料だなんていわれるのはいやなんですよ

同じような傾向をたどっていくんじゃないかと思うんですがね。新聞は資料としての値打

もちろん競争しながらでしょうが、何か一つ安定した形ができゃせんかと思うんですが

宝田

からなんてね。選挙の開票もNHKは長年の経験でうまいよ。このごろは電子計算機を使っている

すが、このことは別だてとしてやりたい計画です。

スタジオの放送技術

丸 毛 登 東京理科大学講師/昭和二年NHKに入り、仙台中央局技術部長のときMHマイクを

発明。のち技術研究所第二部長をへて日本ビクター取締役技師長。

久 我 桂 一 日本民間放送連盟参与/仮放送時代からマイクや録音機の研究に没頭。仙台中央局技

術部長をへて、北京広播電台常務理事、技監をつとめる。

井一市 麹町スタジオ専務取締役。/「ミクシングの神様」といわれる調整技術者の草わけ。

П 淳 NHK調整課長、ニッポン放送調整部長を歴任する。 演出家・劇作家。/PCLからNHKに入り、〈笛吹童子〉 〈紅孔雀〉 などの連続ドラ

マや芸術祭賞をうけた〈銅山〉など多くの名作を手がける。

Щ

藤

あの「ハスの実」はノイズが響いて、いい放送ができない。もう少し雑音の少ないやつはな マイクロフォンというと、一番初めは、「ハチの巣」又の名「ハスの実」しかなかったですか。

いか。電話のデルビルはどうかと、一時使ったことがあるしです。

に入っているカーボン粒が一ミリぐらいの大きなやつなんですよ。ソリッド・バックは細かいんです。 丸毛 芝浦の仮放送ではソリッド・バックを使ったよ。デルビルはその前で、電話だけなんだ。 ウェスタンにしろ、マルコーニにしろテレフンケンにしろ、放送機を輸入するとそこへマイ

クロフォンがくっついてくるんでしょう。

入ったり、金沢にはテレフンケンが入った。そして、みんな送信機を買ったところからきた、マイク いてくるわけなんです。たとえば名古屋の放送局にマルコーニが入ったり、東京にはウェスタンが 要するにオーディオ設備、副調設備まで全部付いてくる。だからマイクロフォンもくっつ

ロフォンが二、三個ずつそこにある。 なるほど、そういうことで局によってマイクのタイプが一定していなかったんですね

大事にしたのは、やはりダブル・ボタンですよ。ちょっとさわっても、ちょっと湿気があっ 私なんぞには、さわらせてくれないんだもの。羽二重か何かの上に置いちゃってね (笑)。

てもノイズが出るし、感度は悪くなる。大事にさえしておけばいい音を出してくれる。

丸毛 その次に出てきたライツ・マイクは非常に安定していて、ノイズが出ることはないんだけれ

ども、前の習慣で、大事にするということになったんで。

山口 ライツ・マイクは重かったですね。

は 「粒」ですよ。ダブル・ボタンは「粉」じゃないですか。

あれが軽くてコロコロしていたら中の粒子が動く。動けばノイズが出るソリッド・バック

と、そういう粉を使うというのが、ドイツの大学教授ライツの考案によるんです。そいつをテレフン うふうに、ずっと細かくなっている。やはり音質のいいことを要求したと思います。ああいう構造 らポイント二~三ミリのやつがソリッド・バック。ライツとなるとこれが一○○ミクロン以下とい ロン以下の非常に細かい粉なんで音響的特性はいいですな。デルビルというやつは一ミリ、それか 粉です。みんなカーボンの微細な粒子なんですよ。ライツ・マイクロフォンは一○○ミク

を東京とか、名古屋で使っていたんですね。

ケンがまねすれば、テレフンケン・ライツ。マルコーニがまねをすればマルコーニ・ライツで、それ

氷砂糖を焼いて……

産でなければ間に合わなくなったからでしょうね。 **丸毛さんがMHマイクを作ろうとお考えになったのは、マイクがたくさん必要になって、国**

明の音が入る。ダブル・ボタンのやつを大事に使っておったところが、二年ぐらい同じやつをしじゅ **ういじめたものだから、ノイズが出てくる。それで仙台は雑音放送局といわれたぐらいです (笑)。** きりしか使えない。三個あったんですが、テレフンケンのやつはどうも放送機にガリガリと原因不 東京はソリッドが五個あったんです。で、Mの私とHの星佶兵衛君(故人・元NHK施設局次長)の二人 **丸毛** ええ、そうです。私が技術部長でいた当時の仙台放送局ではマイクロフォンはずっと二個

秀次さんなどがいまして、音響関係を研究していて、みんな、カーボンは氷砂糖から作るといいとか うことなんです。ところが幸いに無線通信機器を長い間作っていた名技師の本郷熊吉君が仙台局に 何とかいう情報が入ってくる。そういうようなことに力を得て、結局焼き切ったらいいだろうとい ニー・ライツの構造から何から、みんな報告してくるし、東北大学では千葉茂太郎、抜山平一、八木 くらでもあるから作ってやれということで、さっきのお話のソリッド・バックのカーボン粒を買いま でそれを一個借りたいというわけなんだが、なかなか借してくれない。やむを得ずカーボンならい いですね。困っていたところに情報が集まってきた。たとえば久我さんのところで研究したマルコ して、焼いたり、アルコールで処理したり、いろいろなことをやったんですが、ノイズはなくならな

氷砂糖を焼いて

それで本郷さんは工作室に一間四方 (メハニルト) もあるりっぱなふいごの炉をつくったんです。 いた。それから鋼の本多光太郎さんが東北大学におられた。そこへ行って焼くルツボを借りてきた。

氷砂糖を焼くために?

やったらちょっとカーボンが残っている。そいつでやったところ雑音がないんです。それはみごと 借りてきたルツボに入れて焼いたら、燃えなくなっちゃうんだ。それからいろいろ考えて密閉して でしたよ。調整室で聞きまして、このほうがベターだ。そのまま放送させるから、ナマでもってテス ええ。一、四○○度ぐらいになる。やっているうちにいろいろな情報が集まってきました。

あれは特許のときにモメたでしょう。

トが出来る。どうせ雑音放送局だし、それよりいいんだから問題はない。

だけれども、「一○○ミクロン以下のカーボンを焼いた」という文献がどこにもないんだよ カーから、異議の申し立てがきた。もうわれわれのところでやっているというんです。ごもっとも また、その研究をはじめる前に、各会社に一応頼んだんですよ。これはやはり商売上は気をつけ 丸毛 そう。「一○○ミクロン以下のカーボン粒を焼いたもの」というので出したところが、各メー

るべきことなんだね。「当社では、そのように細かいカーボン粒は作っておりません」という手紙だ。

それで特許競争に勝ってたんです。

当時の高田善彦技師長が過大評価して、八○○円のものが一一円で出来るといわれた。当

そうすると、いくらくらいで出来るようになったのですか。

191 時技術研究所なんか止めようという声が、部内にもあったんですが、それを大いにやらなければいか

Hマイクと名前をつけた。

島浦 ぼくらはそれをマルモニー・マイクと言っていたんだ (笑)。

んという宣伝に使われたんです。その時に、ぼくと星佶兵衛君のイニシァルをとって高田さんがM

状態までいくとノイズの少ないものが出来るんですが、そこまでいくのにずいぶん骨を折りました。 買いこんで自分の家でガスでやったんだけれども、なかなか一、○○○度以上に上がらない。 すが、マルコーニ・マイクと比べてむしろ性能がいい。われわれも、仙台で出来るのなら愛宕山でも
動たごやま できないはずはない。やってみようという話になり、ソリッド・バックのカーボンや小さいルツボも 私は当時、愛宕山にいて丸毛さんのほうででき上がったマイクの試験をする係になったんで あれは氷砂糖でしょう。どのくらい焼いて一つ分出来るんですか。

になっていたかもしれない。 の場合水素の含み具合なんていうのは違いますから、密閉してしまってすっかり出してしまえば……。 よ。氷秒糖は水と水素と炭素の化合物でしょう。だから、水をとばしてしまえばカーボンが残る。 島浦 ずい分使いましたが、やりかたがわかってからは一キロもあったらいくらでも出来るんです その時にNHKをやめてマルモニ会社をつくっていれば、いまごろは東芝ぐらいの大会社

使い手がいないよ。そのころはNHKしか買わないからな(笑)。

さかさまにして振る

星君が東京へきてNHK技術研究所で作り出したけれども手がまわらなくなったので、 それで日本中の放送局がMHになったんでしょう。それは一体どこで作ったんですか。 日

も作りました。

から……。 本通信工業でやって、一個が四五円ぐらいで五~六○○個作ったよ。これを内地、 台湾、 朝鮮、

くなっちゃった、現在は北海道から探し出したのが放送博物館に一つしかないはずです。 久 我 私どもが放送しますと、つばをいっぱい引っ掛けるでしょう。湿ると悪いですね。時々逆 戦争中には南方でもどこでもMHマイクになりましたよ。だから、こっちの本元に何もな

さまにして叩くんだ。

ジオドラマの稽古をやっていまして、俳優さんがのってくるでしょう。途中であれをはずして、はい、 を合わせて拝む(笑)。 すっ飛んでいってエイッと持って振る(笑)。今でも忘られない重たさですよ。振って、後マイクに手 五分休み、一○分休みなんていうと、息が繋がらない。それでしようがなくて、とっさの場合に僕は 山口 ヘッドも重たいんだけれども、安定させるためにそのスタンドもばか重たいんだ。よくラ

でであっている。

欲しい、しかし両面の代わりには、星君は四面ライツ・マイクロフォンというのを作っていまず。 ならない。じゃ、ほかの形式のマイクロフォンが欲しいということになる。もちろん両面 談会用に四方に無指向性というマイクロフォンも作りましたし、それから裏表になるマイクロホン 何々の時間です」という。そのカーボン・ノイズは極限まで少なくしてあって、もうこれ以上はなく る前にスイッチを入れるとサーッという音がしたでしょう。それから「皆さんおはようございまず。 藤井 いかにMH型がいいといっても、カーボン・ノイズというのがあるんですよ。放送が始ま のやつも

と思いましたがね

結局、

マイクロフォン・ノイズをなんとかして無くしたいということでしたね

んマイクロホンの研究家は作ってくれた。コンデンサー、ムービング・コイル、ダイナミック・マイ クだとか……久我さんの部下の人も大きくて、どっしりと重い、いわゆるダイナミック・マイクロ フォンを作ったけれど、重くってだれも使ってくれない (笑)。私も、せっかく作ってくれたんだから 藤井 マイクロフォンは使いやすいということがまず第一です。だから、ライツの時代にずいぶ

風雨にさらされた録音盤

響もやったし、陸海軍の軍楽隊もやったんですが、どうしたって感度が強すぎる。いろいろ試してみ ましたが、メリンス (織った毛織物) の風呂敷が一番いい (笑)。それを二つに折って頬被りさせ減感するましたが、メリンス (薄く柔らかく) の風呂敷が一番いい (笑)。それを二つに折って頬被りさせ減感する きなり和田精プロデューサーはライツ・マイクを裏返してしまったんです。それで放送ができた(笑)。 ところが、たいした編成じゃないのにボリュームが押さえ切れない。考え込んじゃったんですか、 ンドをやったんです。ライツ・マイク一つきりでまともに向けて、出来るだけ離してやったんですよ。 藤井 出 愛宕山の第一スタジオというのも、二五坪 (ក្រោ: 五平) ぐらいしかないでしょう。あれでN゚゚ ライツ・マイクでおもしろい経験をしましたのは、大阪中央放送局の第二放送室でブラスバ

なんかが、大変いい調子に出る。 ツと比べて、キャラクターが柔らかい。しかも上も下も適当に出るし、シャンシャンいってた三味線 昭和一三年(三八)か、四年(三九)に掛っていたか、ベロシティが入ってきた。これはライ

指揮者はストリング (器*) の近くで聞いているでしょう。耳がすこしディストーション (テヒース) して、 複数マイクでアレンジして、ある程度恰好の付いたところで、そのコンダクターを叮嚀に二階のモニ らから客観的に聞いた場合と違うような音感を持っているのかなと話したんです。 らって聞かせたら、「ベリー・グッド」だという。和田精さんと後で舌を出して指揮者の耳は、こち 四台ぐらいあったと思いますが、ライツを持ってきてわりとせめて、近くでストリングのパートをね アンバランスじゃないか。それではといってAベロシティ・マイクを引っ込めて、ライツを出した。 という。それで和田さんと考えちゃって、まてよ、ぼくらが客席から聞くのと違って、しょっちゅう ター・ルームへ入れて聞かせたら、これは音が違うという。バイオリンが聞こえない、トーンが違う コンサートのスタイルで稽古が始まった。ちょうどその頃ベロシティが入り、ワンポイントでなく 島浦 Aベロ (゙ママイク ゙ -) をひっ込めて自分の舌を出したんだな(笑)。 邦楽でもそうでしょう、 やっ 有名な外国人のコンダクターが、現在のN響をひきいてBK(k)のスタジオへやってきた。大

ている人と聞く人とは違う音を聞いていると思うんだ。

楽会というのはない。あれは指揮者だけでしょう。三味線だって、二尺(センチ)か、三尺(センチ)の ところで聞くというのは、まず弾く人以外にないでしょう。聞く人は、どのくらいで聞くかというこ

藤井 それは違いますね。オーケストラのところから一メートルや二メートルのところで聞く音

とはちゃんとあてにしている。

195

ているでしょうし、骨伝導があるから中からも聞こえている。それが、外ではどう聞こえているのか 島浦 僕は自分でしゃべっていて、やはりそういう感じがあるんだ。自分の声は外からも聞こえ

ということは、録音機が出てくるまでは、わからなかったわけですよ。

だんです。聞いてみたところ、自分の声はもっといいつもりでいたんだが、汚ないんだよ。だめだと まテレフンケンの会社を見学に行きましたところ、小さな工場ですが、録音の部屋に行って吹き込ん 僕は昭和九年(灬四)に欧米を一年くらいまわってきました。その時ベルリンで、たまた

いうわけで録音盤はもらって報告に出しておいた。それが久我さんのほうにまわって、試験をして

んたちが行った時も、やっぱりあれを見て、盤を何枚か持ってきたはずですが、一番初めは丸毛さん みたところ、非常に僕の声に似ているという。つまり他人には忠実な声ということなんだな (笑)。 島浦 テレフンケンのベラベラのやつは、、一一年 (三六) のベルリン・オリンピックに河西三省さ

| 愛宕山にテレフンケンの録音機が入ったのは一○年 (三五) ですね。

でしたか。

それまでは銅盤みたいなものがあって、その次にはアルミ盤みたいなものにキシキシや

.

芯がやわらかいアルミニュームですから、むりむり押し込んで録音した。それを再生しますと雑音 使っていて、 音するのはその表面だけ削り取るというような方法でしたから、芯には到着しないので雑音は出ない。 これはやっぱり芯は金属です。当時のは亜鉛でしたけれども、その表面に相当厚く塗ってある。 が多くて、これまた、放送にはてんで使えない。そこヘテレフンケンの録音盤が入ってきたんです、 初めのやつはディクターフォンという茶筒みたいなもので、それは査閲用とか、記録用に 放送には使えなかった。それからアルマイト盤に録音するやつも、これも表面が固 て、

少なかったんです。何とかしてつくらなければいけない。現業のほうでは毎日毎日使って残り少な んですから、大体ドイツのと同じものができれば目的達成だ。しかし、研究所では、もっとそれより われの試験課でやっておりますのは、ともかく現業の手持ちの品がなくなる前に作り上げれば くなったんで、あわてて作りました。その時に丸毛さんは技研のほうに来ていらっしゃった。われ 非常にノイズは少ないし、放送にも都合がいいというものだったんですが、最初入ってきたのは数が

いいものを作って欲しいというようなことをお話ししたことがありました。

うようなことがあるかどうかというようなことが懸念されたので、愛宕山の建物の外側に釘を打っ らされるという乱暴な試験をしました。 て、録音盤をぶら下げておいたことがあるんですよ(笑)。 風にも当たるし、 それから、われわれの心配したのは、冬は固くなってだめだとか、夏は柔らかすぎてだめだとかい 雨にも当たる、 日にも照

「録音ニュース」というのができたのは、大体テレフンケンのそれが入ってからですね

首かけたスタジオ改造阻止

を付ければいい。台詞ははっきりわからなければいけない。だから、番組を与えられれば必然的に 音がしない。しかし、ドラマならばそんな残響があっては困るので、必要な時には効果的 人もいるのだから、一・五秒ぐらい残響がなければいけない。そういうところで演奏しなければ スタジオが決まってしまうわけです。三味線ならばここ、邦楽でも鳴物がなければここでもよし、鳴 藤井 エコールーム、エコーマシンというものがてきて、昔はたとえばN響ならば八○人も、九○ に別に残響

物があるのならば第四スタジオでなければいけないと決まってしまう。

このごろは、エコー・ルームとエコー・マシンが非常に発達してきましたね

れども、これは技術者が勝手に付けちゃうんだから、自分の演奏の本質とは違ってくる。自分の楽器 うふうに、勝手に出来る。少し邪道ですよね。デッド(残響ゼロのこと)なところでしゃべるのは辛いで す。ないところでやれば、バイオリンにだけ付けたいとか、トランペットにだけ付けたいとかとい に最もいい残響のところで演奏するのが、一番楽しくていい演奏が出来る。 しょう。楽士さんたちだってデッドなところで演奏するのは、後から残響を付けてくれるだろうけ 藤井 ええ。むしろ残響のないところでやったほうが、機械的に残響を付けるのには楽なわけで

島浦 エコー・ルームや、エコー・マシンは別とすれば、スタジオ自体は愛宕山に帰っちゃったの

かな。

のものが締まっていて、明瞭度がピシッーとしていて、いうところがなかったと思うんですよ の音をとるのに、音楽放送をするのには、あんなにいいスタジオはなかった。 相当音感のいいコンダクターでも、大変惜しがっているんです。残響があって、しかも音そ そう、そういう傾向にある。NHKが、 内幸町 の第一スタジオを壊したでしょう。ラジオ

ら横へ廊下がある、 スタジオの横っ腹に副調がついているのが出来はじめた。クーパーが、第一スタジオのステージか い傾向として、 こんなに安く出来るんだからやれという。僕は、絶対にやらせない。だめだ、音が悪くなっちゃう。 終戦後CIEのクーパーなんていうのが放送の監督にきていたでしょう。 指揮者も、俳優さんも、楽士にもよく見えるようなところでキューを与える関係上、 そこへ副調を付けろという。連中は設計担当に図面を引かせ、見積りまでさせて、 あの時分に新し

おれは現業で第一スタジオは何十年と自分の子供のようにして使っているんだ。

とうとうしまいには、首にしちゃうぞという。もし改造しないでおいてくれるなら、首にされても

にじっくり考えろということになった。一週間たってもこっちは考えも何もしない。やらせないん しかたがない。ということで強情を張ったら、とうとうしまいには一週間の余裕をやるからその間

よ。行ったらヘームスがいきなり肩をたたいて、 それで部長とクルーズ・ラジオ課長のところへ行った。クーパーもヘームスもみんな待っていた

重して、ぼくらの案を撤回しよう」 「とにかくCIEではミスター・藤井の命をかけての阻止策に負けた、二○年のあなたの経験を尊

している最中の所へおれが涙を流しに見に行かれるかと断わったんです。 と言って、ウィスキーを出して乾杯して、それで終わり(笑)。この間見にきませんかというから、壊

れたんだがらね 久 我 日本の放送番組のエポックを画するような作品のほとんどは、みんなあのスタジオで作ら

という師匠が随分いたんですよ。だから、これは僕は一つの調整技術屋と、 島浦 あそこで邦楽などをズラッと並んでやっていたころ、藤井さんが副 山口さんみたいなプロ 調 にいないとやらない

デューサーとの接点が、スタジオ技術の重要な一つにあったと思う。

山口 ええ、そうですね。そういう番組と技術の接点として、 いわゆるミキサーの人たちがいた。

199 表面には出てこないけれども、大変重要な仕事だった。

とこっちへ顔が向くという、有無相通ずるものがある。そこまでいっちゃうと、できた音楽は三宅= 年つき合いました。それに三宅善三君 (元NHK音楽課長、 故人) がいました。 三宅・藤井・ローゼンス と思う時には、私もそう思っているんだ。ぼくがダイヤルに手をかけようと思う時に、三宅もちょっ トックの三人が、いつでも一緒で、三宅が、たとえばこのところはもうちょっとチェロを上げたいな ドラマでもそうだし、音楽でもそうです。ぼくはローゼンストック(N響名誉指揮者)と約一○

藤井の音楽になってくる。 藤井さんのは、紀元二千六百年(≧○)の放送が語り草ですね。

揮者ともすっかり気が合っちゃって、大体スコアーなんか暗記しちゃう。ハンガリー、フランス、イ ういうふうなものを聞き比べてみて、いまのオーケストラ録音と絶対負けない。 によかったんです。いまでも私は盤を持っています。音のバランスだとか、ダイナミズムだとか、そ に切符をもらって見に行き、あんまり音がひどかったのでゲンナリしちやったんだけど、放送は絶対 ら、情報局が歌舞伎座で演奏会をやり、放送はNHKの第一スタジオでやった。歌舞伎座に無理やり 大がかりなもので、オーケストラも一二○人の大編成なんです。あれは大日本帝国に贈ったんだか タリア、ドイツの四か国で、一番肝心なのはドイツのリヒアルト・シュトラウスの梵鐘を一二も使う 館に稽古場を作って、各管弦楽団が集まってお稽古だ。ぼくが行くとちゃんと三宅君がきている。指 一二か月で詩劇をやったんです。その間に各国からお祝いのオーケストラ曲を贈ってきた。 藤井 あの時はドラマでは一年を通じて、毎月一回ずつ中村吉蔵だとか偉い人に作ってもらって、 霞山会

オーケストラをやる時は必ず天井に反射板を付けるでしょう。歌舞伎座でも作りました。僕は休憩

それで放送を同時に中継線で送って、コロムビアでカットした。そのままカットしてくれ、もしいけ これじゃだめだ。うちのスタジオにくれば、おれは立派なものを作ってみせるという自信があった。 時間中に音があんまりひどいから裏へ回って調べてみたら、ハトロン紙を二枚重ねた紙なんだよ(笑)。

梵鐘を並べて一二○人がやった。

なかったら一切の責任はおれが負う。それで放送したんですよ。

森宗太郎 (元N響打楽器奏者) が、一二音階作ったわけです。そうして一人が三つづつ受持って太い撞木 でゴーン、ゴーンとフィナーレところでやるんです。それなんかだって、少しも歪むことなくちゃん そうです。違うお寺から持ってきたんだから音が違うでしょう。それで中へ砂を入れて小

も隅では聞こえにくいとか、そういうところが出てくることはないですか。 と違うでしょう。上野の東京文化会館は、NHKが音響設計してなかなか評判はいいんだが、それで 島浦 わからないのは、スタジオを建てるときでしよう。いろいろ計算しても出来上がってみる

と入っていますよ

射がお客さんのところへ行く手前で下りちゃう。壁にぶつかったやつが後ろへ来ちゃう。テックス が、コンクリートの壁との間に、いくらあるかによっても違う。 藤井 計算する人と材料提供者は違うでしょう。中には材木を使うし、壁にも何かを塗る。それ 角度がちょっと違えば舞台からの反

の乾き具合、いろいろなことで違ってくる。

それと、客が入ったらまた違うでしょう。 冬服と夏服とでも違うでしょう。

それは違います。けれど計算はしてある。文化会館やNHKホールなんかでは椅子を立て

スタジオの放送技術 をよくマスター出来る人間ならば、プロデューサーがやろうとだれがやろうといいという考えもあっ ておけば、 久我 藤井さんの勉強ぶりは知らない人はなかったからな。いわゆるミキシングについては機械 その椅子が一人の人間の一年中の吸音率に当たるわけです。

もそれは六畳とか、八畳とかのたかがしれている距離で聞いている。音は非常にアラを見つけやす ければ、もとは出せない。日本の聴取者というものは、当時は八○%が日本座敷で聞いている。 それから聴取者のところに行ってから、どういうふうに音が曲げて聞かれるか。それを知っていな たんですよ つけていただかなければいけない。商品だから買い手のところまで見届けなければならない。そい 藤井 出る音もアラを出しやすい。そういうところで聞いているんだから、こいつは出すほうで気を スタジオの音が電波にのって聴取者のところへ行くまでにどういうふうに音が変質するか、 しか

つをよく知っていなければ調整なんて仕事はできませんよ。

実況中継よもやま

熊 Ш 巌 元 『電波科学』 編集長/初期の中継放送技術を開拓、 のち中国にわたり放送局の建設、

運

営にあたる。NHK現業部長、養成所長を歴任。

堀場平八郎 元NHK厚生文化事業団事務局長/中継番組担当者の草わけとして、独自のプランで

放送の幅を拡げた。NHK松本放送局長をつとめた。

継部長としてローマ五輪、 日本電気・放送機事業部長代理/昭和八年 (三三) 以来、中継技術一筋に打ち込み、中 技術本部次長として東京五輪を手がける。 のち技術現業局次

河

辺春逸

£

長 沢泰治 NHK専務理事/プロデューサーとして実況中継や録音放送を担当。〈街頭録音〉 社

会探訪〉など多くの名番組を生む。のち社会部長、芸能局長などを歴任。

やっています。東京は一一年 (三六) で、やっぱり防空演習ですよ。これらは普通のマイクロフォン す。日本最初の屋外中継は、大正一四年 (二五) 一〇月の末、名古屋局が第三師団練兵場から閲兵式 きましょうか。大阪でも、東京でも気球を上げたことがあるんです。防空演習か何かで気球を上げ を中継しているもののようです。まあ、いろいろ形はあるとして、空と海と陸とに分けて、空からい て、アナウンサーを乗っけて、そこから放送をしたことがあるんですよ。大阪は、昭和三年 (二八) に 島浦 中継の方式の進歩というものと、それと番組のからみ合いを話していただきたいと思

らしているんですよ。

を持って行って、気球からコードをたらしているわけでしょう、

河辺 私はその場に居合わせたわけではありませんが、普通のマイクを付けて、コードを縛ってた

になって作りまして、飛行機に取り付けた。マイクは、普通のライツ・マイクだったと思います。 だと思うんですよ。この頃の中継の機械は全部手製なんです。久我桂一さん(現。 民放連参与) たちが主 熊川 確実に高いのは昭和八年(| | | | | | | |)八月七日の飛行機実弾射撃実況で、これは、 私が乗った時

して、結局は喉へくっつけることになった。 島浦 昭和九年 (三四) に大阪で飛行機に乗った時は、マイクをどこへくっつけるかでだいぶ苦労

河辺 ラペル・マイクロフォンと言ってね。

すにはどうしようかと、おでこにくっつけてみたり、ほっぺたにくっつけたりしてやったらしい。こ 名古屋で海に潜ったやつもそうなんだよ。大阪でやった時も、飛行機のプロペラの音を消

れは当然無線中継ですね。 昭和三年 (二八) に甲子園の中等学校野球大会を、東京へ超短波無線中継でやっている。そ

河辺

機械をのっけてやっているんだろうと思いますけれどね。 れから七年 (三二) 八月に、塩釜でボート中継をやっていますが、これはおそらく船にAMの小さい

画期的な「放送自動車」

島浦 放送自動車ですね。 中継番組の可能性を非常に広げたのは、これも久我桂一さんたちが作ったんだと思うけれ

熊川 九年(三四)ですかな。九年(三四)一一月だ。

関東防空演習の様子を中継したという、これですな。

られちゃった。幸い側面をひっぱがされただけで済んだ。演習中は、NHKの放送自動車というよ にはいろいろな思い出があるんですが、関東防空演習をやる直前に群馬県で貨物自動車に横腹をす 油圧で高く伸ばすようになっていたんです。電源は蓄電池で発電機をまわして電源にした。こいつ 熊川 ええ。シャーシーを代えまして、大型自動車に、いろいろな装置をつみ込んだ。アンテナは

島浦初陣で負傷したわけだ。

うなことを書いた白い幕を張ってごまかした (笑)。

機械を調整しはじめると、ゲェッとなる。しかたがないから、へその上に梅干を貼っていると、感心熊川(谷津の飛行機実弾射撃実況の時は飛行機に乗ったんですが、やっている時はいい、ところが

に酔わないんだな。帰る時は、その梅干を食っているんだからな(笑)。

高いところといえば、浅沼博さん(現・日本放送出版協会副社長)が宮崎県の高鍋へ行って飛行機

島浦 名古屋ではアナウンサーを落下傘で飛び降りさせて、 降りながらやろうというのを計画

から飛び下りるところを実況放送したことがありました。

河辺

たが、訓練に三か月かかるので間に合わないからやめた(笑)。 堀場 久我さんは、 初期の中継には、忘れることができない人ですね。

は中継といったって、飛行機の中継にしろ、自動車にしろ、その後の富士山にしろ機械をみんな自分 熊川 久我さんは、 早稲田 の理工科を出て放送のはじめからやっておられるんです。 その時代に

で作ったものです。昼だけでは間に合いませんから、夜も二時、三時まで、愛宕山の地下作業場でコで作ったものです。昼だけやま ツコツ作って、風呂に入ってから帰るんだ。

実況中継よもやま の短波アンテナを使って、川口の放送所に連絡をつけるという段どりにしていたほどです。 放送自動車は、二・二六事件の時に放送局が占領されたら、愛宕山を下りて、芝の逓信官吏練習所

ら乗用車に中継の機械一式を載せていたようですけどね。 長沢 とにかく、その放送自動車というものを作ろう、というアイディアが非凡ですよ。その前か

線の開通をやっているんです。これも九年 (三四) だから、丹那トンネルとほとんど同じですね している。これは放送自動車が出来ていたからやれたんだと思うんですが、その前に名古屋で、高山 熊川 島浦(そうそう。その直後昭和九年(三四)の暮に、放送自動車を使って丹那トンネル開通を中継 **丹那トンネルには堀場さんも行った。もとのNHK副会長の溝上さんなんかが、熱海で受**

堀場 放送自動車を無蓋貨車へ乗っけちゃって、ほかの汽車の尾っぽのほうへ付けて入って行く

わけですな

信を担当していまして、私どもは送信のほうへ入ったわけです。

たがないから、通信線がトンネルの中に入っているんで、そいつに誘導させて、熱海口の出口の近く に受信所を置いて、また誘導で取ったら非常にうまくいったんですよ。 熊川 初めは無線でやるつもりだったんです。ところが、やってみるとどうも具合が悪

丹那トンネルの時は、アナウンサーは松内則三さんでした。人間は自動車の中に入っている。

河辺 丹那トンネルというのは、初めから電気でしたか。

そうです。

熊川 河辺 そうだろうな。煙がきたんじゃとてもかなわない (笑)。 陸軍の演習の時、松内さんがアナウンサーで私が送信係をやっていて、催涙弾の煙の中へ

入っちゃった。ようやく抜け出したことがあったが、私はともかくアナウンサーは大変だったな。

瀬戸内を海から中継

昭和八年 (ᠬᠬ) 夏の富士山頂からというのは、 無線中継という意味でしょうね

機をしきりにやっているうちに、バインダーが飛んじゃった。困りはてて、こちらの仕様にしたがっ 他 てそれを作った会社に電報を打ったらすぐに職長が山の上まで届けにきた。私どもは二週間ぐらい の中継機材は強力 (って案内に立つ人) といっしょに山頂にかつぎ上げた。ところが、の中継機材は強力 (登山者の荷物を背負) といっしょに山頂にかつぎ上げた。ところが、 熊川 この時にも溝上君が御殿場にいまして受信です。私どもはガソリン発電機を作って、その ガソリン発電

械をいじっているんだから……。 堀場 ひどい顔をしていましたね。 まるで山賊放送局ですよ。ヒゲぼうぼうで、ドテラをきて機

登っていましたよ

島浦 上で座談会をやっていますね。 柳田国男先生が途中でへばられて、 かついでいった。

島浦 私が御殿場までお迎えに行きました。 名古屋で馬に乗ってやった中継がある。 一人が無線中継機を背負って。 頭に乗り、

井純 (現・NHK嘱託)という、当時の名古屋の中継係は馬の選手だから、二人に馬の乗り方を教えて濃 にアナウンサーが、マイクロフォンを鞍にくっつけて移動するんですが、おもしろいと思うんだ。 別の馬

尾平野かどこかトコトコ歩きながら放送した。大して移動できないと思うんだけれども、そのころ の人は何か新しいものをやってみようというのが面白い。

長沢 そういうことが、反面ではまたいろいろな機械の進歩をうながしたんですよ

かけてみたんです。 堀場 放送自動車を船に乗せたことがありますね。練習艦隊の出発を、横須賀港外まで船で追い

それで水へいくんですが、水で一番簡単なものは、ボートレースですよね。 放送自動車は、動く放送局みたいなものだから、いわゆる中継放送にバラエティも出てきた。

れは技術的にみれば大したことはないんです。 でうしろから追いつく場所に受信所を置いて、そこから有線で愛宕山まで持ってきたんですよ。こ 熊川(ボートレースの機械もやっぱり短波ですけれども、かなり早くから出来ていたんですな。

がら行ったわけですが、その時の船が大阪商船の熱河丸で、船客課長がいまのTBS社長の今道潤三 朝日に連載小説を書いていた横山美智子さんを乗せ、座談会をやったり、歌を歌ってもらったりしな も、計画としてはなかなか大計画でしたよ。深尾須磨子さんとか、大阪の画家の鍋井克之さん、当時 すというふうにして、お昼時間から始まって、夜の九時四○分までポツリポツリやったんですけれど うちに、岡山の近くへ行くと岡山の局が受けて全国へ出す。次は高松が出す、広島が出す、松山 を出ると大阪へ送信して、そこから途中、電波が届かなくなると、番組としては小休止になる。その 内海めぐり〉というので、瀬戸内海のまわりの放送局を全部使って、中継したことがある。 規模の大げさだったのは、これはぼく自身が行ったんだけど、昭和一○年(三五) 七月〈瀬戸 船は神戸

瀬戸内を海から中縄

東京としては、大阪なにするものぞ、と思っていたんですが、あれは面白かった。なにしろ

やりたくても東京には瀬戸内海がないのですからね(笑)。 島浦(そこで、今度は海の中へ潜らなければいけないと思うんだけれども、 昭和八年(三六)八月

が一番初めですね。静岡で……。

んですがね

河辺 静岡でした。初島の付近でやっていましたよ。これはたしか学校放送の一部だったはずな

堀場 昭和九年(三四) 七月一〇目〈潜水艇より海底の神秘をさぐる〉というのは、それをもう少し ドラム缶みたいなものを沈めて、アナウンサーがその中に入ってやったんでしょうね

大規模にしたようですね。伊東の沖に小船を浮べて、というの……。

ウンサーが入って、水のもらないようにしてコードを母船までつなぐ。 熊川 本格的に海底に潜る、というので前評判は高かったですな。 あれは静岡水産試験場の伊東分場というのがあって、水中調査用の小型潜水艇の中にアナ 母船から伊東までが無線中

そうするとナマ身で潜る最初が、昭和一六年 (四一) の三河湾からということになるのかな。

水中マイクじゃない。それで鈴木英吉アナ(前・東海テレビ)に潜水服を着せて「死んでも文句をいいま せん」という一札をとって、ほんとうに潜らせた。そのテーマがなさけないというか、そのころを思 これはさっきのラベル・マイクをくっつけていったんじゃないですか。厳密な意味でいう

い出させるんだが〈海底にさぐる食糧増産〉というんだ。あのときはマイクを喉に付けて、コードを

袖口のところに出し、そこから命綱に結び付けて、上にあげたんだそうですよ。

そういうものが欲しいという要望は、戦前からも出していた。 本物の水中マイクというのは、戦後、学生水上で使ってますね。

熊川 マイクそのものは?

しっぽに穴を開けて引っぱり出して、水上にあげているわけです。ちょうどその表のところに膜が 河辺 カバーが鉄の厚い、両手でかかえるくらいの大きさで、その中にマイクを入れてコードは

あるわけです。

多かったでしよう。 術屋さんが、こんなものが出来るよ、何かに使えないかとか、両方あったと思うんですが、どっちが **島浦** そういう水中マイクを作ってもらいたいとか、放送部のほうの中継係から注文が出たり、技

うで、こういうものを作ったらいいなという声も出ましたし、こっちからも、こういう音を取りたい ことでしたね。 だがなあ、ということなども、帰りの車の中でしゃべったり、お茶を飲みながちしゃべったりという 当時は技術屋さんと混然となって一緒に仕事をしていましたから、現場へ行って技術のほ

河辺 そうです。 美濃部(元・東京都知事)さんに限らず、やっぱり対話が必要だ(笑)。 雑談の中からヒントが生まれてくる。それを実現に移す、ということでしたね。

昭和四年 (二九) かな、ツエッペリン (船行) 飛来なんか放送していますね。

しましたよ、霞ケ浦からね。全国中継のほかに、ジャワのバンドン経由で、ドイツ向けに短

波送信をしています。 熊川 実況放送が、世の中をわかしたのは、いまのテレビ時代以上でしょうね

重かった録音

ようということで、東京にあった録音機を借りて来たんだそうですよ。やってみて、後でまとめて、 機を初めて使っているんです。まだ使えないというのを、とにかく大阪で観艦式をやるから使わせ 島浦 昭和一一年(三六) 一○月に大阪で観艦式をやった。僕が鳥海に乗って……。その時に録音

観艦式の実況を夜、録音でやった。

に使いながらかなりつないだ。一二年(三七)の秋ぐらいからじゃないでしょうか。 板式のやつはテレフンケンの板がついてきたんですよ。後の板が続かないと困るというんで、大事 河辺 あれはロンドンでの博覧会でみて、マルコーニとテレフンケン二台を買ったんですよ。

す。それと横浜の三渓園へもっていって何かやっているんですよ。八月は、かなりそうして録音を 河辺 一二年(三寸)から録音ニュースを始めていますからね。そのころには使ったろうと思うんだ。 一二年の夏に浅草へ行って〈夏の風物誌〉をやったんですよ。あれが円板録音機での最初で

ピックアップがはね上がっちゃってね。いくら予行演習をやって撃ってもらっても、さっぱりだめだ。 いまでは笑い草でしょうけれども、ぼくらが録音をやっていた時分は、大砲の音がとれない。

使って九月から海外放送で正式にマルコーニのスチール・テープを使い始めた。

がついてピックアップの針がスッとそこのところを飛んで、うまくこっちへ乗っかる時もある (笑)。 収録して拡大鏡で覗いて見ると線が切れているんですよ。切れているけれどもうまく勢い

ちゃう。

あんまり使わなかった。

る。ほとんどアナウンスみたいなもので、音楽的なものは入らないんですよ。一五年 $\begin{pmatrix} \Box \land \end{pmatrix}$ ごろに、 磁気録音機としてワイヤー式を安立電機で作ってやったんですけれども、あの時分の鋼線は固いせ 河辺 それはマルコーニの機械ですけれども、主として海外放送向けに使った。三〇分録音出来 録音というのは、最初がそういう円板で、ワイヤーになる前に金属のテープがあるでしょう。

〈録音ニュース〉というのがだいぶ活躍をしましたね。

いでしょうか、糸がよりをもどさずにはずれて、中でクルクルとなったままなので、引っぱると切れ

初めはニュースの中へさし込みを始めて、それは一六年(四一)一月ごろでしょう。 さし込みのトップは、南京陥落の発表じゃないですか。これは私が収録にいった。

ツ記者でもあるということだと思う。 い。そうすると外へ出ていく中継係が、いまでいえば、芸能記者でもあり、社会部記者でも、スポ まだ放送記者というものがなかったから、どこの記者クラブにもNHKの人は入っていな

ネルだったかで、大げさな放送をやりましたよ。僕はその時は音を録るため、機関車の頭にくっつい てトンネルを抜けるまでやって、真黒けになっちゃいましたよ。 (笑)。 **河辺** 一五年(≧△)の秋か、一六年(□┤)の初めごろフィルム録音機を列車に乗せて、清水トン

中継を、一日に二回以上やってはいけないとか、労働基準法みたいなことを言ってたね(笑)。

河辺 人手も少なかったし、中継の機械がそんなにないんです。

そういえばマイクを持って、球場から歌舞伎座へすっ飛んだりしていたものね。

、東海道演芸道中〉というのですよ。お江戸日本橋から出発して京都の上がりまで、島浦さんが西の 島浦さんも大阪におられて、いまの〈ふるさとの歌まつり〉の前身みたいなことをやりましたね。

方を担当したんじゃないですか。

中で漫才を使ったり……。 島浦 そうだそうだ。桑名から間の土山とか、 おもな宿場で局のあるところをたどってゆく。 途

地方中継ということになったんですな。あの頃の円板の録音機は重かった。重労働だ、 田舎の方で中継だ、なんていうと、リヤカーで引っ張ってゆくんです。 その流れが戦争になって〈前線に送る夕べ〉だとか 〈銃後に送る夕ベ〉だとかいうことで、 まいったね。

ネズミを食べて取材

えないというので、数本切っちゃった(笑)。 堀場 紀元二六〇〇年(四〇)の式典中継は、 島浦さんのアナウンスでしたね。宮城前の松を、見

えにならない。しょうがないから受閲する団体の名前を蜿々と読み出したんですが、まだお見えに よ。モーニング姿で……。みんなザーッと並んでいる。前説を終わったんだけれども、陛下はお見 ならない。奥屋熊郎課長なんかも側にいて「おい、おい、ハトが、ハトが……」というので、しょう 島浦 大阪の昭和九年 (三四) の大演習の後で、天皇陛下が消防団の御親閲というのをやったんだ しゃべっていたほうからいうと、中継放送というのは実況だから、時間が必ずしもうまくい

私どもの時に一番楽な放送は、靖国神社と観兵式でしたね。そういえば編成部のほうも何

がないから「平和のハトが……」後は云うことがない (笑)。

も文句なしにその時間をピシャッと取るんです。たとえば陛下のご予定をピシャッと取ってしまえ ということで、折衝ごとは何もないわけです。

は、鋼板にして橿原神宮かどこかに埋めてあるそうです。それを二七○○年(≧○)になったら掘り うしたら三○秒刻みの予定をくれましたよ。当日になったらそれがピタッと合うんだ。式場へお出 をにら見ながらやっていたんだが、それがピシャッと一致するんだ。あの時の初日の放送というの お通りになる時間が、何分何一○秒と書いてある。始まってしばらくの間は心配だから、時計と両方 ましになる時に廊下を歩いてこられるんです。そこにすりガラスの窓が、一つあるんですが、そこを 島浦 そういう頭があるから、二六〇〇年 $\left(\stackrel{\square}{\square} \right)$ の時に宮内省でずいぶんねばったんですよ。そ

選手なんか誰だかわからないんですよ。 がった……(笑)。スピードがありますから、間に合わないんだよ。夜だったけど水蒸気がもうもうで、 何もわからない。アナウンサーもわからない。あいつは休んじゃった。あれは何だ。また出てきや 長沢 困ったことは、たんさんあるけれど、かけだしの頃のアイスホッケー中継にはまいったな。

出すんだそうだ。

諏訪湖でやっているでしょう。エッジが氷を切る音とか……。

間 でほんとうに早いですから、てんでだめです。 あれはスケートの時にコーナーでエッジが氷を切る音を取ろうと思ってやったんですが、瞬

放送史に残っているような、成功した中継の例の陰に、いろいろとありますね

そういう音は、わりあいに周波数の高いところが含まれているんですね。中継線を通らな

(, 録音の場合でも円板が甘いですから、入ってもすぐ消えちやうんです。

島浦 長沢君、アッツ島の玉砕の録音は、どこまで行ったの。

音機が、右へ左へガラガラッとなるんです。泣きの涙でしたね。向こうへ行って、ネズミなんかを食 船に積んで流氷がいっぱいある中をぬっていくんですよ。ローリングがものすごくて、その中で録 方が一緒でしたが、占守島、幌筵というところです。なにしろ玉砕した直後ですから、円板録音機を いましたよ。しかし、あれも録音班としては非常に意義があったと思います。 メンバーは、死んだ和田信賢君、金谷良信君 (NHK職員局次長)、それから札幌の技術の若い

ろじゃない (笑)。 ますから、船の中で検査をするということで逓信省の役人が来た。これも酔ってしまって、検査どこ ナウンサーと、仙台のアナウンサーと、僕の三人だけなんですよ。その時は無線機を持っていってい いうやつばかり連れて行ったんですが、みんな酔ってしまって、ピンピンしていたのは、 **河辺** 金華山沖の捕鯨と銀座の二元中継で、やっぱり無線を使ったんです。その時に船に強いと 志村正順ア

切符をよこせとか言ってくる。こっちはまだ若僧ですからブルブルふるえながらNHKの使命か何 じかったね。外へ出ていって放送する場合、何とか組なんていうのは関係があったんじゃないの。 かぶっちゃって、握手して帰ってきたことがありましたね。 島浦 戦前の中継係というのは、なにしろ放送の新しい分野を拓くんだ、という意気込みがすさま ほうぼうにありました。飛行館なんかで中継放送の時に大親分がきて、手伝ってやるから

浅草も除夜の鐘をやりますと、鐘楼を境にあそこは組が高橋組、馬淵組の二つがあるので両

方へ面通しに行くわけです。鐘をつくのは新門辰五郎のほうで、結局三つあるわけなんです。

ŧ±

(二) 幕末・維新期の侠客。江戸町火消しの頭。大名火消しとの喧嘩で名を挙げた・ な作戦によって、なすすべもなく全滅したが、時の軍部はこの戦死を美化して「玉砕」と美化した。 ように、名誉や忠義を重んじて、潔く死ぬことを云うが、実際には、アッツ島では当時の日本軍の無謀 丈夫寧可玉砕、不能瓦全(大丈夫むしろ玉砕すべし、瓦全するあたわず)」による。玉が美しく砕ける 末、五月一九日に玉砕した。ここでいう「玉砕」とは中国の歴史書『北斉書』元景安伝にある言葉「大 また日本軍によるアッツ島への補給や救援に失敗した。そのためは、米軍との一七日間にわたる戦闘の アッツ島はアリューシャン列島に属する島。アメリカ軍はアッツ島の奪回をめざして一九四三年五月 二日に上陸を開始し、日本軍と戦闘を行った。アッツ等を防御していた日本陸軍は十分な兵力もなく、

形からナカミへ

度は何をやるかということに変わってきた。 島浦 戦後になって中継放送もちょっと変わってきたね。それまではやり方の珍しさがあった。今

られるものといった方向に変わってきていますね。 おっしゃるとおりですね。社会の情勢を写した内容が中心になり、実のあるもの、考えさせ

〈街頭録音〉というのは、放送を大衆に解放し、だれでもしゃべらせたという意味で、大変

な番組だったと思うな。

送し、。反響が大きかったので〈街頭録音〉として出した。 いわゆる大衆参加とか、表現の自由ですよ。終戦直後の九月末に〈街頭にて〉というので放

それ以前は、 放送で一般の人の声を出すには許可がいったんですものね

う。三、四年はやっぱり苦難の時代で、後は軌道に乗りました。そうしたらその次はしゃべりたくて しようがないのがいっぱい集まってきて、マイクの取りっこなんだ。しまいには変装してくる (笑)。 した。予告はうんとするから集まることはうんと集まるんですが、マイクを向けるとみんな逃げちゃ べらなくて、サクラを使ったり、デパートの中まで追っかけて行って無理してしゃべってもらったり **島浦** そういう意味で放送の影響が直接問題になったのは〈社会探訪〉だと思うんだ。あれはしま それを解放して、だれでもしゃべってもらおうというんでやったんだけれども、みんなしゃ

に悪かったんです。ですからたとえば一キロぐらい離れたところでもわざわざ線を引っ張っていた。 ては困るだろう。何とか自由に動けるようにしようということでした。もう一つは、 たのはわれわれでした。FMの送受信機も作った。作った目的は、マイクのうしろに紐が付いてい キロぐらいだったら、いまのラジオ・マイクで届いちゃうわけですよ。 河辺 コードがついていました。それをいわゆる小さいラジオ・マイクのタイプに一番最初に作っ 中継

いに隠しマイクになったろう。初めの「有楽町のお時」のころは、まだコードがあったね

河辺 **はい。波を一番先に電波監理局へもらいに行った時は、どれでも好きなのを使いなさい(笑)。** 電波もラクにもらえたでしょう。

金華山沖だとか、乗鞍や上高地などからの中継に、そういう手製のFMの中継機を持っていったん です。これがたしか 〈社会探訪〉だとか、 例の〈街頭録音〉だとか、どこへでも動いてやれますから、

21 そんな形でも利用されました。

島浦

ているの……」(笑)。もう発明するものはないだろう。

だから、有名な「有楽町のお時」のときは、最後には線が見つかったものね。「何を引っぱっ

河辺 テレビにはまだまだ出ますね。

テレビの宇宙中継も、考えてみれば中継の方法が変わっただけで、組み立ては同じだ。

一五年九月(四○) に「第一回東亜リレー放送」というのがありましたが、これを考え出した

人は大変に視野が広いと思う。

術的には、もう空も海も山もやれるところまできた。そうなると「後は、どのようにしてそれを簡便 に出来るようにするか」ということになりましょうね。その点で技術者の人たちは、大変勉強をして **長沢** 戦前戦中までは、放送が技術面での可能性みたいなものを求めつづけてきた。その結果、技

熊川 おっしゃるとおりですね。

こられた。

的に可能性を試みたいものがあったとしても、不可能なものがほとんどでしたでしょう。それが終 ただ、残念なことに、終戦までは放送の内容にかなり強い制約があった。したがって、内容 いわゆる放送の民主化、大衆化ということで、内容面での革新が出来るようになり、い

ままでの中継放送を一歩すすめた、あたらしい形の番組がでてきた。

終わった。そうなると戦後の混乱を収拾し、民主化の意味を啓蒙し、そしてみんなで身のまわりの問 かすような道程をへて発展してきた。そして技術が一応のレベルにきた時に、戦争が起こり、そして 放送とくに中継放送は、いわば臨場感といったものによって、聴取者を楽しませ、時には驚

変化してゆくわけだ。それにスピードをかけたものとして、小型の録音機やシンプルで効率的な中 題を考える手立てに放送がどう働かなくてはならないか、という中味を重視する方向で、 中継番組が

継方式がでてくるんです。

Ē

(一) 「ラクチョウのお時」 の元締めをしていた。 は、 戦後東京・有楽町にいたパンパン (娼) の通称で、約五百人いたパンパン

着て、髪は黄色のバンドで束ね、顔は美しく端正で、肌は透き通るように白く、唇は真っ赤に塗って ド下の娘たち」が放送された。お時の容姿は、「背が高く、水兵風の濃紺のズボンと薄紫のセーターを 一九四七年四月二二日の『街頭録音』での、アナウンサーの藤倉修一によるお時のインタビュー ・「ガー

お時はインタビューで次のように述べ、大きな反響を呼んだ。 **¯そりゃ、パン助は悪いわ、だけど戦災で身寄りもなく職もない私たちはどうして生きていけばいい**

戻ってくるじゃないの。世間なんていいかげん、私たちを馬鹿にしてるわ」 にして送り出してやったわよ。それがみんな(涙声)いじめられ追い立てられて、またこのガード下に けたって、世間の人はあいつはパン助だって指さすじゃないの。私は今までに何人も、ここの娘を堅気 の、好きでこんな商売をしている人なんて何人もいないの、それなのに苦労して堅気になって職を見つ

のことは同曲のヒットのきっかけのひとつになった。 またお時は、放送の中でパンパンの間で流行していた歌謡曲「星の流れに」の一節を口ずさんだ。こ

送されると知らず、マーケットのおでん屋でラジオから流れる自分の声を聞いて驚いたと伝えられて 同番組は大掛かりな隠し録りで録音が行われたため、インタビューを受けていたお時は自分の声が放 あまりにも荒んだ様子の声と話しぶりを客観的に聞いた事でショックを受け、 更生を決意する。

ショックを受けたのは本人だけでなく、当時のラジオ聴取者に大変な衝撃を与え、ラクチョウのお時と いえば夜の女の代名詞のようになっった。

『放送夜話』(日本放送協会編、 日本放送出版会、一九七〇年九月) 所収。

原文の旧字は新字改めた。

旧仮名使いは、新仮名使いに改めた。

西洋人名については、通行のものに改めた。

原著にはないが、理解を助けるために、「二・二六事件蹶起趣意書」(Ξm)、「兵に告ぐ」(go)。 **「国防保安法」(頁二)、「終戦の詔勅」(二頁)などを付け加えた。**

理解を助けるために二種類の註を付した。比較的短い註は割註に、

長いものは各節末にまとめ

PDF 化には I4TEX 2ε でタイプセッティングを行い、dvipdfmx を使用した。

ておいた。